

2023 年度

シラバス

(講 義 概 要)



埼玉純真短期大学

履修系統図

専門教育科目

※1 選択必修
※2 1・2年にまたがる
※3 卒業必修

保育士

▼ 必修	▼ 選択
子ども家庭福祉	保育実習Ⅱ(保育所) ※1
子ども家庭支援論	保育実習指導Ⅱ ※1
子ども家庭支援の心理学	保育実習Ⅲ(施設) ※1
子どもの理解と援助	保育実習指導Ⅲ ※1
子どもの食と栄養	カウンセリングⅡ
乳児保育Ⅰ	
乳児保育Ⅱ	
子どもの健康と安全	
特別支援保育	
社会的養護Ⅱ	
子育て支援	
保育実習Ⅰ(保育所)	
保育実習指導Ⅰ(保育所)	

共通科目

▼ 必修	▼ 選択
保育内容(環境)指導法	音楽Ⅲ
保育内容(言葉)指導法	音楽Ⅳ
保育内容(音楽表現)指導法	
保育内容(造形表現)指導法	
保育内容(身体表現)指導法	
保育内容応用指導法	
教職実践演習(幼) ※3	
保育実践演習 ※3	

幼稚園教諭

▼ 必修
学校経営と管理
幼児教育方法論
教育相談と幼児理解
教育実習(幼稚園)Ⅰ ※2
教育実習(幼稚園)Ⅱ

2
年

1
年

社会福祉	カウンセリングⅠ
保育原理	
社会的養護Ⅰ	
子どもの保健	
保育内容総論	
保育実習Ⅰ(施設)	
保育実習指導Ⅰ(施設)	

幼児教育者論 ※3	教職教養演習Ⅰ
教育原理 ※3	教職教養演習Ⅱ
こども学 ※3	
育ちと学びの心理学 ※3	
教育課程と保育の計画・評価	
保育内容(健康)指導法	
保育内容(人間関係)指導法	
特別支援教育 ※3	
保育者のための社会人基礎講座	
子どもと健康 ※3	
子どもと人間関係 ※3	
子どもと環境 ※3	
子どもと言葉 ※3	
子どもと表現 ※3	
音楽Ⅰ	
音楽Ⅱ	

教育実習(幼稚園)Ⅰ ※2

教養教育科目

▼ 必修	▼ 選択
入門ゼミⅠ ※3	英語コミュニケーションⅠ ※3
入門ゼミⅡ ※3	英語コミュニケーションⅡ ※3
日本語表現Ⅰ ※3	生涯スポーツ・レクリエーションⅠ ※3
日本語表現Ⅱ ※3	体育講義・女性のからだと健康 ※3
心理学入門 ※3	コンピュータ基礎演習Ⅰ
日本国憲法 ※3	
	ボランティア概論
	ボランティア実習
	手話
	暮らしと環境
	ふるさと学
	コンピュータ基礎演習Ⅱ
	生涯スポーツ・レクリエーションⅡ
	レクリエーション概論
	キャリアデザイン
	異文化理解



学園設立の目的

本学園は時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある女性を訓育する目的として設立されたものである。従って、次の学園訓を掲げる。

学園訓

気品

人を魅了し、良き師、良き友を得て、
お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる
精神性の高さを行動すること

知性

広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、
物事の本質を見定め、考え、判断し、
節度を持った行動をすること

奉仕

多くの人に支えられていることに感謝し、
利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる
志に準じて行動すること

ディプロマ・ポリシー

本学は「気品・知性・奉仕」の学園訓（建学の精神）に基づき、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成すること」を使命としています。この学園訓の具現化を意図して教育課程を編成しています。この教育課程における単位認定基準（知識・技術・態度等の達成度）によって認定された単位が卒業要件を満たし、かつ、社会人、職業人として自覚と責任を持った行動ができると判断した学生に学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー

本学は「こども学科」単科の大学で、保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目的としていることから、本学の学園訓に則り、次のことを意図して教育課程の編成と授業展開をしています。

- ①「愛情」「健康」「明るさ」など保育者としての基本的資質の上に、保育・教育に必要な専門的知識と技術の修得を確実なものとするため、理論と実践の科目をバランス良く配置するとともに、社会人として職業人としての責任を自覚し、広い視野で行動できるように科目を設けている。
- ② 子どもを取り巻く環境に興味と関心の目を向け、豊かな知識と技術に裏付けられた責任感や行動力を備えた保育者を目指し、問題発見や問題解決に積極的に取り組む意識と能力を養成するため、アクティブ・ラーニング方式で学ぶ科目を多く配置している。
- ③ 現代的諸問題に常に関心を持ち、社会の問題を自己の問題として捉え、考え、地域に貢献できる保育者となれるよう、外部講師招聘・キャンパス外での授業、地域の子供達と交流を深める授業など多角的な授業展開ができるような科目を配置している。

アドミッション・ポリシー

本学の学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の精神を理解し、「健康にして、良識ある人格高き社会の指導的人物を養成し、地域の発展に寄与する」という教育目標に応え、積極的に学び意欲と自らを高める努力を怠らない人物で、本学において学びたいという強い意志と意欲を持った人物を求めます。

- ① 子どもの教育や保育に関わる仕事に就きたいと考える人
- ② 子どもを取り巻く環境や問題に興味や関心が高い人
- ③ 教育や福祉問題に関心を持ち、地域社会に貢献したいと思う人

埼玉純真短期大学こども学科における学習成果

ディプロマポリシーに基づき、本学こども学科の学習成果を以下のとおり定めます

- ① 保育に必要な専門的知識や技術を身につけ、それを活用して実践することができる
- ② 保育者としての使命を自覚し、資質向上、専門性向上のために常に自己研鑽を積むことができる
- ③ 相手を思いやる気持ちを持ち、良好な人間関係を構築するための協調性やコミュニケーション能力をもつことができる
- ④ 子どもを取り巻く環境の問題などを積極的に捉え、地域社会へ貢献できる

学習成果評価指標

学習成果を評価・検証するために、次のような評価指標を定めています

- 1) 機関レベル（大学）
学生の卒業時での学習成果の達成状況（就職率、資格取得、卒業時アンケート調査など）を検証する。
検証結果は、本学の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に活用する。
- 2) 教育課程レベル（学科）
こども学科での学習状況（修得単位数、資格取得状況、GPA、退学率、学生生活アンケート調査など）から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を検証する。
- 3) 授業科目レベル（各科目）
シラバスに示された授業科目の到達目標への達成状況（成績評価、学生授業アンケートなど）から科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。（科目の成績評価は、科目特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した評価方法で行う。）

	入学時 (アドミッション・ポリシーを 満たす人材かどうか)	在学中 (カリキュラム・ポリシーに 則って学習が進められて いるかどうか)	卒業時 (ディプロマ・ポリシーを 満たす人材になったか どうか)
機関レベル (大学)	- 入学前面談 - 入学試験 (調査書・活動報告書・面接票)	- 修得単位数 - GPA 得点 - 実習評価（保育・教育） - 学生生活アンケート - 退学率、休学率	- 学位授与数 - 資格取得数（率） - 就職先（進学先） - 卒業時アンケート - 就職先アンケート
教育課程 レベル (学科)	- 入学前面談 - 入学試験 (調査書・活動報告書・面接票) - 入学前教育 (プレカレッジ) - 入学生アンケート	- 履修状況 - 授業外学習状況 - 定期試験 - 修得単位数 - GPA 得点 - 人財チェックシート - 実習審査日本語表現テスト - 純真検定 - 教職課程履修カルテ - 実習評価（保育・教育） - 実習巡視報告書 - 学生生活アンケート - 個別面談 - 退学、休学状況	- 学位授与数 - 資格取得数（率） - 就職率（進学率） - 卒業時アンケート - 就職先アンケート
授業科目 レベル (各科目)	入学前教育 (プレカレッジ)	- 出席率 - 学習成果到達度 (ループリック評価) - 小テスト・課題など評価 - 定期試験成績評価 - 学生授業評価アンケート - 評価に関するコメント	- 卒業時アンケート - 就職先アンケート

（本学はこども学科単科のため、機関レベルと教育課程レベルの項目は重複する。）

目 次

I . 1年生履修科目	1－ 50
II . 2年生履修科目	51－ 98

I.1年生履修科目

入門ゼミⅠ	布施 由起		1
	久米 隼		
	小澤 俊太郎		
	原口 政明		
入門ゼミⅡ	布施 由起		2
	久米 隼		
	小澤 俊太郎		
	原口 政明		
日本語表現Ⅰ	山畑 昭司		3
日本語表現Ⅱ	山畑 昭司		4
心理学入門	島村 光		5
ボランティア概論	久米 隼		6
ボランティア実習	久米 隼		7
手話	今西 理枝子		8
暮らしと環境	久米 隼		9
ふるさと学	藤田 利久		10
日本国憲法	高乗 正臣		11
英語コミュニケーションⅠ	後藤 範子		12
英語コミュニケーションⅡ	後藤 範子		13
コンピュータ基礎演習Ⅰ	小松 和弘		14
コンピュータ基礎演習Ⅱ	小松 和弘		15
生涯スポーツ・レクリエーションⅠ	澤井 朱美		16
生涯スポーツ・レクリエーションⅡ	澤井 朱美		17
体育講義・女性のからだと健康	金 美珍		18
キャリアデザイン	藤田 利久		19
異文化理解	鈴木 一代		20
	藤田 利久		
社会福祉	泉水 祐太		21
保育原理	三友 玲子		22
幼児教育者論	塚越 亜希子		23
社会的養護Ⅰ	高橋 努		25
教育原理	藤田 利久		26
	原口 政明		
こども学	久米 隼		27
育ちと学びの心理学	加藤 達矢		28
子どもの保健	竹内 麻貴		29

教育課程と保育の計画・評価	花島 慶子		30
保育内容総論	三友 玲子		32
保育内容(健康)指導法	金 美珍		33
保育内容(人間関係)指導法	中山 初枝		34
特別支援教育	布施 由起		35
保育者のための社会人基礎講座	藤田 利久		36
子どもと健康	金 美珍		37
子どもと人間関係	布施 由起		38
子どもと環境	花島 慶子		39
子どもと言葉	細田 香織		40
子どもと表現	小澤 和恵		41
	小澤 俊太郎		
	伊藤 えつ子		
	小日向 千秋		
音楽Ⅰ	小澤 俊太郎		42
	瀬戸 奏		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	田口 琴巳		
	野本 裕美子		
音楽Ⅱ	小澤 俊太郎		43
	瀬戸 奏		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	田口 琴巳		
	野本 裕美子		
カウンセリングⅠ	布施 由起		44
教職教養演習Ⅰ	山畑 昭司		45
教職教養演習Ⅱ	山畑 昭司		46
保育実習Ⅰ(施設)	高橋 努		47
	久米 隼		
保育実習指導Ⅰ(施設)	高橋 努		48
	久米 隼		
教育実習(幼稚園)Ⅰ	花島 慶子		49
	塚越 亜希子		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	花島 慶子		50
	塚越 亜希子		

Ⅱ.2年生履修科目

レクリエーション概論	金 美珍	51
子ども家庭福祉	原口 政明	52
学校経営と管理	山畑 昭司	53
子ども家庭支援論	久米 隼	54
子ども家庭支援の心理学	加藤 達矢	55
子どもの理解と援助	原口 政明	56
子どもの食と栄養	波田野 尚美	57
保育内容(環境)指導法	塚越 亜希子	58
保育内容(言葉)指導法	細田 香織	59
保育内容(音楽表現)指導法	小澤 和恵	60
保育内容(造形表現)指導法	小日向 千秋	61
保育内容(身体表現)指導法	金 美珍	62
保育内容応用指導法	小澤 和恵	63
	瀬戸 奏	
保育内容応用指導法	小澤 俊太郎	64
保育内容応用指導法	小日向 千秋	65
幼児教育方法論	花島 慶子	66
	塚越 亜希子	
乳児保育Ⅰ	加藤 房江	68
乳児保育Ⅱ	加藤 房江	69
子どもの健康と安全	竹内 麻貴	70
特別支援保育	伊藤 えつ子	71
社会的養護Ⅱ	高橋 努	72
	久米 隼	
子育て支援	高橋 努	73
音楽Ⅲ	瀬戸 奏	74
	浅見 彩賀	
	小川 弥輪	
	田口 琴巳	
	野本 裕美子	
音楽Ⅳ	瀬戸 奏	75
	浅見 彩賀	
	小川 弥輪	
	田口 琴巳	
	野本 裕美子	
カウンセリングⅡ	布施 由起	76
教育相談と幼児理解	原口 政明	77
教職実践演習(幼)	小澤 和恵他	78
保育実践演習	小澤 和恵	79
保育実践演習	小澤 俊太郎	80
保育実践演習	加藤 房江	81
保育実践演習	金 美珍	82
保育実践演習	久米 隼	83
保育実践演習	瀬戸 奏	84
保育実践演習	高橋 努	85

保育実践演習	塚越 亜希子		86
保育実践演習	花島 慶子		87
保育実践演習	原口 政明		88
保育実践演習	布施 由起		89
保育実践演習	三友 玲子		90
保育実習Ⅰ(保育所)	加藤 房江		91
	三友 玲子		
保育実習指導Ⅰ(保育所)	加藤 房江		92
	三友 玲子		
保育実習Ⅱ(保育所)	加藤 房江		93
	三友 玲子		
保育実習指導Ⅱ	加藤 房江		94
	三友 玲子		
保育実習Ⅲ(施設)	高橋 努		95
保育実習指導Ⅲ	高橋 努		96
教育実習(幼稚園)Ⅰ	花島 慶子		97
	塚越 亜希子		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	花島 慶子		98
	塚越 亜希子		

I . 1 年 生 履 修 科 目



卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 入門ゼミⅠ ナンバリング：1001				単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名： 布施由起，久米隼， 小澤俊太郎，原口政明	
						担当形態：クラス分け	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 大学で学ぶ意義と学び方を知り、実践することができる。							
2. 学園訓である「気品」「知性」「奉仕」を理解し、具体的な行動指針を意識して大学での学びと生活に活かすことができる。							
3. 人として保育者として必要となる教養を身につけることができる。							
授業の概要							
本学における2年間の生活と学びの基礎として、建学の精神の理解や学修の基礎と基本を学ぶ。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション・大学で学ぶ意義				授業ごとに予習・復習、課題			
第2回：図書館の利用方法・文献の読み方				に取り組むこと（1時間）			
第3回：学校行事の企画と運営（自分の役割を果たし協力し合う）							
第4回：自己分析-どんな自分になりたいか				※毎回「必修漢字」のテストを			
第5回：ボランティアについて				行うので学習しておく。			
第6回：情報モラルとメディア・リテラシー							
第7回：金融教育について（お金と経済の仕組みを学ぶ）							
第8回：学外研修（マナーを身につける）							
第9回：学外研修（ホスピタリティを学ぶ）							
第10回：安全と健康について							
第11回：大学での研究方法について							
第12回：レポート作成の方法							
第13回：日本の伝統文化を学ぶ①							
第14回：日本の伝統文化を学ぶ②							
第15回：これまでの学びを通し具体的な行動指針を設定する							
定期試験：レポート							
授業の方法							
講義とディスカッション、発表。発表や提出物に対し、それぞれの気づきを共有できるように教員がコメントする。							
テキスト 特に指定しない。適宜プリント等を配布する。							
参考書・参考資料等							
課題に関する資料をプリント等で配布する。							
学生に対する評価							
課題・提出物（50％）、発表内容・授業参加態度・学びの成果（ポートフォリオ）など（50％）を総合的に評価する。							
履修上の注意							
社会人としてのマナーを身につけるため、毎回の授業はスーツで参加すること。							
授業内で実習に必要な漢字テストを行うのでしっかりと予習をすること。							
真摯な態度で授業に臨むこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 入門ゼミⅡ ナンバリング：1002					単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名： 布施由起，久米隼， 小澤俊太郎，原口政明
							担当形態：クラス分け
授業の到達目標及びテーマ							
1. 本学での学習、生活を一層充実させるために、自己の目標に向けた学び方を習得し、実践できる。							
2. 将来、本学の出身者として「気品」「知性」「奉仕」の精神をしっかりと身につけた一人の社会人として活躍することができるよう、生涯にわたる《自分磨き》の方法を学び、実践できる。							
3. 問題意識を高め、情報収集力と発信力を身につけることができる。							
授業の概要							
自己の目標に向けた学び方を習得するとともに実践に移せるようにする。また、本学の建学の精神を理解し実体のある行動として表現できるようにする。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：問題解決の方法①						毎回の授業のテーマに関する調査と課題（1時間）	
第2回：問題解決の方法②							
第3回：自己分析-自分の強みを理解し、さらなる課題を見つける							
第4回：学校行事の企画と運営 (自分の役割を果たし協力し合う)						企画・立案（30分）	
第5回：学校行事の企画と運営 (準備から終了まで行事を遂行する力をつける)						振り返り（30分）	
第6回：社会人基礎力を身につける①						毎回の授業のテーマに関する調査と課題（1時間）	
第7回：社会人基礎力を身につける②							
第8回：保育・教育の現状と課題①							
第9回：保育・教育の現状と課題②							
第10回：「読める・書ける・話せる」ために①							
第11回：「読める・書ける・話せる」ために②							
第12回：プレゼンテーションの方法						プレゼンテーションの準備と振り返り（1時間）	
第13回：プレゼンテーションの実践①							
第14回：プレゼンテーションの実践②							
第15回：プレゼンテーションの実践③						レポート作成（2時間）	
定期試験：レポート							
授業の方法							
講義とディスカッション、発表。発表や提出物に対し、それぞれの気づきを共有できるよう教員がコメントする。							
テキスト							
特に指定しない。適宜プリント等を配布する。							
参考書・参考資料等							
課題に関する資料をプリント等で配布する。							
学生に対する評価							
課題・提出物(50%)、発表内容・授業参加態度・学びの成果（ポートフォリオ）など（50%）を総合的に評価する。							
履修上の注意							
社会人としてのマナーを身につけるため、基本的にスーツで参加すること。							
何よりも真摯な態度で授業に臨むこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 日本語表現Ⅰ ナンバリング：1003					単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育者になるために必要な国語表現技術を身に付け、実践に生かすことができる。 2. 多様な語彙や表現を知り、他者に伝えることを意識して文章を書くことができる。 3. 自らの学びを言語化する「振り返り」を行うことで、学びの内省を図り、実践に生かすことができる。							
授業の概要 二年後に保育者となることを想定し、どのような日本語力が求められるか考え、それらを意識した上で実践力を培う。また保育者に必要な漢字・敬語・文章表現の力を、繰り返し学習する中で身に付ける。							
授業計画 第1回：保育者に求められる日本語力とは 第2回：辞書の使い方と辞書の面白さについて 第3回：日本語検定 過去問にチャレンジ 第4回：実習日誌に使う漢字（50問） 第5回：漢字小テスト、敬語について（概要） 第6回：漢字・敬語小テスト、敬語（尊敬語） 第7回：漢字・敬語小テスト、敬語（謙譲語） 第8回：漢字・敬語小テスト、敬語（会話文） 第9回：漢字・敬語小テスト、間違いやすい漢字（50問） 第10回：漢字小テスト、SNSと手紙の違いとは 第11回：漢字小テスト、美しく丁寧な字の書き方 第12回：表現を意識して学校宛に暑中見舞いを書く〔下書き〕 第13回：表現を意識して学校宛に暑中見舞いを書く〔清書〕 第14回：文章表現の基本 第15回：実習日誌の意義と書き方のポイント 定期試験：筆記						授業時間外の学習 ＜毎回1時間程度＞ ・復習を兼ねた、小テストに向けての学習	
授業の方法 講義と演習（ディスカッション・グループ活動）を組み合わせで行う。 小テストや、授業後に提出するプリントには、コメント等を入れて返却する。							
テキスト 『保育者になるための国語表現』 田上貞一郎著、萌文書林							
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。							
学生に対する評価 小テスト（20%）、提出物・発表（20%）、試験（60%）を判断して評価する。							
履修上の注意 ・主体的に学習に臨むこと。 ・出席と授業参画は当然のことと自覚しておくこと。							
実務経験の有無		有	実務経験		元公立中学校国語科教諭 元県教育局教育事務所国語科担当指導主事		
実務経験を活かした教育内容 国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 日本語表現Ⅱ ナンバリング：1004				単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 「話す」「聞く」「書く」「読む」を中心に、保育にかかわる実践的な日本語力を身につけることができる。							
2. 保育者として必要な文章の書き方や表現の基本的事項について学び、他者に伝わる文章を書くことができる。							
3. 漢字、敬語、文法、文章表現について、保育者として必要な力を身に付けることができる。							
授業の概要							
保育者に求められる「他者が読んで分かりやすい文章の書き方」や、発声・発音の仕方等について演習し、様々な観点から保育者に求められる日本語力を高める。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：保育者の発声と自己紹介の方法、自己紹介実践				＜毎回1時間程度＞ ・復習を兼ねた、小テストのための学習 ・相互読み聞かせの練習			
第2回：前期の幼稚園実習日誌を用いた学習①							
第3回：前期の幼稚園実習日誌を用いた学習②							
第4回：他者の書いた実習日誌から学ぶ（グループワーク）							
第5回：実習日誌から拾い出した、間違いやすい漢字について							
第6回：実習で間違えが多かった漢字小テスト							
第7回：絵本の読み聞かせについて							
第8回：実践で使う敬語、適切な表現とは							
第9回：漢字・敬語・適切な表現 小テスト、同音異義語							
第10回：事実と意見を分けて書く方法							
第11回：連絡帳の書き方							
第12回：実習審査（文章表現）テスト							
第13回：四字熟語・慣用句							
第14回：施設実習日誌の書き方とポイント							
第15回：復習とまとめ							
定期試験：筆記							
授業の方法							
講義と演習（ディスカッション・グループ活動）を組み合わせで行う。 毎回の提出プリントは確認の後、赤ペンを入れて返却する。							
テキスト 『保育者になるための国語表現』 田上貞一郎著、萌文書林							
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。							
学生に対する評価 提出物（小テスト含む）・発表（40％）、試験（60％）を判断して評価する。							
履修上の注意 ・主体的に学習に臨むこと。 ・授業の最初に2人ずつ相互読み聞かせを行う。担当学生は必ず下読みをして準備すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元公立中学校国語科教諭 元県教育局教育事務所国語科担当指導主事	
実務経験を活かした教育内容 国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 心理学入門 ナンバリング：1005				単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：島村光 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 心理学の基礎知識を身につけることができる。							
2. 心理学の基本的な諸概念を理解できる。							
3. 心理学の視点から、人間の行動を理解し説明することができる。							
授業の概要							
心理学の基本的な知識を学び、保育の現場で活用な思考・方法を身につける。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：オリエンテーション、心理学とは何か（概説）							
第2回：様々な心理学①						・授業内で配布するプリントの	
第3回：様々な心理学②						復習。（毎回1時間程度）	
第4回：様々な心理学③							
第5回：様々な心理学④							
第6回：復習・ディスカッション						・講義内で学習した知識につい	
第7回：発達①						て、実生活で検証を行う。	
第8回：発達②							
第9回：発達③							
第10回：復習・ディスカッション							
第11回：心理学の活用①							
第12回：心理学の活用②							
第13回：心理学の活用③							
第14回：復習・ディスカッション							
第15回：まとめ							
定期試験：筆記試験							
授業の方法							
講義形式で授業を行う。毎回小テストを実施し、適宜フィードバックする。							
テキスト 指定なし。適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
・『セラピストのための子どもの発達ガイドブック:0歳から12歳まで 年齢別の理解と心理的アプローチ』（著）Dee C.Ray（訳）小川裕美子，湯野貴子，子どものプレイセラピー研究会							
・「0歳～6歳子どもの社会性の発達と保育の本」湯汲 英史 Gakken保育Books							
学生に対する評価							
小テスト（40％）、定期試験（60％）							
履修上の注意							
授業ごとに小テストを実施します。授業の理解度の確認に役立てること。							
実務経験の有無		有		実務経験		臨床心理士、公認心理師、スクールカウンセラー、教育相談員	
実務経験を活かした教育内容 実務経験を活かし、実践的知識を含む講義を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：久米隼	
ボランティア概論		選択科目		(半期) 講義		担当形態：単独	
ナンバリング：1006							
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 自らの考えで様々な問題に取り組むことがボランティア活動であることを知る。							
2. 自身の興味や関心で、自分の時間や環境の範囲でできる活動であることが理解できる。							
3. 社会で起きている問題に関心を持ち、考え、行動することができる。							
授業の概要							
ボランティアの意義や歴史、種類（領域）、課題等の基本的な事柄を学び、自ら課題を見つけ、調べ、まとめ、発表する活動を行い、ボランティア活動を理解する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション（なぜボランティアを学び、取り組むのか）				・毎回の講義について復習し、学			
第2回：ボランティアの定義・動機				びや気づきの整理、課題などに取			
第3回：ボランティアの理念・思想				り組む（授業ごとに1時間程度）			
第4回：ボランティアの活動・意義							
第5回：社会問題のとらえ方①（社会問題とはなにか）							
第6回：ボランティア事例検討：児童虐待防止の市民活動				・中間レポート（書評）および最			
第7回：ボランティア事例検討：遊び場づくりの市民活動				終レポート（振り返り）の執筆を			
第8回：社会問題のとらえ方②（ビブリオバトル）				行うにあたり、文献調査や調べ学			
第9回：ボランティアと関係機関				習等を行う（レポートごとに3時			
第10回：ボランティアとNPO				間程度）			
第11回：地域社会におけるボランティアの実践を知る（羽生市）							
第12回：ボランティアをPDCAサイクルで考える							
第13回：活動時の注意事項（ルールやマナー、ボランティア保険）				※その他、それぞれの居住してい			
第14回：まとめ				る市町村にあるボランティアセ			
第15回：振り返り				ンターなどに訪ねるなど、実際に			
定期試験：筆記				現場へ行くことも推奨する。			
※学生の関心にあわせて、授業期間中にゲスト講師を招聘することも想定している。							
授業の方法							
基礎的な項目は講義を行い、その後、調べ学習・討議・発表形式で進める。基本的に毎回の講義ごとにリアクションペーパーや課題レポートでフィードバックを行う。授業のまとめ感想をグループワーク資料として使用する。							
テキスト 「これだけは理解しておきたいボランティアの基礎」 日本橋出版							
参考書・参考資料等 「モヤモヤのボランティア学」 昭和堂 他 適宜紹介							
学生に対する評価							
定期試験（20％）・提出物（40％）・授業参画度等（20％）・活動報告（20％）を総合的に評価。							
※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意							
・ボランティアの意味から、自ら積極的に学習し、ボランティア活動に取り組むこと。							
・学びを実践につなげるため実際にボランティアとして最低でも1回以上、活動に参加するように努めること。							
・授業は学生主体で自分自身の考えや意見を述べるためにも、事前・事後学習が重要である。							
実務経験の有無		有		実務経験		現場実践や中間支援組織でボランティア支援・推進 等	
実務経験を活かした教育内容							
非営利組織（NPO）等の運営や活動に携わった実践経験をいかし、具体的事例をもとに授業をする。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： ボランティア実習 ナンバリング：1007		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：1単位 (半期) 実習		担当教員名：久米隼 担当形態：単独	
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. ボランティアとは何かを知り、なぜするのか、どのようにするのか、そのための具体的な取り組みはどのように行うのか（活動の立案、安全な実施、終了後の自己評価、次への改善）をボランティア活動を通して「ボランティア活動とは何か」を体験的に理解できる。							
2. ボランティア活動を行う中から、自らのボランティア観で行ったボランティア体験の中からその過程や結果が発信できる。							
3. ボランティア活動の意義を自らの経験から説明し、未経験者にアドバイスができる。							
授業の概要							
参加したボランティア活動についての計画・活動・検証・反省などの発表・討議を中心に授業を構成する。また、実習の事前・事後指導が重要と考えて講義とグループワークで行う。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：どのようなボランティア活動があるかを知る。				毎回の授業計画に合わせ、次のような学習を1時間程度			
第2回：ボランティア活動参加から報告までの手順を理解する。							
第3回：様々なボランティア団体と、その目的を知る。							
第4回：ボランティア活動の状況を調べ、特徴を知る。				・図書館やインターネットでの調べ学習			
第5回：ボランティア活動の計画と実施①				・市役所(役場)に聞いたり、			
第6回：ボランティア活動の計画と実施②				本学の掲示板やインターネットでボランティアをさがす。			
第7回：ボランティア活動の計画と実施③				・団体等とアポをとる			
第8回：ボランティア活動の計画と実施④				・必要な書類の準備と記入			
第9回：ボランティア活動の計画と実施⑤				・お礼を兼ねて団体に出向いて証明を受ける。			
第10回：ボランティア活動の計画と実施⑥				・実施後「活動の記録(1)(2)」を作成・提出する。			
第11回：ボランティア活動の計画と実施⑦							
第12回：ボランティア活動の計画と実施⑧							
第13回：自身のボランティア活動を整理、成果発表・コメント							
第14回：自身のボランティア活動を整理、成果発表・コメント							
第15回：自身のボランティア活動を整理、成果発表・コメント							
定期試験：レポート・意見発表							
授業の方法							
講義形式とグループワーク形式の併用型授業で行う。毎回の授業で実習までの経過発表や体験発表を行う。活動への参加は、教員から指導を受けてボランティア活動先を探し、事前にボランティア活動計画書と所定の「ボランティア参加許可願」を提出する。ボランティアを実施する過程で「活動の記録(1)(2)」を作成し、プレゼンテーションする。プレゼンテーション後、ディスカッションをとおしてフィードバックを行う。							
テキスト 「これだけは理解しておきたいボランティアの基礎」 日本橋出版							
参考書・参考資料等 「モヤモヤのボランティア学」 昭和堂 他 適宜紹介							
学生に対する評価 活動内容の記録 (50%)・活動発表 (30%)・授業参画度等 (20%) による。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意							
ボランティア実習を履修する学生は、「ボランティア概論」の履修の単位取得が必須条件である。実習総時間数24時間のボランティア活動が期限までに終了出来ないときは不合格となるので、計画的にできるだけ早い時期の実施に留意する。教員との「相談・連絡・報告」が重要となる。							
実務経験の有無		有		実務経験		現場実践や中間支援組織でボランティア支援・推進 等	
実務経験を活かした教育内容							
非営利組織 (NPO) 等の運営や活動に携わった実践経験をいかし、具体的事例をもとに授業をする。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 手話 ナンバリング：1008		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名： 今西理枝子 担当形態：単独	
科 目		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ 1. 手話で会話ができる。 2. 聴覚障害者を理解できる。 3. 手話について説明ができる。							
授業の概要 視覚的にものをとらえる工夫や様々な手段を使い伝えることを学び手話の基本を身につける。							
授業計画 第1回：自己紹介をしてみようⅠ 第2回：自己紹介をしてみようⅡ 第3回：あいさつをしてみよう 第4回：手話がわからなかった時 第5回：数字や時間の表現を覚えよう 第6回：趣味のことを話そう 第7回：行きたい場所の表現方法を覚えよう 第8回：特別講義「聴覚障害者の生活」 第9回：病気やけがで困ったとき 第10回：お天気と乗り物の表現を覚えよう 第11回：買い物とお金の表現を覚えよう 第12回：ろう者の生活を知ろう 第13回：災害に関する手話を学ぼう 第14回：反対語を覚えよう 第15回：今まで学んだ手話を活かして話してみよう 定期試験：読み取り・筆記				授業時間外の学習 予習・復習に1時間程度の時間が必要である。 ・事前に自己紹介やあいさつの内容を考えておく。授業後は練習をする。 ・事前に自分の趣味や行きたい場所について考えておく。授業後は練習をする。 ・特別講義を踏まえて、聴覚障がい者の生活の実態について気になることを調べる。 ・天気、乗り物、買い物、お金の表現について練習する。 ・災害が起こって時に聴こえない人たちとの関わりかたについて学ぶ。 ・これまで習った手話を思い起こし、話す練習をする。			
授業の方法 手話演習							
テキスト 今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう！」 発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟							
参考書・参考資料等 「私たちの手話」発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟							
学生に対する評価 定期試験の成績（80％）及び受講態度等（20％）を判断して評価する。							
履修上の注意 ① 手話は目で見る言語です。私語を慎み、講師の手の動き、顔の表情に集中して授業を受けること。 ② 授業中は、頭の中にある日本語の文法や音声を忘れ、手話を手話のまま受け止めることに集中する。 ③ 「わかる/わからない」といった意思表示は、目で見える形ではっきり示すこと。							
実務経験の有無		有	実務経験		准看護学校、埼玉県通訳養成講習会、羽生市手話講習会		
実務経験を活かした教育内容 通訳養成等の講師経験を活かし聴こえない人とのコミュニケーションができる様に指導する。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 暮らしと環境 ナンバリング：1009		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：久米隼 担当形態：単独	
科 目		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 現代社会の暮らしや生活と、親と子を取り巻く環境について探求し、その意義を理解できる。 2. 地域社会に根づく暮らしや環境が子どもの育ちに与える影響を理解できる。 3. 講義や現地調査で得た知見を発表し、自らの考えを説明することができる。							
授業の概要							
親と子を取り巻く暮らしや環境について理解するためには、「地域」や「生活」そのものを理解しようとする必要がある。そのため、本講義では歴史・社会・自然・文化といった様々な視点から地域における生活から、そこに住まう人々の暮らしと環境を分析し、生活に及ぼす影響、特に子どもの育ちに及ぼす影響について考察を深めていく。							
授業計画				授業時間外の学習			
第 1 回：オリエンテーション・本講義の目標と概要説明				・本授業では「暮らし」をテーマに扱う。日常の生活を題材に、調査研究活動を行うため、意識的に情報収集などに努めること。			
第 2 回：暮らしを理解する①「住まい」から考える							
第 3 回：暮らしを理解する②「地域」から考える							
第 4 回：研究テーマの設定とグループ分け							
第 5 回：見学・現地調査①に向けた準備				・現地調査にあたり各回 1 ～ 2 時間程度の事前準備を要する。			
第 6 回：見学・現地調査①（大学キャンパス）							
第 7 回：見学・現地調査①の振り返り／②に向けた準備							
第 8 回：見学・現地調査②（羽生市内外の公共空地等）				・調査レポート及び最終レポート並びにグループ発表にあたり、文献調査や資料の分析を行う（課題ごとに 3 時間程度）。			
第 9 回：見学・現地調査②の振り返り／③に向けた準備							
第 1 0 回：見学・現地調査③（羽生市内外の公共空地等）							
第 1 1 回：見学・現地調査③の振り返り／全体振り返り							
第 1 2 回：見学・現地調査結果の整理と分析							
第 1 3 回：報告資料の作成とプレゼンテーションの準備							
第 1 4 回：調査研究成果の発表							
第 1 5 回：総括							
定期試験：レポート							
授業の方法 講義、見学・現地調査（各自で移動できることが条件）・個人及びグループによる発表を行う							
テキスト 講義の中で紹介する。							
参考書・参考資料等		笹尾和宏「PUBLIC HACK：私的に自由にまちを使う」学芸出版社，2019.					
学生に対する評価							
レポート（20%）、グループ発表（30%）、授業内課題・意欲態度（50%）を総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意							
本授業は、集中講義期間に開講する（具体的な開講日は掲示板にて確認すること）。主に羽生市内外での見学・現地調査を行う（各自が交通手段を使って集合し、参加できることを履修条件とする）。見学・現地調査の詳細は、オリエンテーション時に説明する。一部で材料費などが必要となることがある。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： ふるさと学 ナンバリング：1010		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：藤田利久 担当形態：単独	
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 郷土（地域）に関心を持ち、郷土を知る方法を身につけることができる。 2. 郷土を資料などで調べ、理解する態度を身につけることができる。 3. 郷土の識者に話を積極的に聴くなど地域の教育力を借りる態度を身につけることができる。 4. 授業の体験を通して、郷土の教育資源を保育・教育に活かす術を身につけることができる。							
授業の概要							
"Think global, act local" や"Think globally act locally" の標語をよく目にする。日本を築いた明治の偉人はまさにこれを実行した人々だと考えられる。皆さんが子どもたちに保育を通して人間教育をする場合に、地域の人々や歴史・行事などの知識と理解は強い味方になると言える。 授業では郷土を見て、聴いて、知って、考え、伝えることを通して、身近な郷土や人々を愛し尊敬することをとおして地域の教育資源を教育・保育に活かすことができるようにする。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方と学生との約束事確認） 第2回：故郷を学ぶことの必要性和意義（埼玉の偉人紹介含む） 第3回：埼玉を知ろう（過去と現在と未来） 第4回：羽生を知ろう（羽生の歴史と文化財） 第5回：羽生を知ろう（羽生の未来） 第6回：熊谷を知ろう（熊谷と文化） 第7回：熊谷を知ろう（熊谷と過去と未来） 第8回：行田を知ろう（行田という町） 第9回：行田を知ろう（行田の歴史と文化） 第10回：加須を知ろう（加須の文化） 第11回：加須を知ろう（加須という町） 第12回：グループ分け、発表準備） 第13回：グループ分け、発表準備 第14回：グループごとのプレゼンテーション 第15回：グループごとのプレゼンテーション 定期試験：レポート				(事前事後学習は毎回 90 分程度) ・この授業では、外部から講師を招いて行うので、事前学習は必須となる。 ・次週の講演予定の地域・分野についての調べ、A4用紙（PCで作成）で提出をすること。 ・施設見学や現地での講義では、必ずメモを取り、学習したことをまとめること。 ・見学当日は、メモ帳・カメラ等を持参して記録するとともに、事前に質問事項を用意しておくこと。 ・これらをもとにパワーポイントでプレゼン資料を作成する。			
授業の方法							
地域の方々を講師として招いての講座や施設見学などの活動を中心に行う。各回フィードバックテストを行う。相手の都合により講義日が変更となったり、連続講義（学生と相談の上）とする場合もある。							
テキスト 『地域学の可能性』 彩の国さいたまひとづくり広域連合							
参考書・参考資料等 その都度、紹介する。							
学生に対する評価：授業参画度（授業後レポート含む）（50％）、発表（30％）、プレゼン(PPTで）（20％）等 総合的に評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。							
履修上の注意							
この授業は自分の目で見て、耳で聴いて、行動して、体験的に学ぶことが中心となるので、事前に学生と相談しながら予定を決め、場合によっては連続講義となる。そのため、授業予定が変更となる場合もあり、交通費や見学科・材料費などの自己負担分が発生する場合もある。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択		
授業科目名： 日本国憲法 ナンバリング：1011					単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：高乗正臣 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ								
1. 日本国憲法が採用する立憲主義の考え方を理解できる。								
2. 日本国憲法の基本原理を理解し、物事を法的・論理的に考える力(Legal mind)を修得できる。								
3. 基本的人権の意味と性質、人権保障の基本原則とその制約原理について説明できる。								
授業の概要 権力制限規範としての憲法の意義について説明し、日本国憲法の基本原理、特に保育者として理解しておくべき人権保障の意義と限界について出来るかぎり具体的事例を題材として解説する。								
授業計画						授業時間外の学習		
第1回：法学の基礎—法とは何か、法の目的と役割、法と道德との差異						・事前にテキストを熟読しておくことはもちろん、新聞、雑誌、インターネットなどを通して、次の授業のテーマについて資料を集め、自分の見解や疑問点を整理しておくこと。予習には2時間程度の時間が必要である。		
第2回：憲法の基礎—わが国の法のしくみ、憲法と法律の差異								
第3回：保育をめぐる法律問題—不法行為と責任、故意と過失								
第4回：人権とは何か—人権と基本権の差異、人権の種類と性質								
第5回：外国人の人権保障—政治活動の自由と社会権、公務就任権								
第6回：子どもの人権—子どもの権利条約、幼児虐待と法律								
第7回：保育判例の解説①—園児の踏切死亡事故と保育士の責任								
第8回：新しい人権—プライバシーの権利、輸血拒否と自己決定権、						・授業のあと、保育者として人権問題について憲法の視点から意見を述べられるようノートを整理しておくこと。復習には1時間程度の時間が必要である。		
第9回：法の下での平等—相対的平等と合理的差別、判例の解説								
第10回：保育判例の解説②—園児の熱中症死亡事故と保育士の責任								
第11回：最低限度の生活を営む権利—生存権の種類と性質、判例								
第12回：教育を受ける権利—権利の性質、教育権の所在、判例解説								
第13回：保育判例の解説③—体調不良園児と保育者の安全配慮義務						・保育・教育に携わる者として憲法の意味を考え、自分の意見を述べられるよう準備しておくこと。		
第14回：統治のしくみ—国会、内閣、裁判所、違憲法令審査制の意義								
第15回：総括—憲法、法律は弱者のために								
定期試験：筆記								
授業の方法 原則として毎回授業で取り上げたテーマに関する「小テスト」を実施する。重要なテーマについてはレポートを課し次の授業の際に提出を求め、これにコメントを記して返却する予定である。								
テキスト								
『保育者のための法学・憲法入門』 高乗正臣(成文堂、令和2年)								
参考書・参考資料等 必要に応じて、プリント、資料を配付する。								
授業では、毎回、受講者全員に学習用の『法学六法』(信山社)を貸与する。								
学生に対する評価 定期試験の成績(60%)、小テスト・レポートの成績(20%)、授業中の質疑応答、発言、朗読、発問等(20%)を判断して評価する。								
履修上の注意 常に自分は将来保育者になるという自覚を持って授業に取り組み、細かいところまでノートを取り積極的に発言・質問すること。								
実務経験の有無		無		実務経験				
実務経験を生かした教育内容								

	卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 英語コミュニケーションⅠ ナンバリング：1012			単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：後藤範子 担当形態：単独
授業の到達目標及びテーマ				
1. 基礎的な英語で、相手とコミュニケーションができるスキルを身に付けることができる。				
2. 保育士 / 幼稚園教諭としてのコミュニケーションに必要な「共感力」や「自己発進能力」を身に付けることができる。				
授業の概要				
授業は、講義形式と演習形式で構成されている。講義形式の授業では、文法事項、重要語句の解説を行い、リーディングとライティングの能力向上を目指す。次に演習形式の授業では、ロールプレイングやカードゲーム・英語の歌等を取り入れ、リスニングとスピーキング能力の向上を目指す。さらに、1年生であることを鑑み、構内施設設立の「思い」を英語によって調査し発表することにより、英語力向上及び、保育士 / 幼稚園教諭としてのマインド育成に寄与する。				
授業計画			事前・事後学習	
第1回：オリエンテーション・「コミュニケーションとは?①」			(授業時間外学習 1時間以上)	
第2回：「コミュニケーションとは?②」 演習 純真短期大学の「思い」を理解しよう 柳 裕 説明			・授業前は、1時間程度の予習が必要である。各Unitの英文の音声を繰り返し聞き英文を音読し、わからない単語を調べておくこと。	
第3回：「コミュニケーションとは?③」 演習 埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 調査準備				
第4回：演習 埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 発表準備				
第5回：演習 埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 発表				
第6回：テキスト『英語で学ぶ オフィスコミュニケーション』 Greeting a visitor 来客受付				
第7回 Making a visitor comfortable 来客案内				
第8回： Receiving incoming calls 電話を受ける			・授業後は、1時間程度の復習が必要である。各Unitの講義内容を復習すること。また、英文の聞き取りと、音読を行うこと。各課ごとのフィードバックテストに十分に備えること。	
第9回： Making outgoing calls 電話をかける				
第10回： Making a reservation 予約をする				
第11回： Giving messages 伝言を知らせる				
第12回： Scheduling スケジュール管理				
第13回： A job interview at the office 就職面接を受ける				
第14回：「コミュニケーションとは④」& テキストめまとめ				
第15回：テキストの復習				
定期試験：筆記試験				
授業の方法：講義(基礎知識)と演習(ロールプレイング、カードゲーム)など学生主体で行う。このため事前学習が重要である。学生が積極的に英語を使って会話をするを中心とする。常活動として英語の歌を扱う。				
テキスト：『英語で学ぶ オフィスコミュニケーション』 藤田利久他 西文社& 配布プリント				
参考書・参考資料等 適宜指示する。				
学生に対する評価				
小テストの成績 (30%)、定期試験の成績 (30%)、授業参画度 (40%) を総合的に判断して評価。				
履修上の注意指定教科書、辞書を毎回持ってくる。授業前に教科書の英文の音声を繰り返し聞き、聞き取り能力を高め、積極的にロールプレイングやカードゲームに参加すること。わからない単語は意味を調べておくこと。毎回授業に出席し、積極的な姿勢で参加すること。				
実務経験の有無	有	実務経験	元高等学校外国語科教諭	
実務経験を活かした教育内容				
外国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、英語力の向上を図る。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ ナンバリング：1013				単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：後藤範子 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 簡素な英語表現で簡単な会話ができる程度の会話力を身につけることができる。 2. 就職先園で必要となる基本的英会話を習得し、子どもや保護者と簡易な会話ができる。 3. 誰とでも恐れず簡単な英会話でコミュニケーションする態度を身につけることができる。							
授業の概要							
授業は、講義形式と演習形式で構成されている。授業では、英会話の基礎を学び、基礎的英会話力養成を目指す。次に英語での日常場面を想定し、ロールプレイングやカードゲーム等を取り入れ、主に英会話力の向上を目指す。							
授業計画						(授業時間外学習 1時間以上) ・グループワークが主なので1時間程度の予習が必要。事前資料の英文を音読し、単語の意味を調べておく。 ・授業後は1時間程度の復習が必要である。復習が次の予習ともなる。また、英文は事前・事後に何度も音読すること。耳と口と目で覚えること。	
第1回：Orientation オリエンテーション、会話で使う基本表現							
第2回：英語Ⅰの復習（来客・電話対応のセリフを作ろう）							
第3回：園の遊具や文具を覚えよう							
第4回：初対面の挨拶・保育所・幼稚園の1年間の行事							
第5回：保育所・幼稚園での活用(朝の挨拶～昼食)							
第6回：保育所・幼稚園での活用(朝の挨拶～昼食)							
第7回：英語で昔ばなしや絵本を読もう 日本語訳							
第8回：英語で昔ばなしや絵本を読もう 日本語訳							
第9回：保育所・幼稚園での活用(午後の教室～お帰りの挨拶)							
第10回：保育所・幼稚園での活用(午後の教室～お帰りの挨拶)							
第11回：英語で歌おう (Songs for Children) 日本語訳							
第12回：英語で歌おう (Christmas Songs) 日本語訳							
第13回：保育者の1日 (スケジュール表作成)							
第14回：保育の1日のシナリオを作ろう・卒園を迎えて							
第15回：保育の1日を演じてみよう							
定期試験：筆記試験							
授業の方法							
講義(基礎知識)と演習(ロールプレイング、カードゲーム)など学生主体で行う。このため事前学習が重要である。学生が積極的に英語を使って会話をするを中心とする。単元終了時フィードバックテスト実施。帯活動として英語の歌を扱う。							
テキスト『英語で学ぶ オフィスコミュニケーション』藤田利久他 西文社 & 配布プリント							
参考書・参考資料等 適宜指示する。							
学生に対する評価							
小テストの成績 (30%)、定期試験の成績 (30%)、授業参画度 (40%) を総合的に判断して評価。							
履修上の注意							
There is no royal road to learning. ギリシャ数学者ユークリッドがエジプト王に話したという故事。英語などの習得には日々の努力が重要である。積極的にロールプレイングやカードゲームに参加すること。わからない単語は意味を調べておくこと。事前・事後の学習が向上の秘訣である。授業では毎回出席し、積極的な姿勢で参加すること。							
実務経験の有無		有	実務経験		元高等学校外国語科教諭		
実務経験を活かした教育内容							
外国科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、英語力の向上を図る。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： コンピュータ基礎演習Ⅰ ナンバリング：1014		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：小松和弘 担当形態：単独	
科 目／系 列		／教養科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		情報機器の操作／外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育園・幼稚園で最低限必要となるコンピュータリテラシーを習得できる。 2. 保育園、幼稚園で使用される、一般的な文書を作成できる。 3. クラウド環境を活用した、データのやり取り方法を習得できる。							
授業の概要							
Word、Excelの基本操作、スマートフォンでのデータの取り扱いや、クラウド環境でのデータの扱い方などのコンピュータリテラシーを習得する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：ガイダンス、授業で使う各種環境設定 第2回：Webメールの基本、携帯でのメール確認、Word：基本操作 第3回：検索サイトのさまざまな検索方法、Word：表組み 第4回：自己紹介シートの作成、Word：画像の扱い 第5回：Word：地図の作成（図形の調整等）、ショートカットキー 第6回：Excel：基本操作、簡単な関数 第7回：Excel：基本的な表・グラフ 第8回：Word：テンプレートを使った文書の作成 第9回：Word：修飾文字の作成、表組に合わせた文書作成 第10回：Word：フォーマル、招待文書の作成 第11回：総合的なドキュメントの作成：基本 第12回：総合的なドキュメントの作成：応用1 第13回：総合的なドキュメントの作成：応用2 第14回：これまでのまとめ 第15回：発表、作品内容の確認 定期試験：実技、レポート				■予習 Web メール、携帯でのメール確認、Word の基本操作、表組み、画像の扱い、Excel の基本操作、関数、表・グラフの作成方法、Word の文書作成、装飾文字の作成、招待文書の作成方法などについて予習。 →各回1時間程度 ■復習 各回、終了後に学習した内容を再度確認する。 →各回1時間程度			
授業の方法 演習、講義。作成した文書等を確認してフィードバックを行う。							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 随時配付							
学生に対する評価 授業態度（50％）、発表（30％）、課題（20％）などを判断して評価する。							
履修上の注意 授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。 授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		企業等へのIT研修実施	
実務経験を活かした教育内容 企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： コンピュータ基礎演習Ⅱ ナンバリング：1015		保育士資格取得のための 選択科目		単位数： 2単位 （半期）演習		担当教員名：小松和弘 担当形態：単独	
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育園・幼稚園・一般企業に就職した際、すぐに実践できる書類の作成技術を習得できる。 2. Word、ExcelやPowerPointに関するコンピュータリテラシーを習得できる。 3. PowerPointで作った資料の効果的な発表方法を習得できる。							
授業の概要 書類作成のコツ、様式、写真・画像操作の応用。基本的なプレゼンテーション方法の習得。							
授業計画 第1回：書類作成（基本の復習）、バックアップ環境の再構築 第2回：書類作成（実践）、Excel：簡単な関数 第3回：書類作成（実践） 第4回：書類作成（実践） 第5回：書類作成（実践） 第6回：PowerPoint 基本操作、装飾・画像、動きのある表現 第7回：PowerPoint 学校案内作成① 第8回：PowerPoint 学校案内作成② 第9回：PowerPoint 学校案内の発表 第10回：PowerPoint 紙芝居作成① 第11回：PowerPoint 紙芝居作成② 第12回：PowerPoint 紙芝居の発表 第13回：PowerPoint オリジナルのストーリー作成① 第14回：PowerPoint オリジナルのストーリー作成② 第15回：PowerPoint オリジナルのストーリーの発表 定期試験 実技、レポート				授業時間外の学習 ■予習 Word の操作、文書作成、Excel の操作法などについて予習。 →各回1時間程度 ■復習 各回、終了後に学習した内容を再度確認する。 →各回1時間程度			
授業の方法 演習、講義。作成物を確認し、フィードバックを行う。							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 随時配付							
学生に対する評価 授業態度（50％）、発表（30％）、課題（20％）などを判断して評価する。							
履修上の注意 授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。 授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。							
実務経験の有無		有	実務経験		企業等へのIT研修実施		
実務経験を活かした教育内容 企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 生涯スポーツ・レクリエーションⅠ ナンバリング：1016				単位数：1単位 (半期) 実技		担当教員名：澤井朱美	
						担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 生涯スポーツ，レクリエーションスポーツの各種目を体験し，ルールを理解することができる。 2. 自分が「できる」だけでなくスポーツを通して周りとのコミュニケーションを取ることの重要性を理解することができる。 3. 新しいスポーツに触れる楽しさや難しさを通して，生涯スポーツの意味や重要性を考えていくことができる。							
授業の概要							
健康の維持・増進のために取り組むことのできるスポーツを知ること，ならびに「動く」ことに対する人体への関心・理解を深めることを主目的とする。また，本授業を通して，周りとの協力することやコミュニケーションをとることの重要性を身につけ，生涯スポーツ・レクリエーションスポーツとは何か，について考えていく。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：オリエンテーション，アイスブレイク							
第2回：体力・形態の測定と評価						・体力，形態測定の方法と原理について学んでおく（1時間）。	
第3回：アダプテッドスポーツ①ブラインドサッカー基礎（1）							
第4回：アダプテッドスポーツ①ブラインドサッカー基礎（2）							
第5回：アダプテッドスポーツ①ブラインドサッカー実践							
第6回：バドミントン 基礎						・バドミントン，卓球，バレーボール，バスケットボールのルールおよびゲームの展開について学んでおく（各1時間）。	
第7回：バドミントン 応用（ゲーム）							
第8回：卓球 基礎							
第9回：卓球 応用							
第10回：ドッジボール							
第11回：バレーボール 基礎							
第12回：バレーボール 応用							
第13回：アダプテッドスポーツ②シッティングバレー基礎・応用						・アダプテッドスポーツと障がい者スポーツ，パラスポーツの違いと種目について学んでおく（1時間）。	
第14回：バスケットボール 基礎							
第15回：バスケットボール 応用							
定期試験：レポート							
授業の方法 講義（教室）ならびに体育館での実技，グループ対戦。							
テキスト なし（必要な資料は適宜配布する）							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する							
学生に対する評価							
授業態度・参画度（10%），授業内での小レポートの提出（30%），期末レポート（60%）の総合評価とする。							
履修上の注意 運動着と運動シューズ（内履きスニーカー）を持参・着用の上，参加すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		競技指導者	
実務経験を活かした教育内容							
地域スポーツクラブで幼稚園～小学生を対象とした体操教室での指導経験を活かし，技術習得のための段階的指導方法や手順を身に付けることのできる授業を展開する。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 生涯スポーツ・レクリエーションⅡ ナンバリング：1017		教員の免許状／保育士資格 取得のための選択科目		単位数：1単位 （半期）実技		担当教員名：澤井朱美 担当形態：単独	
科目／系列		／教養科目					
施行規則に定める科目区分 又は事項等／教科目		／体育					
授業の到達目標及びテーマ 1. 様々な種目を体験し、ルールを理解することができる。 2. スポーツを通して楽しさや課題の発見を仲間とともに取り組むことができる。 3. 新しいスポーツへの体験を通して、自分だけでなく人に指導する際の能力（伝え方や段階的指導方法）を学習することができる。							
授業の概要 健康の維持・増進とスポーツの関与性を学ぶと共に、競技スポーツとして親しまれている以外のスポーツについてもチャレンジし、取り組んでいく。また、本授業を通して、周りと協力することやコミュニケーションをとることの重要性を身に付け、生涯スポーツ・レクリエーションスポーツとは何か、について考えていく。							
授業計画 第1回：オリエンテーション、アイスブレイク 第2回：フィットネストレーニング（エアロビックダンス） 第3回：ハンドボール 基礎 第4回：ハンドボール 応用 第5回：タグラグビー 基礎 第6回：タグラグビー 応用 第7回：テニス 基礎① 第8回：テニス 基礎② 第9回：テニス 応用 第10回：ドッジビー 基礎 第11回：ドッジビー 応用 第12回：バドミントン 応用 第13回：バレーボール 応用 第14回：ユニホッケー 基礎 第15回：ユニホッケー 応用 定期試験：レポート				授業時間外の学習 ・フィットネストレーニングの種類と代表的なトレーニングメニューについて学んでおく（1時間） ・エアロビクスとは何か、また、基本のステップについて学んでおく（1時間） ・ハンドボール、タグラグビー、テニス（軟式）のルールとゲーム展開について学んでおく（各1時間） ・ニューススポーツの一つであるユニホッケーやドッジビーのルールおよびゲーム展開について学んでおく（各1時間）			
授業の方法 講義（教室）ならびに体育館での実技、グループ対戦							
テキスト なし（必要な資料は適宜配布する）							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する							
学生に対する評価 授業態度・参画度（10%）、授業内での小レポートの提出（30%）、期末レポート（60%）の総合評価とする。							
履修上の注意 運動着と運動シューズ（内履きスニーカー）を持参・着用の上、参加すること							
実務経験の有無		有		実務経験		競技指導者	
実務経験を活かした教育内容 地域スポーツクラブで幼稚園～小学生を対象とした体操教室での指導経験を活かし、技術習得のための段階的指導方法や手順を身に付けることのできる授業を展開する。							

[illegible]

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：藤田利久	
キャリアデザイン		選択科目		(半期) 演習		担当形態：単独	
ナンバリング：1020							
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. キャリアにおいて、身につけるべき知識や技術を明らかにすることの重要性が理解できる。							
2. 人生の中核をなす職業キャリアデザインに必要な社会人基礎力を身につけることができる。							
3. 男女共同参画社会で、社会人・職業人としての見識を深め生涯マップを描くことができる。							
授業の概要： このキャリアデザインでは、まず自分自身を知り、生涯を通じた自分の生き方（働き方・社会貢献など）を設計し、実行し、豊かな人生を構築する考え方とスキルを学んでいく。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション・キャリアデザインとは何？				(事前事後学習：1時間以上)			
第2回：キャリアのデザインの必要性とは何？				予習、復習には1～2時間			
第3回：キャリアのデザインの必要性（グループワーク・発表）				程度の時間が必要である。			
第4回：自分を知ろう（できること、やりたいことなど）				授業はグループワークや			
第5回：自分のこれまでを振り返ろう（楽しかったことなど）				発表を中心に実施するので、			
第6回：キャリアプランシートを作ろう（入学から卒業まで）				毎回の事前学習や事後学習が重			
第7回：キャリアプランシートを作ろう（卒業から50歳まで）				要である。			
第8回：キャリアプランシートをグループ内で発表				2～3回目：第1回の授業からキ			
第9回：社会人基礎力とは何？（その1）				ャリアデザインがなぜ必要かを			
第10回：社会人基礎力とは何？（その2）				考えレポートにする。			
第11回：男女共同参画社会で、どのような働き方をを目指すか？				4～7回目：自分自身のこれまで			
第12回：男女共同参画社会で、どのような働き方をを目指すか（発表）				を振り返り、自身の特徴や長			
第13回：どのような社会人・職業人（保育者）を目指すか？GW				所などを探し出し、キャリアマ			
第14回：どのような社会人・職業人（保育者）を目指すか？発表				ップを作成する。			
第15回：まとめ				9～10回目：社会人基礎力とは			
定期試験：レポート				何かを調べておく。			
				11～14回目：自身の未来を設計			
				図としておく。			
授業の方法：県内短大が女性教育会館との連携でおこなうプログラムを利用。宿泊研修となる場合もある。							
授業は学生主体のグループワークやプレゼンテーションで行う。学生は疑問などが生じた場合には自ら調べ							
メンバーと話し合い、さらに教員へ質問するなど、自らが行動することを中心とする。授業にはゲストも招							
いて女性と職業についての話を聞く機会も設ける。その都度フィードバックを行う。							
テキスト 『キャリアデザイン入門』 大久保幸夫著、日本経済出版本部							
参考書・参考資料等 プリント配布。キャリアに関する書籍等は授業でその都度提示する。							
学生に対する評価 : 授業参画度（40%）、課題レポート（30%）、資料作成（10%）、発表（20%）を							
判断して評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。							
履修上の注意							
集中講義のため1日連続で授業が行われる学生主体の授業である。（日程については学生と相談）							
このため事前準備は必須であり、欠席はしないこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		民間会社 総務・人事担当	
実務経験を活かした教育内容 採用・教育・定着対策などの経験を活かした授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 異文化理解 ナンバリング：1021		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名： 鈴木一代、藤田利久 担当形態：複数	
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 異文化を理解する重要性を認識できる。 2. 日本文化（自文化）と異文化の共通点と相違点を認識し、理解ができる。 3. 日本文化（自文化）を発信するための知識や考え方、技法を習得できる。 4. 文化の多様性を理解し、他文化の受容への積極的取り組みができる。							
授業の概要							
この授業では、アジア（主にインドネシア・バリ）の文化をとりあげ、日本の文化と比較することにより異文化理解についての基礎知識や態度を学ぶ。また、異なる文化の理解を通して日本文化（自文化）をさらに深く理解する。その一環として、バリの大学（日本語学科）のインドネシア人学生とオンラインで国際交流（日本語）をおこなうとともに、インドネシア語の簡単な日常会話（挨拶など）も学ぶ。 なお、希望者は、連携協定を締結しているインドネシア・バリ州のマハサラスワティ大学と国立ガネシャ教育大学や幼児教育機関等への交流を目的とする海外研修に優先的に参加することができる。 ※コロナの状況により、海外研修が困難な場合は、オンラインによる海外研修をおこなう。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション				(毎回 60～90 分)			
第2回：文化とは：異文化とはなにか、自文化とはなにか				日常生活のなかで、テレビや新聞記事・Webサイトなどを通して、異なる文化的背景をもつ人々や子どもたちへの理解を深める。授業内容の理解やオンライン交流での意見交換に必要である。			
第3回：グローバル化社会の多様な人々と問題点				Webサイトや書籍などで各自が興味をもつ国の文化、歴史、教育、言語などについて積極的に調べる。それを基に発言することで、グループワークが成立する。			
第4回：日本の教育現場における外国人の子どもとその親の理解				※海外研修では、自文化の誇りと他文化への尊敬の気持ちを持って接することが重要である。そのため、事前に、日本の伝統文化（茶道や舞踊など）の練習をする。			
第5回：異文化接触とカルチュア・ショック							
第6回：異文化間コミュニケーション							
第7回：文化と人のこころ1：自己と文化、集団主義と個人主義							
第8回：文化と人のこころ2：偏見、ステレオタイプ、差別							
第9回：文化的アイデンティティ（国際結婚の子どもを例に）							
第10回：インドネシア学生とのオンライン交流1—自己紹介							
第11回：インドネシア学生とのオンライン交流2—地理・自然環境							
第12回：インドネシア学生とのオンライン交流3—文化・歴史							
第13回：インドネシア学生とのオンライン交流4—若者の日常							
第14回：バリ文化の理解：グループワーク（発表準備）							
第15回：バリ文化の理解—グループワーク（発表）まとめ							
定期試験：レポート							
授業の方法 ・講義、グループワーク、オンライン国際交流、可能ならば海外研修旅行を実施する。 ・各回簡単なフィードバックテストを行う。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する。							
参考書・参考資料等 オリエンテーションの際、授業中に適宜紹介する。							
学生に対する評価：授業参加態度（50%）、発表（20%）、レポート（30%）を総合的に評価する。 目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。							
履修上の注意							
・オンライン国際交流の実施等のため、授業計画は多少変更になることがある。 ・海外研修旅行への参加には、費用が発生するため、保護者の理解と了承が必要である。詳細はオリエンテーションあるいは授業中に説明する。海外研修旅行実施については、保護者説明会を開催する。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 社会福祉 ナンバリング：2101		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：泉水祐太 担当形態：単独	
系 列		保育の本質・目的に関する科目					
教科目		社会福祉					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。							
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。							
3. 社会福祉における相談援助について理解する。							
授業の概要							
現代社会の子ども家庭福祉の意義や歴史的変遷を通し、子どもの人権を擁護することを理解する。また、子どもの家庭福祉の制度や実施体系を知り、現代社会の現状と課題、今後の動向・展望を理解し、家庭の福祉の在り方を学ぶ。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷				授業前に必ずテキストを一読しておくこと。 また、新聞記事やニュース等から社会福祉に関する記事（特に児童福祉）を読む習慣をつけること。 福祉に関する公的なデータを調べ、現状について理解を深めるよう努める。 予習、復習については毎回30分～1時間くらいが必要である。			
第2回：社会福祉の一分野としての児童家庭福祉							
第3回：児童の人権擁護と社会福祉							
第4回：家庭支援と社会福祉							
第5回：社会福祉の制度と法体系							
第6回：社会福祉行政と実施機関							
第7回：社会福祉施設等							
第8回：社会福祉の専門職・実施者							
第9回：社会保障および関連制度の概要							
第10回：相談援助の意義と原則							
第11回：相談援助の方法と技術							
第12回：社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ							
第13回：少子高齢化社会への対応							
第14回：地域福祉推進とネットワーク							
第15回：社会福祉の諸外国の動向							
定期試験：筆記							
授業の方法 テキストを中心に授業を展開し、グループ討議や調べ学習を基にしたの発表などを行う。小テスト、発表に対しコメントしてフィードバックをする。							
テキスト 『子どもの未来を育む社会福祉』野島正剛、大塚良一、田中利則ミネルヴァ書房							
参考書・参考資料等 授業内で適宜配布する。							
学生に対する評価							
筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価する。							
履修上の注意							
・授業前に、テキストを一読してまとめておくこと。							
・模擬授業等を行うので、提出物等は期限内に提出すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		児童養護施設（心理士）	
実務経験を活かした教育内容							
実務の現場での様子や考え方を教授する。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：三友玲子	
保育原理		必修科目		(半期) 講義		担当形態：単独	
ナンバリング： 2103							
科 目		保育の本質・目的に関する科目					
教科目		保育原理					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育の意義及び目的や保育に関する法令及び制度を理解できる。							
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解できる。							
3. 保育思想と歴史的変遷や保育の現状と課題について理解できる。							
授業の概要							
保育の意義、保育所保育指針における保育の基本について理解した上で、保育の目的・内容と方法の基本について理解を深める。保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題についても理解し、考察できるようにする。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション・保育理念と概念							
第2回：保育の社会的役割と責任				① 事前学習：1～2時間			
第3回：子ども・子育て支援新制度				・授業前に必ずテキストや参考書を一読しておくこと。			
第4回：保育の実施体系							
第5回：保育所保育士指針に基づく保育				・新聞記事やニュース等から			
第6回：保育の目標と方法				子どもに関する記事を読む癖をつけること			
第7回：保育における養護・乳児保育							
第8回：保育の内容：3歳未満の保育				・保育に関する公的なデータ			
第9回：保育の内容：3歳以上の保育				を調べ、現状について理解を深めるようにする。			
第10回：子どもの理解に基づく保育の過程							
第11回：諸外国の保育思想と歴史				・グループワークに必要な資料を事前の学習でまとめておくこと			
第12回：日本の保育の思想と歴史							
第13回：諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題							
第14回：グループワーク（保育の現状と課題について）				② 事後学習：1時間			
第15回：発表（課題解決にむけて）				・配布されたレジュメはファイルし、復習しておく。			
定期試験：レポート、課題等							
授業の方法 講義・演習グループワーク等を取り入れ、適宜小テストを行い授業の定着を図る							
テキスト 『改訂版 Workで学ぶ保育原理』 佐伯一弥 企画・著 わかば社							
参考書・参考資料等							
『幼稚園教育要領解説』（最新版）文部科学省、『保育所保育指針解説』（最新版）厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省							
学生に対する評価 ルーブリックを活用し、評価を行う。							
授業内提出物（20%）、小テスト（20%）、課題（20%）、発表（20%）、受講態度（20%）							
履修上の注意							
配布されたレジュメはきちんとファイルする。自ら調べ発表するなど積極的姿勢で学ぶこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		元幼稚園教諭	
実務経験を生かした教育内容							
保育者としての経験を活かし、理論をより実践的に学べる授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 幼児教育者論 ナンバリング：2104		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：塚越亜希子 担当形態：単独	
科 目／系 列		教育の基礎的理解に関する科目／保育の本質・目的に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ／保育者論					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育に関する関係法令や現代の社会的課題について学び、保育者の役割や社会的意義について理解できる。 2. 保育者の職務内容や専門性について理解し、保育者になるための自己課題とその解決方法を説明できる。 3. 子どもの育ちを促すうえで、保育者同士・保護者・専門機関・地域住民など様々な人々と協働することの重要性を理解できる。							
授業の概要							
幼児期は、人間形成の基礎がつくられる大切な時期であり、遊びや生活を通した幼児期の様々な体験は、子どもの豊かな感性を育て「生きる力」の土台となる。保育者は、このような人間発達の初期経験に携わる重要な役割を担っている。本講義では、保育を取り巻く社会的変化や課題を捉えたうえで、保育職の社会的意義、保育者の職務内容、保育者に求められる役割や資質能力等について理解を深める。さらに、進路選択に向けた自己課題を確立しそれに向けた解決方法を見出すことで、自己研鑽に励もうとする意欲的な姿勢を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション ー授業の進め方の説明、保育・保育者とは何かー				・教科書を熟読して授業に臨み、授業後は授業内容や自分の考えをノートにまとめて整理しておくこと。			
第2回：保育者の使命と制度上の位置づけ ー法令（教育基本法、学校教育法、児童福祉法など）、保育者の歴史と保育観の変化ー				・図書館の資料、新聞、インターネットなどから、保育を取り巻く社会の現状や課題を調べてまとめること。			
第3回：保育者の服務とマナー ー服務上の規準や倫理要綱、挨拶・言葉遣いなどのマナーー				・児童文化財の作成にあたって、その意義を考えること。また作成後は、優れた発表ができるように各自で練習を重ねておくこと。			
第4回：保育を取り巻く現状と課題 ー統計資料から幼稚園・保育所・認定こども園の実態を読み解くー				・近隣の小学校との連携授業では、各自が責任と自覚を持って教材準備に臨むこと。また交流後は、省察を通して自分の指導や子どもの言動を丁寧に振り返り、その際の気づきをまとめること。			
第5回：保育者の職務内容① ー「保育者」の視点から1日の職務内容を捉える（映像）ー				・本授業での学習内容を踏まえて、自分なりの理想の保育者像をもてるようにすること。			
第6回：保育者の職務内容② ー「子ども」の視点から1日の園生活を捉える（映像）ー				予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。			
第7回：保育者の資質と専門性①：子ども理解と対応 ー子ども理解と即興的対応ー							
第8回：保育者の資質と専門性②：遊びと保育環境の創造 ー児童文化財の作成、保育環境の創造と工夫ー							
第9回：保育者の資質と専門性③：保育計画の立案と実践 ー指導計画、保育の循環（PDCAサイクル）ー							
第10回：保育者の資質と専門性④：成長し続ける保育者 ー職員間の協議と研修の重要性、反省的実践家としての保育者像ー							

第11回：保育者の資質と専門性⑤：協働する保育者 ―子育て支援、専門機関や地域との連携、小学校との接続― 第12回：近隣の小学校との交流準備 ―指導計画の立案と教材準備、児童文化財の発表準備― 第13回：近隣の小学校との交流授業 ―小学生との交流授業、児童文化財の発表― 第14回：近隣の小学校との交流授業の振り返り ―グループで成果発表と協同討議― 第15回：授業のまとめ ―学習の振り返り、理想の保育者像、今後の自己課題と解決方法―		
授業の方法 講義と演習、発表。課題やレポートにコメントを入れて返却する。		
テキスト 『コンパクト版保育者養成シリーズ 保育者論』 矢田貝公昭編 一藝社		
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）		
学生に対する評価 作品・課題（50%）、レポート（25%）、受講態度等（25%）をルーブリックを活用し、総合的に評価する。		
履修上の注意 保育者を志す学生であることを常に意識し、主体的に授業に参加する。		
実務経験の有無	有	実務経験 元幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得等について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身に付けられるよう授業を行う。		

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 社会的養護Ⅰ ナンバリング：2105		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：高橋努 担当形態：単独
系 列		保育の本質・目的に関する科目		
教科目		社会的養護Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 児童福祉施設における保育士の役割や、仕事の内容など「社会的養護」を学ぶ意義を理解できる。 2. 現代の子どもたちがかかえる、虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。 3. 子どもの権利、障害児の実情などを理解できる。				
授業の概要 保育士の活躍する職場は、保育所だけでなく、乳児院、児童養護施設、障害児施設、障害者支援施設等多岐にわたっており、これら施設は、児童福祉法に規定された児童福祉施設として保育士の活躍の場として大きな位置を占めている。これらの施設利用者や施設について理解を深め、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷や制度、実施体系等について学び、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本および現状と課題について理解を深める。				
授業計画 第1回：社会的養護の理念と概念 第2回：社会的養護の歴史的変遷 第3回：子どもの人権擁護と社会的養護 第4回：社会的養護の基本原則 第5回：社会的養護における保育士等の倫理と責務 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：社会的養護の仕組みと実施体系 第8回：社会的養護とファミリーソーシャルワーク 第9回：社会的養護の対象と支援のあり方 第10回：家庭養護と施設養護 第11回：社会的養護にかかわる専門職 第12回：社会的養護に関する社会的状況 第13回：施設等の運営管理の現状と課題 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題 定期試験：筆記			授業時間外の学習 授業前に調べ学習等で事前学習をしっかりと行い、授業に備えること。（毎回2時間） また、特に日頃から児童福祉に関するニュースをチェックしておくことが重要である。（1時間）	
授業の方法 テキストを中心とした、講義形式で授業を行う。 各授業の予習を各自がしっかりと行い、事前の調べ学習、レポート作成等アサインメントの提出が重要である。また、授業ノートをきちんと作成すること。（ノートの提出・提出物を確認してフィードバックする。）				
テキスト 『社会的養護Ⅰ』 公益財団法人児童育成協会 監修／相澤仁、林浩康 編集 中央法規				
参考書・参考資料等 授業内で指示する。				
学生に対する評価 （アサインメント及び小テストは、ルーブリック評価を活用する） 筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価する。				
履修上の注意 ・保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習指導Ⅰ（施設）につながる大切な授業である。 ・施設種別の理解を深めるため、アサインメントなど積極的に調べ学習を行うこと。 ・授業ごとに、小テストを実施。授業の振り返りに役立てること。				
実務経験の有無	有	実務経験	施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		教員の免許状／保育士資格		単位数：2単位		担当教員名：藤田和久、原口政明	
教育原理		取得のための必修科目		(半期) 講義		担当形態：クラス分け	
ナンバリング：2106							
科目／系列		教育の基礎的理解に関する科目／保育の本質・目的に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ／教育原理					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 教育に興味と関心を持ち、教育の基本概念から教育の意義や目的が理解できる。 2. 歴史的観点から教育や学校の変遷が理解できる。 3. 教育者による教育の思想を理解し、子どもと学校・家庭の教育へのかかわりが理解できる。							
授業の概要							
教育とは何か、について教育の歴史や思想において、それらがどのように取り扱われ、幼児教育や学校の役割や営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。このことを踏まえ現代における教育とは何かを考えていく。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション、学園訓と教育、教育原理で学ぶこと				(毎回 60～90 分必要)			
第2回：教育とは何か (目的・意義)				テキストと配布資料を必ず読んでおくこと。			
第3回：教育の変遷 (日本：制度・法・人物)				図書館やWeb サイトで配布課題を調べておくこと。			
第4回：教育の変遷 (西洋：制度・法・人物)							
第5回：教育の拡大と充実 (教育制度と歴史)				教育関連の重要条文を覚えるように事後学習をすること。			
第6回：幼児教育機関と小学校の連携 (現代の教育課題)				現代の教育問題を自分なりに取り上げておくこと。			
第7回：望まれる教師と役割 (歴史的教育家)				課題の人物と業績を調べておくこと。			
第8回：幼児教育に期待されること (家庭や社会と学校の連携)				幼児教育の現代的課題を抜き出しておくこと。			
第9回：現代の教育課題 (100年時代の生涯教育他)				子供の成長と発達に合わせた教育についての考えを書き出しておくこと。			
第10回：子供の理解 (成長と発達)				担当部分の相互教授資料を完成させて、プレゼンテーションの準備をしておくこと。			
第11回：教育の実践 (方法・計画など)							
第12回：「教育とは何か」相互教授 A (4名) とフィードバックテスト							
第13回：「教育とは何か」相互教授 B (4名) とフィードバックテスト							
第14回：「教育とは何か」の模造紙作成 (グループワーク)							
第15回：「教育とは何か」の模造紙発表 (グループワーク)							
定期試験：筆記							
授業の方法：講義とグループワーク (相互教授など) を実施し、学生中心の学習活動を主とする。 その中から湧き出た事例を学生同士で話し合い、さらに教師が回答する形式で授業を進める。							
テキスト 『幼児期から児童期への教育』 国立教育政策研究所編、ひかりのくに株式会社発行							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領 (最新版)、保育所保育指針 (最新版) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント (最新版) 小学校教職課程学生ハンドブック (東京都教育委員会) 教育小六法 (最新版) (市川 須美子編、学陽書房) 他 関連する書籍などは授業中に提示する。							
学生に対する評価：小テスト (10%)・発表資料 (20%)・レポート (30%)・参画度 (20%)・定期試験 (20%) で総合的に評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。							
履修上の注意：アクティブ・ラーニング形式の授業、学生で作りあげる方式の授業なので、事前事後学習を怠らないことや欠席しないことなど、積極的に授業に臨む姿勢と意欲が重要である。							
実務経験の有無		無		実務経験		原口：元中学校教諭・校長、指導主事	
実務経験を活かした教育内容							
実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら授業を行う。							

	卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： こども学 ナンバリング：2201		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：久米隼 担当形態：単独
系 列		保育の対象の理解に関する科目		
教科目				
授業の到達目標及びテーマ				
1. 「こども」についての概念を理解できる。 2. 保育所・幼稚園において展開される日々の活動が「保育のねらい」に基づくものであることの認識を深めることができる。 3. こどもにとって欠かすことのできない「遊ぶ」をはぐくむために保育者としての役割を理解することができる。				
授業の概要				
心理学、社会学、文化人類学等、様々な見地から「こども」を概観し「こどもの文化」を捉えた上で、「昔遊び」など実際に保育で取り入れたい内容を実践的に学ぶ。 また、現代の「こども」を取り巻く問題、保育者の役割や保育の課題等について考える。				
授業計画			授業時間外の学習	
第1回：オリエンテーション・こども学での「学び」 第2回：こども学の領域と子どもという概念 第3回：私がこどもだった頃 第4回：幼稚園教育要領・保育所保育指針から「こども」を考える 第5回：こどもにとって遊びとは 第6回：こどもの遊び①～自然を素材にして遊ぶ 第7回：こどもの遊び②～環境を素材にして遊ぶ（サウンドスケープ） 第8回：こどもの遊び③～廃材を素材にして遊ぶ 第9回：こどもの遊びと文化・伝統・風習 第10回：中間振り返り 第11回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは①～こども理解 第12回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは②～保護者理解 第13回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは③～環境理解 第14回：遊びを学びにつなげる 第15回：保育者として必要な資質とは何か 定期試験：筆記			・毎回の講義について復習し、学びや気づきの整理、課題などに取り組む（授業ごとに1時間程度） ・日頃からこどもと触れ合う機会を多く持ち、また公園等でこどもの様子を意識的に観察することで、自分がこどもだった頃との違いを考えておくこと。	
授業の方法				
講義とグループワークを中心に授業をすすめる。提出物、レポートにコメントを入れてフィードバックする。				
テキスト				
『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館				
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。				
学生に対する評価				
授業内課題・リアクションペーパー(40%)、定期試験（30%）、授業参画(30%)を総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにレーブリックを活用する。				
履修上の注意 目的意識を持って授業に臨むこと。 授業では毎回課題を出す。自分の考えを整理し、自らの言葉で伝える力を身に付けること。				
実務経験の有無	有	実務経験	子育て支援に取り組むNPO組織の運営・実践 等	
実務経験を活かした教育内容				
非営利組織（NPO）等の運営や活動に携わった実践経験を活かし、具体的事例をもとに授業をする。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 育ちと学びの心理学 ナンバリング：2202		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独	
科 目／系 列		教育の基礎的理解に関する科目／保育の対象の理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ／保育の心理学					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論を理解し、幼児教育・保育における発達理解の意義を説明できる。 2. 乳幼児期から青年期における運動、言語、認知、社会性の発達の具体的内容を説明できる。 3. 学習の形態、概念、その過程等、学習に関する基礎的知識を理解しており、乳幼児の発達を踏まえた主体的学習を支える指導の在り方について説明できる。							
授業の概要							
幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期、児童期、青年期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、情緒、自己、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、幼児教育・保育における子どもの発達への援助について考える。さらに、学習の形態、概念、その過程など学習に関する基礎的知識を学び、乳幼児期の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の在り方についても実践的に考えていく。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：幼児教育・保育における発達理解の意義と発達理解の方法 第2回：乳幼児の発達に関わる外的・内的要因と理論 第3回：生涯発達における発達段階と課題 第4回：胎児期・新生児期の発達 第5回：乳幼児期の身体機能、運動機能の発達 第6回：乳幼児期の愛着、情緒、自己の発達 第7回：乳幼児期の言語の発達 第8回：乳幼児期の認知の発達 第9回：乳幼児期の社会性の発達 第10回：児童期の運動、言語、認知、社会性の発達 第11回：青年期の運動、言語、認知、社会性の発達 第12回：成人期から老年期の発達 第13回：乳幼児期の発達と学習ー学習形態、概念、過程ー 第14回：幼児の主体的学習を支える指導とかわわりー動機づけ、集団づくり、学習評価、指導の在り方ー 第15回：個人差や発達課題に応じた指導と援助 定期試験：筆記				・ 授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・ 授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。 ・ 授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。			
授業の方法 講義、グループでの演習やワーク。小レポートにコメントを入れて返却する。							
テキスト なし。授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等 授業において指示する							
学生に対する評価							
授業態度 (30%)、小レポート (20%)、定期試験 (50%)、評価はルーブリックに準じる。							
履修上の注意							
受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		精神科クリニック勤務 (臨床心理士、公認心理師)	
実務経験を活かした教育内容							
精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子どもの保健 ナンバリング：2205		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：竹内麻貴 担当形態：単独
系 列		保育の対象の理解に関する科目		
教科目		子どもの保健		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健、および心身の健康状態とその把握方法について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について理解する。				
授業の概要				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学ぶ。子どもの身体的な発育・発達と保健、及び子どもの心身の健康状態とその把握方法について学ぶ。さらに、子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について学ぶ。				
授業計画			授業時間外の学習	
第1回：子どもの心身の健康と保健の意義 第2回：健康の概念と健康の指標 第3回：子どもの健康に関する現状と保健活動および子どもの虐待 第4回：子どもの身体発育と保健 第5回：子どもの運動機能の発達と保健 第6回：生理機能の発達と保健①ホメオスタシス、バイタルサイン 第7回：生理機能の発達と保健②呼吸器系 第8回：生理機能の発達と保健③循環器系 第9回：生理機能の発達と保健④消化器系 第10回：生理機能の発達と保健⑤睡眠とホルモン 第11回：生理機能の発達と保健⑥脳神経と原始反射 第12回：子どもの病気の特徴～総論・心身の不調等の早期発見 第13回：子どもに多い病気 第14回：子どもの感染症と予防接種 第15回：まとめ 定期試験：筆記試験			予習は、あらかじめ教科書を読んでおく。疑問点が出た場合は書き出しておく。 復習は、授業ポイントをまとめ、理解できなかった点や疑問に思った点は再学習する。解決できなかった疑問点は改めて講師に質問し、解決するよう心掛ける。 日ごろから乳幼児に関する保健や病気に関する報道・記事に意識的に目を向けるようにし、把握するよう心掛ける。またそれに対して自分なりに考える習慣を身に付ける。 課題は提出期限をまもる。 標準学修時間の目安： 講義内容の予習、復習、宿題を含めて120分以上が望ましい。	
授業の方法 ・パワーポイントとホワイトボードを併用し、理解しやすい講義、グループワーク。学生の疑問・質問にはリアクションペーパーも活用し、内容によって個人または全員にフィードバックしてゆく。				
テキスト 『子どもの保健と安全』 高内正子編著 教育情報出版				
参考書・参考資料等 適宜、参考資料を配布、紹介する 「アレルギー対応ガイドライン」「感染症対策ガイドライン」				
学生に対する評価 定期試験の成績（80％）、提出物・小テスト及び受講態度等（20％）で総合評価する。				
履修上の注意 ・日ごろから乳幼児に関する報道（特に保健や病気）を意識的に把握するよう心掛け、対して自分なりに考える習慣を身に付けるとよい。授業中のスマホ操作、写真・動画撮影、通信操作は禁止とする。				
実務経験の有無	有	実務経験	国立医療センター、小児クリニック看護師業務、母子支援NPO	
実務経験を生かした教育内容 看護師、母子支援の経験を、現場で活かせる知識を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択
授業科目名： 教育課程と保育の 計画・評価 ナンバリング：2301		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 （半期）講義	担当教員名：花島慶子	
					担当形態：単独	
科 目／系 列		教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ／保育の計画と評価				
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育・教育課程の意義や編成方法を理解できる。 2. 学校・地域や子どもの実情に応じて、柔軟に指導計画を編成できる。 3. 学校経営において、指導計画の編成（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）という一連のサイクルを推進することの重要性を説明できる。						
授業の概要 保育・教育課程の意義や必要性を理解し、保育実践の具体的事例を基に幼稚園・保育所・認定こども園における保育者の役割について考察を深めていく。指導計画は、保育実践だけでなく責任実習においても不可欠なものとなるため、細かい部分まで思慮に富んだ指導計画を作成していく。また、実際に立てた指導計画に基づき、グループでマイクロティーチングを行うことで、保育を客観的に評価する視野を養うとともに、指導計画を適切に修正していくカリキュラム・マネジメントの意義を実践的に学んでいく。						
授業計画 第1回：オリエンテーション ー授業の進め方の説明、保育・教育課程とは何かー 第2回：保育・教育課程の意義 ー法令（幼稚園教育要領、保育所保育指針等）から読み解くー 第3回：保育・教育課程の歴史的変遷 ー保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の流れと教育観ー 第4回：保育・教育課程の全体構造 ー保育・教育課程の体系化、指導計画の種類と位置づけー 第5回：長期の指導計画 ー子ども主体の指導計画の編成を現職者の保育記録から学ぶー 第6回：短期の指導計画 ー週案と日案の編成方法と具体的事例ー 第7回：部分指導案の編成方法 ー部分指導案の各観点の記載方法と具体的事例ー 第8回：年齢別の部分指導案の編成：乳児 ー乳児の部分指導案の配慮と留意点および作成ー 第9回：年齢別の部分指導案の編成：幼児 ー幼児の部分指導案の配慮と留意点および作成ー 第10回：保育評価の基礎理解 ー保育評価の種類、保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントー 第11回：マイクロティーチングの準備 ー各班で模擬保育のテーマ設定および部分指導案の作成ー 第12回：マイクロティーチングの実施（1回目） ー模擬保育の実践と反省、修正指導案の編成ー 第13回：マイクロティーチングの実施（2回目） ー1回目の修正指導案に基づき、再度、模擬保育の実践と反省ー 第14回：マイクロティーチングの成果発表 ーグループの成果発表と全体討議ー 第15回：授業のまとめ ー学習の振り返り、保育・教育課程の課題と展望ー 定期試験：筆記				授業時間外の学習 ・教科書を熟読して授業に臨み、授業後は授業内容や自分の考えをノートにまとめて整理しておくこと。 ・第8・9回目は、各自が考えた制作やレクリエーションの部分指導案を作成する。そのため、図書館やインターネットなどを活用して、事前に資料を収集しておくこと。 ・第10～第15回目は、円滑な保育実践が行えるように、各グループで討議を重ね、計画的に教材準備や模擬保育の練習を進めること。		
				予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。		

授業の方法 教科書や配布プリントに基づいて、講義、討論、グループワークを行う。模擬保育の準備の中で、図書館やICTを活用し、自主的に課題を遂行する。課題にコメントを入れて返却する。			
テキスト 『教育課程・保育の計画と評価』 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 萌文書林			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）			
学生に対する評価 定期試験の成績（50%）、課題（30%）、受講態度等（20%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。			
履修上の注意 教育・保育課程を編成し指導計画を作成するということは、教育実践における道しるべとして重要な意味をもつ。教育現場に出た際のことを見据え、積極的に講義に参加して欲しい。			
実務経験の有無	有	実務経験	元保育園園長
実務経験を活かした教育内容 保育所での保育経験を活かし、保育現場の実態に即した授業を行う。			

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育内容総論 ナンバリング：2302		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：三友玲子 担当形態：単独
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		保育内容総論		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解できる。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できる。 3. 子どもの生活や社会的背景や保育内容の歴史的変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に備えて、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解できる。				
授業の概要 保育内容の歴史、保育所保育指針における「保育の目標」等の保育所保育指針の考え方とその構造を理解した上で「保育内容」と関連付けて、具体的に保育を展開する方法を、講義及び演習によって学ぶ。				
授業計画 第1回：保育の基本及び保育内容の理解 第2回：保育の全体構造と保育内容 第3回：保育内容の歴史的変遷とその社会的背景 第4回：子どもの発達や生活に即した保育内容（乳児～3歳未満） 第5回：子どもの発達や生活に即した保育内容（3歳以上・異年齢） 第6回：個と集団の発達を踏まえた保育 第7回：養護及び教育が一体的に展開する保育内容 第8回：環境を通して行う保育 第9回：生活や遊びによる総合的な保育について 第10回：家庭や地域、小学校などとの連携を踏まえた保育（長時間保育を含む） 第11回：特別な配慮を要する子どもの保育 第12回：多文化共生の保育 第13回：保育における観察と記録・保育計画の立案 第14回：保育計画を実践 第15回：保育計画を実践と振り返り 定期試験：レポート・小テスト			授業時間外の学習 1. 保育所保育指針の熟読(60分程度) 2. 振り返りシート作成(60分程度) 3. 我が国の園の歴史調べ(60分程度) 4. シート3歳未満児作成(60分程度) 5. シート3歳以上児作成(60分) 6. テーマについて予習復習(60分) 7. 保育所保育指針の熟読(60分) 8. 環境を通して行う保育の意味の考察(60分程度) 9. 園の生活や遊び調べ(60分) 10. 地域・小学校との連携調べ(40分) 11. 特別な配慮を要する子どもの保育の調査(60分程度) 12. 多文化保育調べ(50分程度) 13. 保育計画立案・準備(90分) 14. 保育計画実践・準備(90分) 15. 実践を振り返りPDCAについて理解しレポートにまとめる(120分)提出	
授業の方法 演習。小テストをしてフィードバックする。				
テキスト 『マンガとアクティブラーニングで学保育内容総論』開 仁志 編著 教育情報出版 その他資料 随時配布				
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、その他配布資料				
学生に対する評価 ルーブリックを活用し評価を行う。 授業内提出物・課題レポート・小テスト（50%）、実践発表（30%）、受講態度（20%）				
履修上の注意 予習・復習を必ず行い、内容を理解した上で授業に臨むこと。積極的に授業に参加して活発な発言や演習を行うこと				
実務経験の有無	有	実務経験	元幼稚園教諭	
実務経験を生かした教育内容 保育者としての経験を活かし、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育内容（健康） 指導法 ナンバリング：2303		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習		
授業の到達目標及びテーマ 1. 幼児の健康、安全、環境及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解できる。 2. 具体的な健康保育を想定した指導案を作成することができる。 3. 模擬保育とその振り返りを通して、健康保育を改善する視点を身につけることができる。				
授業の概要 幼稚園教育要領「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身につける。特に指導案の作成、模擬保育の実施、情報機器の活用を通して、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。				
授業計画 第1回：保育における「健康」とは 第2回：基本的生活習慣の形成を支える援助について 第3回：健康管理と安全能力を育む援助について 第4回：健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導 第5回：健康指導、安全指導の実態 第6回：幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の在り方 第7回：幼児理解と保育の視点を基盤とした評価 ー指導案の作成と模擬保育を通してー 第8回：多様な動きの経験を促す援助について 第9回：領域「健康」における心身の発達を踏まえた環境構成と援助 第10回：運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導 第11回：運動遊び指導の実際ー指導案の作成と模擬保育を通してー 第12回：幼児の動機づけや意欲などを配慮した遊びとしての健康指導の在り方ー指導案の作成と模擬保育を通してー 第13回：健康な心と体を育む保育の評価と改善 ー情報機器の活用、教材の工夫ー 第14回：健康な心身を育むことと小学校の生活や学習で生かされる力 第15回：領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 定期試験：筆記			授業時間外の学習 ・子どもに読み聞かせたい「からだの動きや病気の予防に関する絵本」を図書館などで、1冊選び、伝えたい要点をまとめ、授業時に提出する。（1時間） ・各自の手洗い習慣を振り返り、「いつ・どのように手洗いを行っているか」をまとめ、授業時に提出する。（1時間） ・新聞などの関連記事に注目し、「健康」について自分なりの考えをまとめ、授業時に提出する。（1時間）	
授業の方法 講義および演習。レポートや課題にコメントをしてフィードバックする。				
テキスト 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育内容と方法』（現代保育問題研究会編、一藝社） 『保育者をめざす保育内容（健康）』（安倍大輔、井筒紫乃、川田裕次郎（監修・編著）、圭門社）				
参考書・参考資料等 『幼児期運動指針ガイドブック』（平成27年7月10日 文部科学省） 『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子他、萌文書林）				
学生に対する評価 定期試験の成績（40%）、指導計画の立案、模擬保育の実践（30%）、及び受講態度等（30%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。				
履修上の注意 ・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。 ・レポートや課題提出は、期限を守ること。				
実務経験の有無	無	実務経験		
実務経験を活かした教育内容				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育内容（人間関係） 指導法 ナンバリング：2304		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：中山初枝 担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習					
授業の到達目標及びテーマ 1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育である基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できる。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた環境の重要性を考え、保育構想に活用できる。 3. 指導案の作成、模擬保育やロールプレイなど、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解できる。							
授業の概要 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の発達や学びの過程を理解した上で、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。指導案の作成、模擬保育の実施、情報機器の活用を通して、幼児の発達に合わせた主体的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。							
授業計画 第1回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」 第2回：保育者との信頼関係、保育者の援助と園生活における安定感 第3回：自立心を育成する保育者の援助と環境構成 第4回：幼児同士の交流、いざこざと保育者の援助 第5回：自分の気持ちを調整する力を育成する保育者の援助 第6回：家庭、園、社会生活でのきまりをめぐる幼児の葛藤と保育者の援助 第7回：ルールのある遊びをめぐる保育者の援助 第8回：個と集団の育ちを考えた保育者の援助のあり方、保育の展開 －指導案の作成と模擬保育を通して－ 第9回：協同的な遊びの中での育ちを考えた保育の展開 －指導案の作成と模擬保育を通して－ 第10回：行事のねらいと活動内容 －指導案の作成と模擬保育を通して－ 第11回：幼小の交流活動における工夫と展開 第12回：小学校以降の生活や学習につながる力の育成 第13回：地域の人との関わりと子どもの成長 第14回：幼児期の経験をその後の成長につなげる長期的な援助計画 －情報機器の活用、教材の工夫－ 第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的課題 定期試験：筆記					授業時間外の学習 ・授業前に教科書を読み、疑問点については調べておく。 （週1時間以上） ・授業後は教科書や授業で配布したプリントをもとに、内容を確認し、学習した内容についてまとめておく。 （週1時間以上） ・日常的な子どもたちの様子で気になったところは記録し、演習等に活かせるようにしておく。 （3時間以上）		
授業の方法 ICTを活用し、協同学習を取り入れた演習。單元ごとの小レポートにてフィードバックする。							
テキスト 『保育内容 人間関係－基礎的事項の理解と指導－』 田代和美・榎本真美 編著 建帛社							
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）、『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント保育所保育指針』（最新版）							
学生に対する評価 授業態度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意 受講にあたっては、教科書を参考に事前事後の学習を行い、演習には積極的に取り組むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）	
実務経験を活かした教育内容 精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 特別支援教育 ナンバリング：2315		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 （半期）講義		担当教員名：布施由起	
						担当形態：単独	
科 目／系 列		教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由病弱等を含む障害のある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけることができる。 2. 発達障害や軽度の知的障害等特別な支援を必要とする幼児児童及び生徒の支援の方法を例示できる。 3. 特別の教育的ニーズが必要な児童等の学習上又は生活上の困難とその組織上の対応を理解できる。							
授業の概要							
障害のある子どもの生きにくさと良さを理解し、支援・指導の在り方を体験的に理解し見識を広げる。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション・特別支援教育の理念を知る 第2回：肢体不自由の理解と指導・支援（車椅子の体験） 第3回：肢体不自由の理解と指導・支援（特性の理解） 第4回：就学指導の手続きを理解し、相談等の支援の在り方を知る 第5回：視覚障害児の理解と指導・支援（白杖の体験） 第6回：視覚障害児の理解と指導・支援（盲ろう者の特性の理解） 第7回：聴覚障害児の理解と指導・支援（ろう学校の教育） 第8回：聴覚障害児の理解と指導・支援（手話の活用の体験①） 第9回：聴覚障害児の理解と指導・支援（手話体験②、手記） 第10回：聴覚障害のある人々の生き方とその支援（まとめ） 第11回：知的障害児の理解と指導・支援（特別支援学校の教育） 第12回：知的障害児の理解と指導・支援（特性の理解とテスト等） 第13回：自閉症スペクトラム障害の理解と支援（特性の理解） 第14回：注意欠陥多動性障害・学習障害児の理解と指導・支援（特性の理解） 第15回：障害はないが特別なニーズを必要とする子の理解と指導・支援（特性の理解） ※個別の教育支援計画と個別の指導計画、支援システム ※早期発見・早期支援、保護者の心理と障害受容 定期試験：筆記				・特別支援教育の理念を調べる（1時間） ・肢体不自由児の課題を調べる（1時間） 肢体不自由児の特性をまとめる・就学の制度を調べる（1時間） ・視覚障害者の課題を調べる（1時間） 視覚障害者への配慮調べ（1時間） ・聴覚障害者の課題を調べる（1時間） 手話の理解と活用を調べる（1時間） 手話の理解と活用をまとめる（1時間） ・支援の活用を図る（1時間） ・知的障害者の課題を調べる（1時間） 知的障害者の配慮を調べる（1時間） ・自閉症児の課題を調べる（1時間） ・ADHD児の課題を調べる（1時間） ・学習障害児の課題を調べる（1時間）			
授業の方法 講義、発表（毎回、課題をレポートし発表する。それに対し、教員よりコメントを行う。予習が必要。）、体験的活動。							
テキスト 『コンパス障害児の保育・教育』 武藤久枝 小川英彦編 建帛社							
参考書・参考資料等 適宜配布する。							
学生に対する評価							
定期試験（50％）、提出物や発表・調べ学習（50％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
実習において子どもたちの実態把握を十分しておいてほしい。							
実務経験の有無		有	実務経験		元知的障障害者支援施設勤務，臨床心理士・公認心理師		
実務経験を活かした教育内容							
施設職員の経験を活かし、障害のある子どものかかわり方について実践的に授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育者のための社会人基礎講座 ナンバリング：2319		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：藤田利久 担当形態： 単独	
科 目／系 列		／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目							
授業の到達目標及びテーマ 1. 社会人として、職業人として社会常識と職業倫理を意識した行動ができる。 2. TPOを心得た適切な敬語表現での会話や文書作成ができる。 3. 社会人として、保育者として必要なコミュニケーション基礎力を身につけることができる。							
授業の概要 より良い保育・教育を行うためには、保護者や同僚、地域の人々など周囲の協力と支援が重要となる。そのためには職業意識や社会人としての常識を身につけることが重要となる。この授業では「信頼される保育者」を目指して、正しい言葉遣いや立ち居振る舞いなどを含めて良識ある社会人・職業人としての基礎を学び、態度変容に結び付ける。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の進め方と社会人としての心得 等 第2回：第1章 信頼される保育者の要件 第3回：第2章 あいさつ・おじぎなどマナーの基本 第4回：第3章 第2章を踏まえ、保育者にふさわしい服装 第5回：第4章 言葉づかい：声を出して正しい言葉づかいを 第6回：第5章 電話応対：電話のマナーを意識した電話応対 第7回：第6章 来客応対：基本の流れで、来客応対の実際 第5章と第6章の応用：ロールプレイ 第8回：第7章 訪問：訪問の流れ（ロールプレイ中心） 第9回：第8章 文書：文書の基本（目的に応じた文書作成） 第10回：第9章 コミュニケーションの基本1：聴くことの大切さと態度 第11回：第10章 コミュニケーションの基本2：話す注意点と重要性 第12回：第11章 コミュニケーションの基本3：クレーム対応事例から 第13回：第12章 保護者とのコミュニケーション (グループワークで話し合い、ロールプレイ) 第14回：第13章 保育の場における保育者間の人間関係 (グループでの話し合いと結果発表) 第15回：まとめ、社会人・職業人としての心構え 定期試験：筆記				授業時間外の学習 (前後学習には90分程度必要) 基本ワークの課題などを済ませて、授業準備をしておく。 グループワークで積極的に参加するために事前に自分の考えをまとめておく。 ロールプレイの課題は、状況を想定し準備をしておく。 文書作成では、目的を設定し、それに応じた文書を作成する。 事例の場合は、その対応・対処方法と理由を準備をしておく。 課題は、毎回、仕上げておき、授業終了後は自分の答えとの違いを確かめる。			
授業の方法 学生自らで学びとり、身につけること、つまり態度変容を目標としているので、ロールプレイなども取り入れた学生主体の授業を進める。そのため事前事後の学習が重要である。授業時間中にフィードバックテストを行う。							
テキスト 『信頼される保育者のためのコミュニケーションスキル』 藤田利久編著 西文社							
参考書・参考資料等 授業の中でその都度紹介							
学生に対する評価 目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。 発表 (10%)、課題提出 (40%)、小テスト (20%)、定期試験 (30%) を総合的に評価する。							
履修上の注意 学生の皆さん一人ひとりが授業の主役となるため、出席はもとより毎回、事前に課題を仕上げて授業に臨むことが重要である。自覚をもって信頼される保育者となるよう積極的に学ぶ姿勢が重要である。							
実務経験の有無		有		実務経験		元民間会社 総務課・人事課	
実務経験を活かした教育内容 藤田：民間会社(人事・総務)での新入社員教育などの社会人基礎力育成の経験を活かし授業に臨む。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 子どもと健康 ナンバリング：2320		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：金美珍 担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		領域に関する専門的事項 ・健康 ／保育内容の理解と方法					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康な姿とその発達について理解できる。 2. 幼児の安全な生活と怪我や病気の予防を理解できる。 3. 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。							
授業の概要							
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：乳幼児期の健康問題（健康の定義と乳幼児期の健康の意義） 第2回：乳幼児期の健康問題（乳幼児を取り巻く生活環境と健康） 第3回：乳幼児期の身体的発達の特徴 第4回：乳幼児期の生理的機能の発達 第5回：乳幼児期の生活習慣の獲得 第6回：乳幼児期の生活リズムの形成とその意義 第7回：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード） 第8回：子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理 第9回：幼児期に起こりやすい怪我や事故の特徴 第10回：応急処置の基礎及び病気の予防 第11回：乳幼児期の運動能力の特徴（運動コントロール能力の発達） 第12回：乳幼児期の運動能力と特徴（多様な動きの意味及び両者の関係） 第13回：日常生活における運動 第14回：遊びとしての運動 第15回：子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方 定期試験：筆記				・豊かな暮らしが子どもの発達にどう影響しているかについて、プラス面とマイナス面の双方から考え、まとめ、授業時に提出する。（1時間） ・健康的な生活リズムについて、子どもたちにわかりやすく伝えられる絵本や紙芝居、ペープサート等の教材を作成して、授業時に提出する。（1時間） ・保育の内容としてふさわしい伝承遊びを挙げ、その意義、遊び方についてまとめ、授業時に提出する。（1時間）			
授業の方法 講義。レポートや課題にコメントをしてフィードバックする。							
テキスト							
『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育者をめざす保育内容（健康）』 『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』（池田裕恵（編）、杏林書院）							
参考書・参考資料等							
『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子他、萌文書林）							
学生に対する評価							
定期試験の成績（50%）、授業への取り組み・討論への貢献度（30%）、レポート（20%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。 ・レポートや課題提出は、期限を守ること。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		教員の免許状／保育士資格		単位数：1単位		担当教員名：布施由起	
子どもと人間関係		取得のための必修科目		(半期) 演習		担当形態：単独	
ナンバリング：2321							
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		領域に関する専門的事項 ・人間関係 ／保育内容の理解と方法					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 乳幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴とその社会的背景について説明できる。 2. 乳幼児期における人と関わる力の発達について、家族、保育者、子ども同士、地域との関係という観点から説明できる。 3. 乳幼児の自立心、協同性、道徳性・規範意識などの育ちについて、人間関係の発達と関連させて説明できる。							
授業の概要							
乳幼児期の人間関係は、子どもの自立心、協同性、道徳性・規範意識を育てる基盤となっている。本授業では、現代の乳幼児の人間関係の発達に影響を与えている社会的要因や背景について理解し、幼児教育・保育で保障すべき教育内容、幼児教育・保育の今日的課題に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、家族、保育者、子ども同士、地域の人との関わりなど多くの他者との関係や、遊びや生活などの活動を通して、幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。また、人との関わりを通して育まれる自立心、協同性、道徳性の発達について学び、人と関わる力を育てる保育者の役割について考える。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：現代社会と乳幼児の人間関係 第2回：人と関わる力を育てる幼児教育・保育の今日的課題 第3回：乳幼児における人間関係の発達 －家族、保育者、子ども同士、地域の人とのかかわりから－ 第4回：家族とのかかわりと人と関わる力の発達 第5回：保育者とのかかわりと人と関わる力の発達 第6回：子ども同士のかかわりと人と関わる力の発達 第7回：集団での活動を通じた人と関わる力の発達 第8回：地域の人とのかかわりと人と関わる力の発達 第9回：幼児期の遊びを通じた人と関わる力の発達 第10回：幼児期の生活を通じた人と関わる力の発達 第11回：乳幼児期の自立心の発達－自我の芽生え、自己の発達－ 第12回：幼児期の協同性の発達－集団活動、行事等を通して－ 第13回：幼児期の道徳性・規範意識の発達－葛藤経験を通して－ 第14回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 第15回：人と関わる力を育てる保育者の役割 定期試験：筆記						・ 授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。 ・ 授業前に提示する事前課題を教科書、参考文献等をもとに行い、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・ 授業後は参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。	
授業の方法 講義、グループでの演習やワーク。单元ごとの小レポートにフィードバックを行う。							
テキスト							
『保育内容 人間関係－基礎的事項の理解と指導－』 田代和美・榎本真美 編著 建帛社 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
参考書・参考資料等							
『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント』（最新版）							
学生に対する評価 授業態度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
・受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）	
実務経験を活かした教育内容							
精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 子どもと環境 ナンバリング：2322		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：花島慶子	
						担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		領域に関する専門的事項 ・環境 ／保育内容の理解と方法					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 領域「環境」のねらい及び内容を理解し、子どもと環境の意義と重要性が理解できる。 2. 様々な環境（人的環境・物的環境・社会的環境など）について理解し、子どもを取り巻く環境の現状を知り、適切な環境について考えることができる。 3. 生物や自然との関わり等の事象に対する子どもの興味・関心の発達について説明できる。							
授業の概要							
領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、子どもと環境との関わり等の発達について学ぶ。 子どもを取り巻く環境の現状や課題を理解し、適切な環境について考えることができるようにする。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：オリエンテーション						・毎回の課題の予習と復習（1時間） ・次週のテーマについての調べ学習（1時間） ・ICTを活用し、子どもを取り巻く保育現場の環境をリアルタイムで学ぶ双方向型授業を行う	
第2回：領域「環境」のねらいと内容							
第3回：子どもにとっての人的環境・物的環境							
第4回：子どもにとっての社会的環境							
第5回：子どもの発達と環境との関わり（心理学的観点から）							
第6回：子どもの発達と環境との関わり（認知的観点から）							
第7回：子どもと生物・自然との関わり（植物の栽培）							
第8回：子どもと生物・自然との関わり（植物の栽培・自然体験）							
第9回：子どもと生物・自然との関わり（生物の飼育）							
第10回：現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題（グループワーク）							
第11回：現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題（グループワーク）							
第12回：現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題（グループ発表）							
第13回：現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題（グループ発表）							
第14回：子どもと生物・自然との関わり（自然体験）							
第15回：まとめ							
定期試験：レポート							
授業の方法 講義と演習。提出物にコメントを書いて返却する。ICTを活用し保育現場との双方向型授業を行う。							
テキスト							
『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』 『保育実践に生かす保育内容「環境」』著者 上中修 教育情報出版							
参考書・参考資料等							
『農と都市近郊の田園暮らし』後藤 雅浩著 毎日新聞社 必要に応じて図書館で植物図鑑や動物図鑑を調べる。							
学生に対する評価							
提出物や口頭発表（30％）、参加態度等（20％）、定期試験（50％）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意 子どもを取り巻く様々な環境に興味・関心をもって取り組むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		元保育園園長	
実務経験を活かした教育内容 保育園園長の経験を活かし、子どもの生活、発達にとって環境が非常に大切かを具体的に学べるように授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		教員の免許状／保育士資格		単位数：1単位		担当教員名：細田香織	
子どもと言葉		取得のための必修科目		(半期) 演習		担当形態：単独	
ナンバリング：2323							
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		領域に関する専門的事項 ・言葉 ／保育内容の理解と方法					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 言葉のもつ意義と機能を理解できる。 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解できる。 3. 言葉を育て、想像力を育む児童文化財の意義について理解し、実践力を身につけることができる。							
授業の概要							
「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：言葉にはどのような力があるかー意見の交流からー 第2回：言葉の意義と機能 第3回：言葉の獲得ー乳児期から小学校前までー 第4回：小1プロブレムと幼・保で育てる「言葉」について 第5回：読み聞かせ・素話・紙芝居・幼年童話の魅力と意義 第6回：読み聞かせ研究の現在と実践家の書籍から 第7回：読み聞かせの実践ー現場での実践ビデオから学ぶー 第8回：昔話の構造と魅力 第9回：昔話絵本の比較から学ぶ 第10回：子守歌・童謡（メロディーを伴った言葉の力） 第11回：『センス・オブ・ワンダー』に学ぶ ー子どもの世界を理解し共感し共に探索する姿勢ー 第12回：言葉の感覚を豊かにする実践とは① ー新聞記事等を基に、事例に学ぶー 第13回：言葉の感覚を豊かにする実践とは② ー自ら実践を考えてみようー 第14回：言葉の感覚を豊かにする実践とは③ ー実践案を交流しようー 第15回：言葉の感覚を豊かにする実践を踏まえた部分指導案作成				毎回40分～60分程度 ・絵本リストを作成する。各自、紹介された絵本のみならず、たくさんの絵本を追加できるよう図書館を利用して読み、書き入れること。 ・単元に合わせて準備してくること等、宿題が課される。忘れず調べたり用意したりすること。 ・日常から自らの「言葉」環境についても内省し、「言葉」についての感覚を磨き、実践に生かせるよう努めること。			
定期試験：筆記							
授業の方法							
グループ活動、クラスでの意見交流等も行いながら授業を進める。ディスカッションも行う。 授業で集めたプリントやレポートには、赤でコメント等を入れて返却する。							
テキスト 『子どもの育ちと「ことば」』 監修 松川利広 編著 横山真貴子 教育情報出版							
参考書・参考資料等							
『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店 『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳、新潮社 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 他							
学生に対する評価 ルーブリック評価を活用する。 定期試験の成績（40％）、提出物（30％）、受講態度（30％）を判断して評価する。							
履修上の注意							
互いに意見を出したり発表したりする活動が多い。主体的に参加し、準備等も行うこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子どもと表現 ナンバリング：2324		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名： 小澤和恵、小澤俊太郎、 伊藤えつ子、小日向千秋 担当形態：オムニバス
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		領域に関する専門的事項 ・表現		
授業の到達目標及びテーマ 1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現の姿とその発達について理解できる。 2. 身体・造形・音楽表現など、様々な表現の基礎的知識と技術を身につけ、子どもの表現活動に展開することができる。 3. 子どもの表現を受け止め、留意点と評価の方法が理解できる。				
授業の概要 「表現」とは何かを学び、人間の成長にとって「表現」することの大切さとその発達過程について理解できるようにする。領域「表現」のねらい及び内容を理解し、身体・造形・音楽表現など、子どもが表現する様々な姿と方法を受け止め、子どもの表現活動を支援するための知識と技能、表現力を身につける。				
授業計画 第1回：オリエンテーションー「表現」とは何か (担当：小澤和) 第2回：領域「表現」のねらいと内容 (担当：小澤和) 第3回：子どもの発達と音楽表現 (担当：小澤俊) 第4回：子どもの音楽表現 (歌う活動) (担当：小澤和) 第5回：子どもの音楽表現 (音を鳴らす活動) (担当：小澤俊) 第6回：子どもの発達と造形表現 (担当：小日向) 第7回：造形表現の基礎技法 (担当：小日向) 第8回：子どもの造形表現 (様々な素材) (担当：小日向) 第9回：子どもの造形表現 (描く活動) (担当：小日向) 第10回：子どもの造形表現 (作る活動) (担当：小日向) 第11回：子どもの発達と身体表現 (担当：伊藤) 第12回：子どもの身体表現 (リズムと動き) (担当：伊藤) 第13回：子どもの身体表現 (音楽と動き) (担当：伊藤) 第14回：子どもの身体表現 (イメージと動き) (担当：伊藤) 第15回：子どもの身体表現 (自由な動き) (担当：伊藤) 定期試験：オムニバスのため、それぞれの授業内で行う。			授業時間外の学習 ・毎回の課題の予習と復習 ・次週のテーマについての調べ学習 授業で紹介される音楽表現活動の習得 (それぞれ各回各1時間程度) 授業で紹介される造形表現活動の準備と制作 (予習、復習に各回各1時間程度) 授業で紹介される身体表現活動の習得 (予習、復習に各回各1時間程度)	
授業の方法 講義とグループワーク。提出されたワークシートや課題にコメントを入れて返却する。				
テキスト 『幼稚園教育要領』(最新版)、 『保育所保育指針』(最新版) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)				
参考書・参考資料等 『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』石井玲子編著 教育情報出版				
学生に対する評価 授業内課題・発表をルーブリック評価を活用し評価(80%)、授業参画度等(20%)を総合して評価する。				
履修上の注意 感性を豊かに、様々な表現活動を捉えるようにすること。				
実務経験の有無	無	実務経験		
実務経験を活かした教育内容				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 音楽Ⅰ ナンバリング：2325		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習 担当教員名：小澤俊太郎、 瀬戸奏、浅見彩賀、小川勝輪、 田口琴己、野本裕美子、 担当形態：クラス分け、オムニバス
科目／系列		大学が独自に設定する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等 ／教科目				
授業の到達目標及びテーマ 1. 季節の歌（春・夏）の必修課題曲の弾き歌いができる。 2. （ピアノ初心者）バイエル75番以上、（ピアノ経験者）3曲以上の楽曲を弾くことができる。 3. 基礎的な楽典を説明できる。				
授業の概要 1. 合同授業 音楽の基礎となる楽典を学び、保育、幼児教育で使用される歌唱曲（童謡、遊び歌など）を習得する。 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。				
授業計画 授業90分のうち、45分を合同授業（担当：瀬戸）、 45分を4クラスに分けて個人レッスン（担当：小澤、浅見、小川、田口、野本） 〈合同授業〉 第1回：オリエンテーション 第2回：楽典① 楽譜の基礎（五線・音部記号・小節線） 第3回：楽典② 音名、音符・休符の種類 第4回：楽典③ 拍と拍子の種類① 第5回：楽典④ 拍と拍子の種類② 第6回：楽典⑤ 調号と音階 第7回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー春） 歌詞の理解 第8回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー春） 歌い方の指導 第9回：手遊び・指遊び 教員による提示と個人練習 第10回：手遊び・指遊び 2人組に分かれての練習 第11回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー夏） 歌詞の理解 第12回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー夏） 歌い方の指導 第13回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 春・夏の歌の復習 第14回：「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 小テスト 第15回：「子どもの歌」弾き歌いテスト 定期試験：筆記・実技 〈個人レッスン〉 第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：マンツーマンによるレッスン			授業時間外の学習 〈合同授業〉 課題の楽典ワークの学習（1時間） 課題の楽典ワークの学習（1時間） 課題の楽典ワークの学習（1時間） 課題の楽典ワークの学習（1時間） 課題の楽典ワークの学習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 手遊び・指遊びの練習（1時間） 手遊び・指遊びの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 試験の準備と練習（1時間） 〈個人レッスン〉 毎回のレッスンで課題となった曲の練習（1日15分以上、1週間に合計1時間以上）	
授業の方法 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題を行いフィードバック。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバック。				
テキスト 個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲 合同授業 『改訂 学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ』教芸音楽研究グループ編 教育芸術社 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社				
参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。				
学生に対する評価 合同授業内での必修課題曲のマスター（30％）、小テスト（10％） 個人レッスンの受講態度（受講上の注意を守る）（20％）、 個人レッスンの課題の習熟度（個人カルテ配布）と実技試験（40％） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。				
履修上の注意 自己学習の予習、復習が大変重要である。 特に、今までにピアノ学習経験のない学生は努力する必要がある。				
実務経験の有無		有	実務経験	ピアノ講師
実務経験を活かした教育内容 ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に添って指導できるよう授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 音楽Ⅱ ナンバリング：2326		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習 担当教員名：小澤俊太郎、 瀬戸奏、浅見彩賀、小川勝輪、田口琴巳 野本裕美子 担当形態：クラス分け、オムニバス
科目／系列		大学が独自に設定する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等 ／教科目				
授業の到達目標及びテーマ 1. 生活の歌、季節の歌（秋・冬）必修課題曲の弾き歌いができる。 2. （ピアノ初心者）バイエル96番以上、（ピアノ経験者）3曲以上の楽曲を弾くことができる。 3. コールユーブンゲンを歌うことができる。				
授業の概要 1. 合同授業 「音楽Ⅰ」で学んだ内容をもとに、ソルフェージュの力と正しい発声を身につけて「子どもの歌」の弾き歌いを習得する。 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。				
授業計画 授業90分のうち、45分を合同授業（担当：瀬戸）、 45分を4クラスに分けて個人レッスン（担当：小澤、浅見、小川、田口、野本） 〈合同授業〉 第1回：オリエンテーション 第2回：ソルフェージュ① 正しい発声 第3回：ソルフェージュ② 正しい音程の取り方とは 第4回：ソルフェージュ③ コールユーブンゲンによる音程の取り方 第5回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー秋） 歌詞の理解 第6回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー秋） 歌い方の指導 第7回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー冬） 歌詞の理解 第8回：「子どもの歌」弾き歌い（季節の歌ー冬） 歌い方の指導 第9回：歌唱活動（アンサンブル）音取り① 第10回：歌唱活動（アンサンブル）音取り② 第11回：歌唱活動（アンサンブル）部分練習・パート練習 第12回：歌唱活動（合唱曲）音取り 第13回：歌唱活動（合唱曲）部分練習・パート練習 第14回：歌唱活動（合唱曲）全体練習 第15回：歌唱活動（合唱曲）の発表 定期試験：実技 〈個人レッスン〉 第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：マンツーマンによるレッスン			授業時間外の学習 〈合同授業〉 コールユーブンゲン等課題曲の練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 「子どもの歌」弾き歌いの練習（1時間） 歌唱アンサンブルの練習（1時間） 歌唱アンサンブルの練習（1時間） 試験曲の練習（1時間） 試験曲の練習（1時間） 試験曲の練習（1時間） 〈個人レッスン〉 毎回のレッスンで課題となった曲の練習（1日15分以上、1週間に合計1時間以上）	
授業の方法 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題を行いフィードバック。個人レッスンでは一人ひとりの進捗、練習に合わせてフィードバック。				
テキスト 個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲 合同授業 『改訂 学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ』教芸音楽研究グループ編 教育芸術社 『このうた100』小林美実監修 チャイルド社				
参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。				
学生に対する評価 合同授業内での必修課題曲のマスター（30％）、小テスト（10％） 個人レッスンの受講態度（受講上の注意を守る）（20％）、 個人レッスンの課題の習熟度（個人カルテ配布）と実技試験（40％） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。				
履修上の注意 自己学習の予習、復習が大変重要である。 特に、今までにピアノ学習経験のない学生は努力する必要がある。				
実務経験の有無	有	実務経験	ピアノ講師	
実務経験を活かした教育内容 ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： カウンセリングⅠ ナンバリング：2329		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：布施由起 担当形態：単独	
系 列		保育の内容・方法に関する科目					
教科目							
授業の到達目標及びテーマ 1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を理解できる。 2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを理解できる。 3. ピアヘルピングを実践することができる。							
授業の概要 カウンセリングの理論、技法、歴史やその種類について学ぶと共に、カウンセリングスキルを習得し、ピアヘルピングを実践するための力も身につける。							
授業計画 第1回：イントロダクション ピアヘルパーとは 第2回：カウンセリングの定義と歴史 第3回：カウンセリングの種類 第4回：ピアヘルピングの関係領域 第5回：ピアヘルパーの仕事とピアヘルパーに求められる資質 第6回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル① 第7回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル② 第8回：ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル③ 第9回：ピアヘルピングのためのグループワーク① 第10回：ピアヘルピングのためのグループワーク② 第11回：児童期、青年期の発達 第12回：ピアヘルパーの心構えと留意点 第13回：ケーススタディ 第14回：ピアヘルピング体験 第15回：全体のまとめ 定期試験：レポート				授業時間外の学習 ・教科書や授業内で配布したプリントをもとに、前回の内容を確認し、次回の学習内容についても確認しておくこと。 ・ピアヘルピングの特徴について理解したことをまとめる。 ・授業内で紹介する参考文献を読み、カウンセリングスキル、グループワークについて理解を深める。 ・ピアヘルピング活動の留意点について、授業内で配布したプリント及び参考文献からまとめる。 ・ピアヘルピング体験を振り返って、今後の課題についてまとめる。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。			
授業の方法 講義、グループ演習、ロールプレイを行う。單元ごとの小レポートにフィードバックを行う。							
テキスト 『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会（編） 図書文化社							
参考書・参考資料等 授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。							
学生に対する評価 授業参画（30％）、小レポート（20％）、定期試験（50％）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意 ・授業にはまじめに取り組むこと。理由のない欠席は認めない。 ・受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。							
実務経験の有無		有	実務経験		精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）		
実務経験を活かした教育内容 精神科クリニック勤務の経験を活かして、ロールプレイを取り入れた実践的な演習を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 教職教養演習Ⅰ ナンバリング：2701				単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ							
1. 公務員試験の流れや、勉強の方法、各自が受ける地域の試験内容について理解できる。							
2. 公務員試験「一般教養」の各領域における内容と各自の力を確認し、苦手領域を克服できる。							
3. 面接試験のポイントを把握し、模擬面接を通して回答力を身につけることができる。							
授業の概要							
公立の保育所や幼稚園、認定こども園の保育士や幼稚園教諭に就職するには、各自治体を実施する職員採用試験に合格をしなければならない。試験内容は一般教養試験、専門教養試験、論作文、面接等である。本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に、公務員試験受験の基礎知識・学習方法・一般教養の身につけ方、論文作成・面接の受け方を学ぶ。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：公務員試験について、学習計画立案							
第2回：一般教養（文章理解・国語・文学）							
第3回：一般教養（資料解釈）							
第4回：一般教養（思想・日本史・世界史）							
第5回：一般教養（地理・芸術）							
第6回：一般教養（政治・経済）							
第7回：一般教養（社会）							
第8回：一般教養（数学）							
第9回：一般教養（物理・化学）							
第10回：一般教養（生物・地学）							
第11回：中間テスト・振り返りと今後の学習計画							
第12回：一般教養（判断推理）							
第13回：一般教養（数的理解）							
第14回：小論文対策							
第15回：面接対策							
定期試験：筆記、レポート							
授業の方法							
講義と主体的な「学び合い」を適宜織り交ぜて行う。パソコン教室で市町村採用試験概要の調べ学習を行ったり、グループワークを行ったりもする。毎回小テストを行いフィードバックする。							
テキスト 『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2024年度版』保育士試験研究会 実務教育出版							
参考書・参考資料等							
『スイスイわかる保育士試験』保育士採用試験情報研究会 一ツ橋書店							
『市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2024年度（公務員試験 合格の500シリーズ9）』資格試験研究会 実務教育出版							
学生に対する評価 小テスト（20%）、提出物・発表（20%）、試験（60%）							
履修上の注意							
・ 公務員試験希望者、群馬県私立幼稚園・認定こども園の統一試験を受験予定の学生を対象とする。							
・ チューターズルーム・図書館を利用して積極的に予習・復習をすること。							
・ 積極的に勉強する意欲のある学生の受講を望む。							
実務経験の有無		有		実務経験		元公立学校教員採用試験委員	
実務経験を活かした教育内容							
元教員採用試験委員の経験を活かして、問題の解説・面接指導を行い、公務員試験受験希望者の実力を養成する。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 教職教養演習Ⅱ ナンバリング：2702				単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：山口昭司 担当形態：単独	
授業の到達目標及びテーマ 1. 幼児教育者として専門的知識を身につけ、専門教養の問題を解く力を身につけることができる。 2. 論文・作文のテーマを理解し、論理的に記述することができる。 3. 個人面接や集団面接、集団討論で、対応力を身につけることができる。							
授業の概要 本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に専門教養科目の講義を行い、公務員試験における専門教養を身につけるとともに、小論文・作文の実践をとおして書き方を理解し、併せて個人面接や集団面接及び集団討論も行い、対応力を身につける。							
授業計画 第1回：オリエンテーション・社会福祉関係の法律 第2回：専門科目①法律 第3回：専門科目②保育原理 第4回：専門科目③保育原理 第5回：専門科目④子ども家庭福祉 第6回：模擬試験・⑤子ども家庭福祉 第7回：専門科目⑥保育内容 保育所・幼稚園 第8回：専門科目⑦保育の心理学 第9回：専門科目⑧子どもの保健 第10回：専門科目⑨特別支援教育 第11回：専門科目⑩保育内容 音楽 第12回：論作文 第13回：面接対策① 第14回：面接対策③ 第15回：まとめ 定期試験：筆記、レポート				授業時間外の学習 ・作文または小論文を授業以外に1本書く。（授業実施週各1時間程度） ・授業時に取り組むテキスト中の問題以外の問題を、各自で解く。 （毎時0.5時間程度） ・過去の専門教養問題を、教科書を参考にして解く。（毎時0.5時間程度） ・チューターズルームを積極的に活用する。			
授業の方法 講義と主体的な「学び合い」を適宜織り交ぜて行う。パソコン教室で調べ学習を行う。論文作成の柱立てを学び、実際に書き込む。模擬面接を行い、相互評価を行う。毎回小テストを行いフィードバックする。							
テキスト 『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2024年度版』 保育士試験研究会 実務教育出版							
参考書・参考資料等 『スイスイわかる保育士試験』 保育士採用試験情報研究会 一ツ橋書店 『市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2024年度（公務員試験 合格の500シリーズ9）』 資格試験研究会 実務教育出版							
学生に対する評価 小テスト（20％）、提出物・発表（20％）、試験（60％）							
履修上の注意 ・公務員試験希望者 ・教職教養演習Ⅰを未履修者も履修可							
実務経験の有無		有		実務経験		元公立学校教員採用試験委員	
実務経験を活かした教育内容 元教員採用試験委員の経験を活かして、問題の解説・論作文・面接指導を行い、公務員試験受験希望者の実力を養成する。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育実習Ⅰ（施設） ナンバリング：2803		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 （10日間）実習	担当教員名： 高橋努、久米隼 担当形態：複数
系 列		保育実習		
教科目		保育実習Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 児童福祉施設等における保育士の役割や仕事の内容を、体験することで理解できる。 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、現場での体験から理解を深めることができる。				
授業の概要				
保育所や児童福祉施設等の役割を理解し、子どもの観察や関わりを通して理解を深め、既習の教科目の内容を踏まえて保育や保護者支援を総合的に理解する。さらに、保育計画や観察・記録なども理解し、専門職としての保育士の業務内容や役割・職業倫理などを具体的に理解する。				
授業計画			授業時間外の学習	
【前半】（施設理解、利用者理解）（1日目～5日目） 施設職員の指導のもとに、施設の概要や職員の業務について理解を深め、また、生活している乳幼児や児童及び利用者の生活支援・活動支援を行うことにより、コミュニケーション技術の向上を図る。 コミュニケーションを図ることにより、施設を利用している乳幼児や児童及び利用者、地域とのかかわりや家族とのかかわりなど、様々なことに目を向け、施設や乳幼児等の抱える問題等の理解を深める。 【後半】（利用者理解、保育士としての専門知識について考える）（6日目～10日目） 乳幼児や児童、及び利用者の生活サイクルにあわせ、施設保育士がどのような役割を持ち、どのように活動しているか実践を通して理解を深めていく。施設によっては、部分実習を行う場合がある。また、設定した実習課題の達成に向けて積極的に実習に取り組む。 定期試験：レポート			保育実習Ⅰ（施設）は、学校指定の配属先で原則宿泊にて実習を行う。 そのため、 1. 事前に配属先の施設に関する情報を集める。（1時間） 2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める（2時間） 3. 文献資料等を活用して理解を深める（2時間） などの学習が重要である。	
授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設（保育所を除く）及び障害者施設等での実習。フィードバックについては、施設からの評価をもとに、個別面談を実施。				
テキスト				
『施設実習ガイド-保育者として成長するための事前事後指導学習-』駒井美智子編著 萌文書林				
参考書・参考資料等				
・実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。 ・チェックリストをもとに、事前準備等を行う。				
学生に対する評価（レポート評価には、ルーブリック評価を活用する） 福祉施設における実習の評価（40%）、事前・事後学習で提出したレポート等（60%）				
履修上の注意				
・履修登録時の記載漏れが多いので必ずチェックを忘れないこと。 ・保育実習指導Ⅰ（施設）を必ず履修すること。 ・入所施設での実習を効果的に行うために、事前に施設でのボランティア活動や関連文献を通して、施設の機能、施設保育士の職務内容と役割・入所児童等について理解を深めるように努めること。 ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられるよう、事前学習、事前準備をしっかりと行うこと。 ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。				
実務経験の有無	有	実務経験	高橋：施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容				
高橋：施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明、実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育実習指導Ⅰ（施設） ナンバリング：2804		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名： 高橋努、久米隼
				担当形態：クラス分け
系 列		保育実習		
教科目		保育実習指導Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 児童福祉施設等における保育士の役割や、仕事の内容を理解できる。 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、理解を深めることができる。				
授業の概要 児童福祉施設等における実習の意義や目的・内容の理解を深め、自らの実習における課題、利用者の人権と最善の利益、プライバシー保護や守秘義務について理解する。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、事後指導等にて実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題、目標を明確にする。				
授業計画 第1回：オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等) 第2回：児童福祉施設について（振返り）（1） 第3回：児童福祉施設について（振返り）（2） 第4回：実習目標の考え方と実習生調書の書き方（1） 第5回：実習目標の考え方と実習生調書の書き方（2） 第6回：実習課題の考え方と作成 第7回：実習課題と実習計画について（1） 第8回：実習課題と実習計画について（2） 第9回：外部講師（施設職員）による出張セミナー（青嵐荘療育園） 第10回：実習日誌について（1） 第11回：実習日誌について（2） 第12回：ボランティア、実習先オリエンテーションについて 第13回：活動案の考え方（5領域との関連について）活動案の作成 第14回：活動案の作成 第15回：お礼状の書き方 定期試験：レポート			授業時間外の学習 保育実習Ⅰ（施設）がスムーズに実施できるよう、以下の学習が必要となる。 1. 配属先の施設に関する情報を集める（1時間） 2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める（2時間） 3. 文献資料等を参考に、児童福祉施設の歴史的背景等についても学習をする（2時間） これら調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	
授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設（保育所を除く）及び障害者施設等での実習にあたっての事前準備を行なう。講義を中心に調べ学習等を織り交ぜて行う。フィードバックについては提出物に対してコメントを記入する。				
テキスト 『施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後指導学習 - 』駒井美智子編著 萌文書林				
参考書・参考資料等 ・授業内で適宜プリント等配布する（実習チェックリスト、施設パンフレット等）。 ・配布物チェックリストをもとに、事前準備等を行う。				
学生に対する評価（提出課題については、ルーブリック評価を活用する） 授業の中間で行う筆記テスト（50%）、提出課題（50%）				
履修上の注意 ・ 保育実習Ⅰ（施設）も必ず履修すること。 ・課題の提出等、期限を必ず守ること。 ・施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。 ・履修登録時、記載漏れが多いので、チェックを忘れずに行うこと。 ・ 副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。 ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられるよう、事前学習、事前準備をしっかりと行い、実習課題を明確にすること。				
実務経験の有無	有	実務経験	高橋：施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容 高橋：施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明。実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 教育実習（幼稚園）Ⅰ ナンバリング：2809		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：1単位 （通年）演習		担当教員名： 花島慶子、塚越亜希子 担当形態：クラス分け	
科 目		教育実践に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育実習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。 2. 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のものとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。 3. 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。							
授業の概要							
本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解し、さらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。							
授業計画（事前授業）				授業時間外の学習			
第1回：幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解 第2回：園の経営方針及び特色ある教育活動 第3回：実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について 第4回：幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方 第5回：学級担任の補助的役割について 第6回：視聴覚教材などを用いた保育とその方法 第7回：幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分及び責任実習指導案の立案 第8回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成などを実地に即して身に付ける）				・実習校の園環境や方針（調書作成）・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認（オリエンテーション依頼）・保育の観察方法と日誌の記録の取り方・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案（巡視用地図作成）・幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表（1時間）			
（事後授業）							
第9回：教育実習で得られた成果と課題の話し合い 第10回：日誌を見てエピソード記録などを出し合い 第11回：園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。 第12回：園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。 第13回：実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。 第14回：実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。 第15回：実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。 定期試験：パワーポイントを作成し、実習の成果と課題を発表する。				・日誌や指導案を用いて自らの実践を振り返る。（1時間） ・園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。（お礼の手紙）（1時間） ・実習を振り返り、成果と自己課題をまとめる。（1時間） 実習の成果と課題を発表する。（1時間）			
授業の方法 講義。演習。提出された指導案についてフィードバックを行う。実習園からの評価をもとに個人面談。							
テキスト							
『平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社、『実習の手引き』埼玉純真短期大学							
参考書・参考資料等 適宜配布							
学生に対する評価 授業参画(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物(40%)。							
履修上の注意							
本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。幼稚園実習（前期・1週間）（後期・3週間）とも事前、事後指導を必ず受けること。							
実務経験の有無		有		実務経験		花島：元幼稚園勤務、元保育園園長 塚越：元幼稚園勤務	
実務経験を活かした教育内容							
花島・塚越：幼稚園、公立保育所、私立保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育実習（幼稚園）Ⅱ ナンバリング：2810		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：4単位 (4週間) 実習	担当教員名： 花島慶子、塚越亜希子 担当形態：複数
科 目		教育実践に関する科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育実習			
授業の到達目標及びテーマ （１）前期幼稚園教育実習（観察実習） ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実に即して記録できる。 ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。 ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。 （２）後期幼稚園教育実習（参加実習） ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。 ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。 ③学級担任の役割と職務内容を実施に即して理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。					
授業の概要 幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。					
授業計画「前半／基本実習」（1週間 ・ 1年次） 第1回：園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第2回：幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。 第3回：事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園記録の取り方を習得する。 第4回：園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。 第5回：幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第6回：幼児とのかかわりを通して。自らの課題を把握する。 第7回：部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半／責任実習」（3週間 ・ 2年次） 第8回：園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動のねらいとその指導の意図に気付き記録する。 第9回：教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。 第10回：幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。 第11回：クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案（細案）を作成し提出する。 第12回：指導教員のもとでねらいを持った「部分実習」を行う。 第13回：「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。 第14回：「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。 第15回：指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し、改善する。				授業時間外の学習 （１）幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。(1時間) （２）実習先の幼稚園に関する情報を集め。日誌に書き入れる。(1時間) （３）日誌の書き方を基に一日の出来事を指導教員に学びつつ丁寧に書く。(1時間) （４）幼児の発達年齢を理解し、それぞれの特徴を踏まえて実習に臨む。(1時間) （５）年齢ごとの指導案作成。(1時間) （６）パネルシアター、ペープサート、絵本読み、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。(1時間) （７）季節の歌や生活の歌など歌の伴奏や歌を場面や必要に応じて指導できるようにする。(1時間)	
授業の方法 実習。実習日誌と実習園からの評価をもとに個人面談をしてフィードバックを行う。					
テキスト 『よく分かる幼稚園実習』百瀬ゆかり 創成社、『実習の手引き』 埼玉純真短期大学					
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館					
学生に対する評価 実習園の評価（50％）、実習日誌・事前事後の取り組み（50％）から総合的に評価。					
履修上の注意 ○「教育実習（幼稚園）Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。 ○実習資格は、幼稚園教育実習に直接かわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること。					
実務経験の有無	有	実務経験	花島：元幼稚園勤務、元保育園園長 塚越：元幼稚園勤務		
実務経験を活かした教育内容 花島・塚越：幼稚園、公立保育所、私立保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。					

Ⅱ．2年生履修科目



卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： レクリエーション概論 ナンバリング：1019		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：金美珍 担当形態： 単独	
系 列		教養科目					
教科目		外国語、体育以外の科目					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 対人支援の場におけるレクリエーションの意義や活用法について理解できる。 2. レクリエーション・インストラクターの役割について説明できる。 3. レクリエーション・インストラクターとしての具体的な支援技術を習得することができる。							
授業の概要							
レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史・意義、レクリエーション・インストラクターの役割の理解など、レクリエーション・インストラクターとして必要な知識・技術を身につける。特に実際に対象・目的に合わせたレクリエーション計画の作成、レクリエーションプログラムの作成方法を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：レクリエーションについて 第2回：レクリエーション支援とは 第3回：レクリエーションの理解と歴史 第4回：楽しさを通した心の元気づくり 第5回：ライフステージと心の元気づくり 第6回：レクリエーション支援におけるコミュニケーション 第7回：対象者との信頼関係 第8回：集団づくりの理解 第9回：集団の成長を通した支援者の関わり 第10回：国際交流とレクリエーション 第11回：レクリエーションプログラムの作成① 第12回：レクリエーションプログラムの作成② 第13回：レクリエーションプログラムの作成③ 第14回：リスクマネジメント 第15回：レクリエーションをめぐる課題 定期試験：筆記				・ 授業時に配布した資料を参考に振り返りを行う。(1時間) ・ 学習した内容が各自の日常生活にどのように位置づいているかを調べる。(1時間) ・ レクリエーションは、特別な理解や技術ではなく、日常生活を豊かに過ごすための考え方であり、対象者に寄り添うための支援技術であることを普段の生活において意識し、参考になる資料を集める。(1時間)			
授業の方法 講義と演習、実技、グループ作業。ICT活用の授業も行なう。プログラム作成と実践に対しコメントをしてフィードバックする。							
テキスト 『楽しさをとおした心の元気づくり』 日本レクリエーション協会							
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。							
学生に対する評価							
定期試験（30％）、授業態度（40％）、レクリエーションプログラムの作成・実践（30％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
「レクリエーション・インストラクター」資格を取得希望の学生は、資格取得の必修授業なので必ず受講すること。但し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない学生でも受講できる。授業内容により体育館で行うことがある。また、羽生市内ほか県内のレクリエーション大会・講習会を見学する事もある。積極的な態度で授業に取り組むこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子ども家庭福祉 ナンバリング：2102		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：原口政明 担当形態：単独
系 列		保育の本質・目的に関する科目		
教科目		子ども家庭福祉		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。 3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。				
授業の概要 子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷、制度、現状、動向等について自ら課題意識を持って学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。				
授業計画 第1回：子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 第3回：子どもの人権擁護 第4回：子ども家庭福祉の制度と実施体制 第5回：子ども家庭福祉の施設と専門職 第6回：少子化と地域子育て支援 第7回：母子保健と子どもの健全育成 第8回：多様な保育ニーズへの対応 第9回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 第10回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 第11回：社会的養護 第12回：障害のある子どもへの対応 第13回：少年非行等への対応 第14回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 第15回：地域における連携・協働とネットワーク 定期試験：筆記			授業時間外の学習 (予習・復習：1時間程度) ・教科書を使って授業を進めるので、予習しておく。 ・発展的な課題レポートの提出を求める。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
授業の方法 講義、ディスカッション。授業終了時に行う振り返り用紙にコメントを入れ返却する。				
テキスト 『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版				
参考書・参考資料等 授業において適宜プリント資料を配布する。				
学生に対する評価 授業参画度（30％）、課題（30％）、定期試験（40％）を考慮し評価を行う。 毎回授業「まとめと振り返り」を活用し、ルーブリック評価を行う。				
履修上の注意 毎回授業終了時に「まとめと振り返り」用紙の提出を求める。				
実務経験の有無	有	実務経験	元中学校教諭・校長、指導主事、幼保巡回相談・教育相談	
実務経験を活かした教育内容 幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例をもとに授業をする。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 学校経営と管理 ナンバリング：2107		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：山畑昭司 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ 1. 学校を巡る近年の様々な状況の変化の変化を理解できる。 2. 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解出来る。 3. 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解できる。							
授業の概要 社会の状況を理解し、子どもをめぐる生活の実態を踏まえ、教育の課題や施策を学校と地域との連携や近隣市町村教育庁の講話を聴き理解する。							
授業計画 第1回：オリエンテーション、保育者の現状と園の経営を知る 第2回：園の経営と管理の実態（子供を巡る近年の様々な状況） 第3回：園の経営と管理の実態（子供の生活の変化） 第4回：園の経営と管理の実態（子供の課題を知り連携を理解する） 第5回：今日的な課題（クレームと子供の生活の問題点） 第6回：今日的な課題（クレームと保護者の生活） 第7回：今日的な課題（クレームへの留意すべき対応） 第8回：学校の現状と危機管理（子供の生活の変化） 第9回：学校の現状と危機管理（保護者の生活の変化と対応） 第10回：学校の現状と危機管理（学校の組織づくりの留意事項） 第11回：学校の現状と危機管理（組織間の留意事項） 第12回：学校の現状と危機管理（学校や関係機関との連携） 第13回：学校の現状と危機管理（地域との連携） 第14回：安全に関する配慮事項災害と安全教育 第15回：安全に関する配慮事項災害とまとめ 定期試験：筆記				授業時間外の学習 現状を知る（1時間） ・課題意識を持って調べる（1時間） ・調べ方を工夫する（30分） ・事実を整理する（1時間） ・クレームの意味を調べる（1時間） ・クレームの内容を検討する（1時間） ・クレームに対応の方法する（1時間） ・子供の事例を調べる（1時間） ・保護者の生活を調べる（1時間） ・学校の分掌を調べる（1時間） ・学校での実態を調べる（1時間） ・学校の組織間の実態を調べる（1時間） ・事例を調べる（1時間） ・問題の理解を深める（1時間） ・学習したことをまとめる（1時間）			
授業の方法 講義、グループを編成し、課題の調べ(ITC活用)、協議、改善案を作成する。PDCAに基づき協議する。 発表やレポートにはコメントを行いフィードバックする。							
テキスト 毎時間、オリジナルテキスト配布。							
参考書・参考資料等 『保育現場における困りごと相談ハンドブック』木元有香著 新日本法規 『クレーム対応テキスト』学校保護者関係研究会 『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『小学校学習指導要領』（平成29年3月31日 文部科学省） 新聞、ニュース等							
学生に対する評価 定期試験の成績（50％）、小テスト（20％）、受講態度等（30％）を判断して評価する。							
履修上の注意 実際の保育所・幼稚園の現場に即して学習を深めてほしいため、実習等の体験を充実してほしい。							
実務経験の有無		有		実務経験		元公立中学校教諭・教頭・校長	
実務経験を活かした教育内容 校長等の経験を活かし、学校経営全般に関わることを授業する。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名：久米 隼	
子ども家庭支援論						担当形態：単独	
ナンバリング：2108							
系 列		保育の本質・目的に関する科目					
教科目		子ども家庭支援論					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できる。							
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。							
3. 子育て家庭に対する支援の体制、子ども家庭支援の現状と課題について理解できる。							
授業の概要							
子ども家庭支援の意義・目的、子育て家庭への支援の基本姿勢・内容、実践の方法・技術、子ども家庭支援の課題と現状について理解し、専門職としての知識を定着させる。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：子ども家庭支援の意義				・毎回の講義を必ず復習し、			
第2回：子ども家庭支援の目的				学びや気づきを整理すると			
第3回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				ともに、毎回提示する課題			
第4回：子育て家庭支援の社会資源				に取り組むこと。			
第5回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援				(毎回1時間程度)			
第6回：子ども家庭支援と子どもの育ちの喜びの共有				・これまでの実習やボランテ			
第7回：子育てを自ら実践する力				ィア等での体験や経験を踏			
第8回：保育士に求められる基本的態度				まえて授業を展開するた			
第9回：家庭の状況に応じた支援				め、適宜振り返ることで学			
第10回：地域の資源の活用				びを深めること。			
第11回：子ども家庭支援の内容と対象							
第12回：保育所等を利用する子どもの家庭への支援							
第13回：地域の子育て家庭への支援							
第14回：要保護児童およびその家庭への支援							
第15回：子育て支援に関する課題と展望							
定期試験：筆記							
授業の方法							
講義およびグループワーク等による演習を中心に授業をすすめる。							
提出物やレポートには、コメントを入れてフィードバックする。							
テキスト 『保育所保育指針解説<平成30年3月>』厚生労働省、フレーベル館							
※その他にテキストを指定する際には開講時に説明をする。							
参考書・参考資料等							
『保育者のための子育て支援ガイドブック』中央法規							
※その他、授業において適宜プリント資料を配布する。							
学生に対する評価							
授業内課題・リアクションペーパー(40%)、定期試験(30%)、授業参画(30%)を総合的に評価する。							
※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意 授業では毎回課題を出す。自分の考えを整理し、伝える力を身に付けること。							
実務経験の有無		有		実務経験		子ども家庭支援に取り組むNPO組織の運営・実践 等	
実務経験を活かした教育内容 子ども家庭支援に関わる非営利組織（NPO）等の運営や活動に携わった実践経験を活かし、具体的な実践事例をもとに授業をする。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子ども家庭支援の心理学 ナンバリング：2203		保育士資格取得のための必修科目	単位数：2単位 （半期）講義	担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独
系 列		保育の対象の理解に関する科目		
教科目		子ども家庭支援の心理学		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる社会の状況と課題を理解し、現代の子どもの精神保健と課題を知る。				
授業の概要				
生涯発達についての理解を深め、家族・家庭の意義や現代社会の動向などを学ぶと共に、子どもの心の問題について学習する。				
授業計画			授業時間外の学習	
第1回：生涯発達について 第2回：乳幼児期から学童期前期までの発達 第3回：学童期後期 から青年期までの発達 第4回：成人期・老年期までの発達 第5回：家族・家庭の意義と機能 第6回：親子関係・家族関係の理解 第7回：子育ての経験と親としての育ち 第8回：子育て家庭に関する現状と課題 第9回：子育てを取り巻く 社会的状況 第10回：ライフコースと仕事・子育て 第11回：多様な家庭とその理解 第12回：特別な配慮を要する家庭（養育者のメンタルヘルス） 第13回：子どもの生活・生育歴とその影響 第14回：子どもの心の健康にかかわる問題（精神疾患） 第15回：子どもの心の健康にかかわる問題（発達障害、他） 定期試験：筆記			・授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。	
授業の方法 講義・グループ演習やワーク。単元ごとの小レポートにコメントを入れて返却する。				
テキスト なし。授業時に適宜プリントを配布する。				
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。				
学生に対する評価				
授業態度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）、評価はルーブリックに準じる。				
履修上の注意				
受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）	
実務経験を活かした教育内容				
精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 子どもの理解と援助 ナンバリング：2204		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：原口政明 担当形態：単独	
系 列		保育の対象の理解に関する科目					
教科目		子どもの理解と援助					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について説明できる。							
2. 子どもを理解するための基本的な考え方、具体的な方法について説明できる。							
3. 子どもの理解に基づいた保育実践における援助と態度の基本について説明できる。							
授業の概要							
子どもを援助する際、子どもの発達や学びの状態を十分に理解し、対応していくことが重要である。本授業では、子ども一人一人の発達や学びを把握する意義を理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方・視点、具体的な方法について学んでいく。そして、子どもの発達に応じた援助や特別な配慮を要する子どもへの援助など、子ども理解に基づく、実践に即した援助、態度の基本について考える。							
授業計画				授業時間外の学習(毎回1時間程度)			
第1回：保育における子ども理解の意義				・教科書を使って授業を進めるので、予習しておく。			
第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解				・発展的な課題レポートの提出を求める。(2回程度)			
第3回：子どもの生活や遊び				・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。			
第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達							
第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり							
第6回：集団における経験と育ち							
第7回：発達における葛藤やつまずき							
第8回：保育の環境の理解と構成							
第9回：環境の変化や移行							
第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価							
第11回：子ども理解のための職員間の対話							
第12回：子ども理解のための保護者との情報共有							
第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり							
第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助							
第15回：発達の連続性と就学への支援							
定期試験：筆記							
授業の方法 講義、ディスカッション。授業終了時に行う振り返り用紙にコメントを入れ返却する。							
テキスト 『新基本保育シリーズ10子どもの理解と援助』 児童育成協会監修 中央法規出版							
参考書・参考資料等 授業において適宜プリントを配布する。							
学生に対する評価							
授業参画度(30%)、課題(30%)、定期試験(40%)を考慮し評価を行う。							
毎回授業「まとめと振り返り」を活用し、ルーブリック評価を行う。							
履修上の注意							
毎回授業終了時に「まとめと振り返り」用紙の提出を求める。							
実務経験の有無		有		実務経験		元中学校教諭・校長、指導主事、幼保巡回相談 公認心理師	
実務経験を活かした教育内容 保育士との協働の経験を活かし、具体的な事例をもとに授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：波田野尚美	
子どもの食と栄養		必修科目		(半期) 演習		担当形態：単独	
ナンバリング： 2206							
科 目		保育の対象の理解に関する科目					
教科目		子どもの食と栄養					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる。							
2. 子どもの発達と食生活について理解し、乳児期から幼児期の栄養補給の特徴を説明できる。							
3. 子どもの食生活の現状と課題を理解し、食育の意義、目的を考えることができる。							
授業の概要							
子どもの発育・発達・健康増進のために必要な栄養学、正しい食生活のあり方、食事方法等についての基本的な知識を学習する。講義および実習から、食の大切さや食育の重要性を理解し、子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるような知識を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：子どもの健康と食生活の意義				・ 授業計画に基づき、教科書の対応箇所を事前に読んでおく。授業後は、教科書や配布プリントを復習し、理解を深める。予習・復習には1時間程度の時間が必要である。			
第2回：栄養に関する基本的知識①				・ 日々、子どもや食に関するニュースを把握し、自分で考える時間が20分程度必要である。			
第3回：栄養に関する基本的知識②							
第4回：栄養に関する基本的知識③							
第5回：乳汁期の栄養							
第6回：離乳期の栄養							
第7回：実習① （乳汁栄養・離乳食）							
第8回：幼児期の栄養と食事							
第9回：実習② （幼児のおやつ）							
第10回：実習③ （幼児食）							
第11回：食の衛生と安全①							
第12回：食の衛生と安全②							
第13回：実習④ （アレルギー対応食）							
第14回：食育①							
第15回：食育②・まとめ							
定期試験：筆記							
授業の方法 講義、実習。提出物にコメントを記入して返却する。							
テキスト 『イラスト 子どもの食と栄養』 著者代表 森脇千夏 東京教学社							
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する							
学生に対する評価							
定期試験の成績（50％）、課題・提出物（30％）、実習・受講態度（20％）を判断して評価する。							
※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意							
・ 実習では、エプロン・三角巾・名札を各自用意する。							
・ 子どもや食に関するニュースに関心を持ち、理解を深めること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元高等学校家庭科教諭	
実務経験を活かした教育内容							
家庭科の授業実践の経験を活かし、食の大切さについて分かりやすい授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育内容（環境） 指導法 ナンバリング：2305		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：塚越亜希子 担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習					
授業の到達目標及びテーマ 1.子どもを取り巻く環境と発達におけるそれらの重要性について理解し、説明することができる。 2.領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、保育の構想に活用することができる。 3.領域「環境」における経験内容を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。							
授業の概要 幼稚園教育要領等に示される領域「環境」は子どもたちが「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深めると共に、子どもの発達に即して深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想および指導方法を身に付ける。							
授業計画 第1回：子どもと環境について 第2回：保育内容の全体構造と領域「環境」の展開 第3回：保育の過程（プロセス）と指導計画 第4回：「もの」とのかかわりと保育実践 第5回：「自然」とのかかわりと保育実践 ①子どもが自然とのかかわりを深めるための視点 第6回：「自然」とのかかわりと保育実践 ②自然とのかかわりの指導法 第7回：「自然」とのかかわりと保育実践 ③自然とのかかわりの指導法 第8回：「数量・図形」とのかかわりと保育実践 第9回：「標識・文字」とのかかわりと保育実践 第10回：「身近な情報」とのかかわりと保育実践 第11回：「身近な施設・地域・さまざまな文化」とのかかわりと保育実践 第12回：「行事」とのかかわりと保育実践 第13回：遊びを通した総合的な指導の展開①指導案の作成 第14回：遊びを通した総合的な指導の展開②模擬保育 第15回：領域「環境」にかかわる現代的課題と本授業のまとめ 定期試験：レポート				授業時間外の学習 ・各回のテーマに該当する教科書のページを事前事後に目を通すこと。（60分） ・参考資料に記載してある各種解説書の関連ページを予習、復習で活用すること。（30分） ・これまでの実習での経験や学びを活かし、環境構成や保育者の援助等、保育を展開するためのポイントを探っていくこと。 ・自身の身近な環境、特に自然環境に意識的に関心に向けて生活すること。			
授業の方法 講義およびグループワーク・事例検討などを行う。 課題や提出物、レポートにはコメントを入れて返却する。							
テキスト 『実践例から学びを深める保育内容・領域 環境指導法』小櫃智子編 わかば社							
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも平成28年 フレーベル館）							
学生に対する評価 受講態度等（20%）、授業内小レポート（30%）、レポート（50%）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意 ・1年生科目「子どもと環境」の学びを振り返り、その知識を土台として具体的な保育実践を考えていくこと。 ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為は慎むこと。 ・授業内で提示する課題等の提出期限は厳守すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、領域「環境」のねらい及び内容について具体的な事例をもとに解説をする。また、保育を展開していくための方法や技術について、そのポイントや指導上の留意点について具体的に講じる。							

卒業必修		保育士必修			幼稚園教諭必修		選択
授業科目名： 保育内容（言葉） 指導法 ナンバリング：2306		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：細田香織 担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 領域「言葉」のねらい及び内容、全体構造を理解できる。 2. 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。 3. 自らの「言葉」を内省し、保育者としての言語環境の向上に努める姿勢を培うことができる。							
授業の概要							
領域「言葉」について理解した上で、保育実習等の実践を経ての知見も含めた意見交換を行い学びを深めながら、主体的に学ぶ。保育者として子どもの「言葉」を受け止め、かかわり、子どもが主体的に言葉で表現できるような環境づくりができるよう、具体的な指導法について考える。							
授業計画						授業時間外の学習	
第1回：「言葉」の持つ力 - 自己肯定感と言葉の関係 - 第2回：保育における「言葉」とは - 領域「言葉」のねらい及び内容 - 第3回：領域「言葉」のねらいや内容を生かした指導案・週案の例（教材研究） 第4回：「言葉」の領域を意識した指導案を作成してみよう（ICTでの情報を用いて） 第5回：言葉を育てる保育者の役割と援助 第6回：実習に向けて：保育者の言葉・子どもの言葉の観察の視点（模擬保育） 第7回：実習を終えて（報告交流会～指導案の振り返り～） - 子どもの言葉・保育者の言葉からの発見・学びの交流 - 第8回：「わたし」をつくる言葉（イヤイヤ期について） 第9回：乳幼児期の発達と言葉 第10回：コミュニケーション能力と発達の過程（脳科学等から） 第11回：好奇心の出現 - 質問期の子どもへの対応と保育の展開 - 第12回：より良い言葉がけ - 発達障害の子どもの認知の特徴も考慮して - 第13回：お便り帳の意義と書き方(基本的考え方・注意点等) 第14回：児童文化財の活用 - 素話・絵本・紙芝居・幼年童話 - 第15回：保育者が自身の「言葉」の力を高めることの必要性和その方策						・ 毎回、授業の最初に一人ずつ絵本の読み聞かせを行う。担当者は、必ず下読みをして準備をしてくること。（20分程度） ・ 授業の中で実習や保育現場でよく使う漢字や、敬語、差別語等の小テストを行うので時間外も学習すること。（30分程度） ・ 自らの言葉遣いを内省し、日常から用いる言葉を丁寧に、相手に伝わるよう意識して用いること。	
定期試験：筆記							
授業の方法							
グループ活動、クラスでの意見の交流、ICTの活用もして授業を行う。 授業で集めたプリントやレポートには、赤でコメントを入れる等して返却する。							
テキスト 『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編著 保育出版社							
参考書・参考資料等							
『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店、『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
学生に対する評価							
授業への参加度（グループ討議・毎授業振り返りプリントの内容など）（50％）、筆記試験（50％） ルーブリック評価を活用する。							
履修上の注意							
主体的に学び、個人の学びを他者と交流することで多様な指導法の可能性を探究する意識を持つこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育内容（音楽表現） 指導法 ナンバリング：2307		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：小澤和恵 担当形態：単独	
科目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習					
授業の到達目標及びテーマ 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの音楽表現における指導法を身につけることができる。 2. 具体的な音楽表現活動を想定して指導案を作成し、実践（模擬保育）することができる。 3. 音楽表現活動に、情報機器及び教材を活用することができる。							
授業の概要 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような音楽表現の指導法を身につける。							
授業計画 第1回：ガイダンス～領域「表現」における音楽表現～ 第2回：サウンドスケープ（音環境と表現） 第3回：歌う活動の指導法（わらべ歌・遊び歌） 第4回：歌う活動の指導法（生活の歌・季節の歌） 第5回：楽器を使った活動の指導法（楽器の奏法） 第6回：楽器を使った活動の指導法（合奏曲の編曲法） 第7回：楽器を使った活動の指導法（合奏曲の発表） 第8回：世界の音楽教育について （ダルクローズ、オルフ、コダーイの音楽教育） 第9回：保育内容としての音楽表現と、小学校教育の音楽の 学びと連続性について 第10回：音楽表現活動の指導案を作成 第11回：指導案に沿って模擬授業発表 第12回：模擬授業実践の振り返り 第13回：音楽的活動と他領域との関係（音楽と動き） 第14回：音楽的活動と他領域との関係（音楽とICT活用） 第15回：音楽表現における保育実践の動向と今後の実践に向けて 定期試験：筆記				授業時間外の学習 （毎回それぞれ指示した予習・復習を1時間） ・テーマについての調べ学習 ・毎回、順番で遊び歌の模擬授業を行うので、指導案作成と発表準備と練習をする ・合奏曲の編曲の仕上げ ・合奏曲発表の準備・練習 ・テーマについての調べ学習 ・テーマについての調べ学習 ・指導案作成 ・模擬授業の準備 ・模擬授業の振り返り ・テーマについての調べ学習 ・ 〃 ・ 〃			
授業の方法 講義と演習。提出されたワークシートや指導案にコメントを入れて返却する。							
テキスト 『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』石井玲子編著 教育情報出版							
参考書・参考資料等 『保育者を育てるための保育内容音楽表現』石井玲子編著 教育情報出版 『コンパクト版保育内容シリーズ『音楽表現』』谷田貝公昭監修 一藝社 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
学生に対する評価 ルーブリック評価を活用した評価ワークシートや指導案などの提出物、発表内容（40%）と授業参画度（10%）と定期試験の成績（50%）で評価する。							
履修上の注意 模擬授業発表の場に対し、しっかりと準備して積極的に取り組むこと。 何事にも興味・関心をもち、心の枠を広げられるように臨んでほしい。							
実務経験の有無		有		実務経験		元中学校音楽科教諭	
実務経験を活かした教育内容 音楽授業実践の経験を活かし、具体的な歌唱、器楽合奏の授業実践方法の指導を行う。							

卒業必修		保育士必修			幼稚園教諭必修			選択	
授業科目名：保育内容 （造形表現）指導法 ナンバリング：2308			教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：小日向千秋		
							担当形態：単独		
科 目／系 列			領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目						
施行規則に定める科目区分 又は事項等／教科目			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習						
授業の到達目標及びテーマ									
1. 深い観察力や実素材を扱う技能を身に着け、自由な発想を具体的に表現することができるようになる。									
2. 造形に関する技術や知識を深め、指導者としての応用力を持つことができる。									
3. 子供たちの創造力を養い伸ばす為に必要な、指導者としての意識と技術を習得し、造形表現を通して子どもの成長を促す能力を身に付ける。									
授業の概要									
保育の現場で必要となる造形表現の実践と共に、造形表現の根幹となる実素材による制作、観察などの課題を通して制作力、実行力、指導力を育成する。									
授業計画						授業時間外の学習 ・次課題に関する情報を集め、アイデアを得る ・制作に関する資料を集め、アイデアスケッチ（エスキース）を行う ・制作プランニングに従い、常に、授業外でも完成に向けて、制作、資料収集をする。 ・時間内に完成しなかった制作は次回までに自主的に完成させる （上記を含め、予習・復習に1～2時間程度） 制作活動に関する指導案を作成する			
第1回：ガイダンス、教材の調査とプランニング									
第2回：情報機器を使用しての情報収集・教材研究									
第3回：ペーパーサート 研究及び制作									
第4回：ペーパーサート発表と講評会									
第5回：陶芸 土鈴 制作									
第6回：陶芸 器と日用品 制作									
第7回：絵画観察と表現 植物を描く 素描									
第8回：絵画観察と表現 植物を描く 彩色 講評会									
第9回：陶芸 施釉、彩色									
第10回：木版画 多色刷りの絵葉書を作る 調査・研究									
第11回：木版画 制作（下絵・色分割・トレース）									
第12回：木版画 制作（彫刻）									
第13回：制作活動に関する指導案を作成する									
第14回：保育における制作活動発表（模擬保育）									
第15回：発表の振り返り・講評会									
定期試験：レポート									
授業の方法 実技、演習、プレゼンテーション。前課題の提出を義務付ける。									
テキスト 適宜プリントを配布する。									
参考書・参考資料等									
適宜プリントを配布する。図書館等での資料収集を各課題ごとに適宜指導する。									
幼稚園教育要領(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)									
保育所保育指針(最新版)									
学生に対する評価									
提出作品（40％）、受講態度（20％）、創作への意欲（20％）、レポート（20％）をルーブリック評価表参照の上で総合的に評価する。									
履修上の注意									
怪我等の事故が起こらないよう安全に留意すること。汚れても良い服装で授業に臨むこと。									
授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。									
実務経験の有無		無		実務経験					
実務経験を生かした教育内容									

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択
授業科目名： 保育内容（身体表現） 指導法 ナンバリング：2309		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：金美珍 担当形態：単独	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
授業の到達目標及びテーマ 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの身体表現における指導法を身につけることができる。 2. 具体的な身体表現活動を想定して指導案を作成し、保育実践をすることができる。 3. 様々な動きを応用し、子どもの身体表現活動に活用することができる。						
授業の概要 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような身体表現の指導法を身につける。						
授業計画 第1回：領域「表現」における身体表現 第2回：身体を使ったコミュニケーション遊び 第3回：身体を使ったコミュニケーション遊びの指導法 第4回：用具を用いた運動遊び 第5回：用具を用いた運動遊びの指導法 第6回：リズムに合わせた身体表現 第7回：リズムに合わせた身体表現の指導法 第8回：身体表現活動の指導案作成、模擬保育の準備 第9回：身体表現活動模擬保育 Aグループ発表と振り返り 第10回：身体表現活動模擬保育 Bグループ発表と振り返り 第11回：身体表現創作①テーマを決める 第12回：身体表現創作②パート創作 第13回：身体表現創作③全体練習（撮影ー動きの確認と改善） 第14回：身体表現創作④全体練習 第15回：身体表現創作⑤ステージ発表 定期試験：パート創作の実技試験、レポート				授業時間外の学習 ・日頃から表現としてのジェスチャーや動作に意識をもつ。（毎日10～15分） ・コミュニケーション遊びのレパトリーを広げる。（1時間） ・指導案の作成。（3時間） ・模擬保育の準備。（2時間） ・ステージ発表に向けて、グループ、クラスで自主練習。（2時間） ・ステージスタッフとの打ち合わせ。（1時間）		
授業の方法 実技、演習。指導案や発表に対しコメントでフィードバックする。						
テキスト なし						
参考書・参考資料等 適宜、必要な資料を配布する。 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）						
学生に対する評価 定期試験（50％）、授業への取り組み姿勢（50％）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。						
履修上の注意 必ず時間までに指定のジャージに着替え、シューズを履いていること。 また、ネックレス及び指輪、イヤリング等の装飾品は外すこと。						
実務経験の有無		無		実務経験		
実務経験を活かした教育内容						

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育内容応用指導法 ナンバリング：2310		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：小澤和恵, 瀬戸奏 担当形態：クラス分け, 複数
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 1. オペレッタに取り組み、保育内容5領域を総合的に捉えた指導法を身につけることができる。 2. 台詞、歌、動きの練習と衣装や大道具、小道具制作をとおり、想像力、創造力、表現力をつけることができる。 3. 協力してひとつの作品を作り上げる過程の中で、協調性・社会性を高めながら、問題解決能力や課題遂行能力を身につけることができる。				
授業の概要 保育内容5領域に対応した横断的、総合的指導法を学習する授業としてオペレッタに取り組む。台詞、歌、それに伴う動き、衣装や大道具、小道具制作、様々な体験の中から、想像力、創造力、表現力、協調性が養われ、幼児教育者としての資質を高めていく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション （授業の進め方、この授業で何を学ぶか、演目の決定） 第2回：台本読み合わせ、作品の理解、配役と役割分担 第3回：歌、台詞の練習（役ごとに練習） 第4回：歌、台詞の練習（場面ごとに練習） 第5回：歌、台詞の練習（全体練習） 第6回：歌、台詞の練習後、意見交換 第7回：歌、台詞に動きをつける練習（役ごとに練習） 第8回：歌、台詞に動きをつける練習（場面ごとに練習） 第9回：歌、台詞に動きをつける練習（全体練習） 第10回：歌、台詞に動きをつける練習後、意見交換 第11回：小道具、大道具を使用する練習（場面ごとに練習） 第12回：小道具、大道具を使用する練習（全体練習） 第13回：衣装をつけ、小道具、大道具を使用する練習 （撮影・演出方法の工夫と改善） 第14回：リハーサル（全体練習） 第15回：表現発表会での上演 定期試験：振り返りレポート			授業時間外の学習 （各回指示した内容を1時間程度） 演目に関する資料収集 時代背景を調べる 原作を読む 個々の役割に応じて 歌、台詞、動きの自主練習 衣装、小道具、大道具制作 ステージスタッフとの打ち合わせ	
授業の方法 実技、演習。履修者全員で話し合いながら作り上げていく。毎回提出する「取り組み表」に赤でコメントを書いてフィードバックする。				
テキスト 決定演目の台本				
参考書・参考資料等 演目の原作や演目に関する資料 学生自身も、表現力を高めるための関係資料を収集し情報交換を行う。 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）				
学生に対する評価 「取り組み表」と「振り返りレポート（ルーブリック評価含む）」（50%） 受講態度と発表（表現力と協調性という観点から）（50%）を判断して評価する。				
履修上の注意 発表に向けて、意欲的に取り組むこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	小澤：元中学校音楽科教諭	
実務経験を活かした教育内容 小澤：授業実践の経験を活かし、企画・運営の方法と具体的な練習方法を取り入れていく。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育内容応用指導法 ナンバリング：2310		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：小澤俊太郎 担当形態：クラス分け
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 保育内容5領域のねらいと内容を総合的に理解した上で、それらをもとに影絵劇の制作をすることができる。				
2. 台本制作、影絵制作、背景制作、影絵の動きの練習、音作りの各役割について理解できる。				
3. 影絵劇の制作・上映を通して、コミュニケーションを円滑に行い、協力することができる。				
授業の概要				
影絵の制作と上映に取り組むことで、保育内容5領域を総合的に理解する。				
役割ごとに小編成のグループに分けるが、決して縦断的になるのではなく、相互の関わりの中から保育者としての応用力を身につける。				
授業計画			授業時間外の学習	
第1回：影絵とは（影絵の起源）・演目決めと役割決め			毎回の授業ごとに振り返りシートと	
第2回：台本のアウトラインを作る（グループディスカッション）			次週までの課題をオンラインにて担	
第3回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り①			当教員に提出をする。	
第4回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り②			それに基づいた事前準備と事前学習	
第5回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り③			を行うこと。	
第6回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り④			(1時間)	
第7回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り⑤				
第8回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り⑥				
第9回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り⑦				
第10回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り⑧				
第11回：影絵制作・台本制作・背景制作・音作り⑨				
第12回：影絵劇の上映練習 ① 影絵の動かし方				
第13回：影絵劇の上映練習 ② 台詞に合った表現				
第14回：影絵劇の上映練習 ③ 各役割との連携				
第15回：リハーサル				
定期試験：表現発表会での上映				
授業の方法 はさみやカラーセロファンを使った制作と、情報機器（iPadやパソコン）を使用した影絵の制作を行うことで、アナログとデジタルのそれぞれの利点を考えながら講義を展開する。				
授業ごとの課題と振り返りシート、それらのフィードバックは全てオンライン上で実施する。				
テキスト 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）				
参考書・参考資料等 『影絵劇への招待』とう・たいりう著（晩成書房）				
学生に対する評価				
発表までの取り組み(50%)、振り返りシート(30%)、発表（20%）を判断して評価する。				
履修上の注意 本科目は、既に学んだ保育内容の基本的な考え方をもとに、どのように保育を展開したらよいのかを実践的に学び発表する授業である。真摯に取り組み、十分な準備をして授業を受けること。また、学生同士協力して良い学びと発表ができるように取り組むこと。				
実務経験の有無	無	実務経験		
実務経験を活かした教育内容				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育内容応用指導法 ナンバリング：2310		教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目		単位数：1単位		担当教員名：小日向千秋	
				（半期）演習		担当形態：クラス分け	
科 目／系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める科目区分 又は事項等／教科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ 1. 美術分野という視点から保育内容を捉え、各自がテーマを決めて自由制作を行うことができるようになる。 2. 自身の興味を追求し、豊かな感性とそれに見合う実現能力をもつことができる。 3. 各自が企画・制作をおこない、自主性と実行力を身につける。							
授業の概要 美術分野という視点から保育内容を捉え、各自がテーマを決めて自由制作を行うことにより、創造力と表現力、自主性と実行力が養われ、幼児教育者としての資質を高めていく。							
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方、この授業で何を学ぶか） 第2回：テーマの決定 第3回：保育現場における制作活動に関する指導案作成 第4回：制作に関する資料集め、材料準備 第5回：制作1－① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり 第6回：制作1－② 裁断、組み立て等 第7回：制作1－③ 制作続き 第8回：制作1－④ 制作1の完成、発表、ミーティング 第9回：制作2－① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり 第10回：制作2－② 裁断、組み立て等 第11回：制作2－③ 制作続き 第12回：制作2－④ 発表を見立てての制作 第13回：制作2－⑤ 制作の仕上げ 第14回：発表会場でのリハーサル、展示準備 第15回：表現発表会での上演、展示 定期試験：レポート				授業時間外の学習 テーマを考える テーマに関する情報を集め、アイデアを得る 制作に関する資料を集める 制作プランニングに従い、常に、授業外でも完成に向けて、制作、資料収集をする。 上記に関し1～2時間程度の時間が必要である。 会場スタッフとの打ち合わせ			
授業の方法 実技、演習、フィールドワーク、プレゼンテーション。期間の中で2点（2分野）以上の作品を完成させること。 制作した作品は表現発表会において発表する。							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 テーマ制作に関する資料を各自用意。 幼稚園教育要領(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 保育所保育指針(最新版)							
学生に対する評価 提出作品（40％）、受講態度（20％）、創作への意欲（20％）、レポート（20％）をルーブリック評価表参照の上で総合的に評価する。							
履修上の注意 材料は、基本的に各自で購入すること。 与えられた課題制作ではとは異なるため、自主性と積極性が求められる。 授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を生かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 幼児教育方法論 ナンバリング：2311		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 講義		担当教員名： 花島慶子、塚越亜希子 担当形態：クラス分け	
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え方に基づいて保育の環境構成を考えることができる。 2. 幼稚園教育要領に基づく基礎的な幼児指導、幼児理解の考え方を踏まえた保育の目的に適した指導技術を身につけることができる。 3. 幼児の興味、関心を高めるための適切な教材活用(情報機器の活用も含め)などを踏まえた模擬実践を行い、それらを基に、計画-実践-評価-改善のあり方を省察し他者に説明できる。							
授業の概要							
これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用について様々な視点から考察し、幼稚園や保育所、認定こども園における保育者の役割を考え、具体的な援助や指導の方法を学ぶ。							
授業計画				授業時間外の学習（1時間）			
第1回：幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え方とその実践方法の基礎を学ぶ。				・「幼稚園教育要領解説とポイントと解説」「総則」を熟読してまとめる。			
第2回：教育方法の基本を通して遊びの中で、幼児が主体となり、協同的な学びのある保育について理解する。				・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読して「遊びを通した総合的な指導」についてまとめる。			
第3回：保育を構成する基本的な環境について理解して、現場に即して実践を考える。				・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読して「環境を構成する視点」についてまとめる。			
第4回：様々な保育形態と保育方法について理解し、幼児にとって必要な教材、教具や環境について考察する。(視聴覚教材を用いて)							
第5回：幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を身につける。							
第6回：5領域の考え方を理解した上で、幼児が興味・関心を持てる課題を自らつかむための、幼児教育の方法を考案する。				・保育における評価の考え方をまとめる。			
第7回：基礎的な幼児教育の考え方を踏まえて、ねらい、内容を考え教材・教材意義とその指導方法を考える。				・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読し「各領域に示す事項」についてまとめる。			
第8回：小学校教育との接続も踏まえた幼児の指導方法を考える。				・様々な教材研究をする。			
第9回：幼児との環境との関係を考慮しながら、情報機器の効果的な活用について考察する。				・小学校以降の生活・学習とその接続についてまとめる。			
第10回：季節や行事も踏まえ幼児の発達に沿った幼児の興味関心をひき、学びにつながる指導案を立案する。				・幼児の情報機器活用について調べる。			
第11回：作成した指導案を基に、ねらいを基に教師の話法、保育展開の方法、保育技術の活用を考え模擬保育の準備をする。				・発達年齢を踏まえた指導案を立案する。(運動・制作・遊び・音楽など)			
第12回：模擬授業を体験する。(幼児・教師・観察者・助言者)①				・3歳児の指導案を作成する。			
第13回：模擬保育を体験する。(幼児・教師・観察者・助言者)②				・4歳児の指導案を作成する。			
第14回：模擬保育を通して振り返り、計画-実践-評価-改善を							

考察する。環境の再構成を考える。		・5歳児の指導案を作成する。 ・模擬保育の準備をする。 ・模擬保育を通してさらなる環境の再構成についてまとめる。そして、模擬保育を省察し、それらの課題を踏まえた保育展開をするための課題を考え、まとめる。
第15回：模擬保育を通して振り返り、自らの幼児教育の方法についての今後の課題を話し合い、発表する。		
定期試験：レポート		
授業の方法 講義、演習、アクティブラーニング型。課題に対して次の授業でフィードバックする。		
テキスト 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）		
参考書・参考資料等 適宜配布する。		
学生に対する評価 模擬保育の成績（40％）、小テスト（20％）、受講態度・ルーブリック評価等（20％）、レポート（20％）を判断して評価する。		
履修上の注意 幼児教育の方法を理論より理解した上で、指導案を作成し、模擬保育を行う。各授業のまとめ、指導案などの提出物は必ず期限内に提出すること。また、模擬保育は、環境構成、服装、言葉、振り返り発表など全てを含めて教員評価及び学生評価を行う。真摯に準備して実践に向かうこと。		
実務経験の有無	有	実務経験 花島：元保育園園長、元幼稚園教諭、元学童指導員 塚越：元私立幼稚園勤務、元公立幼稚園勤務
実務経験を活かした教育内容 花島：幼稚園勤務、公立保育所保育士、学童クラブ指導員、認可保育園園長としての経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。 塚越：私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身につけられるよう授業を行う		

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 乳児保育Ⅰ ナンバリング：2312		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：加藤房江 担当形態：単独
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		乳児保育Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷・役割、現状と課題について理解できる。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や運営体制について理解できる。 3. 乳児保育の職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携、乳児保育の現状・課題等を理解できる。				
授業の概要 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状・課題等を理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学び、理解することも重要である。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、乳児保育の意義と目的 第2回：乳児保育の歴史的変遷と役割・機能 第3回：乳児保育における養護及び教育 第4回：乳児保育及び子育て家庭への支援と課題 第5回：保育所における乳児保育 第6回：乳児院等保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 第7回：家庭的保育等における乳児保育 第8回：3歳未満児の家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 第9回：3歳未満児の生活と環境 第10回：3歳未満児の遊びと環境 第11回：3歳未満児の保育に移行する時期の保育 第12回：3歳未満児の発達・発育を踏まえた援助や関わり 第13回：3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育における配慮 第14回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義 第15回：職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携 定期試験：レポート・小テスト			授業時間外の学習 予習、復習には1～2時間程度の時間が必要であり、テキストを精読する。 予習プリントの課題がある場合は、事前に記入して、授業に臨むこと。 授業終了後は、1時間程度の復習を行う。	
授業の方法 講義、視聴覚教材を通して乳児保育の意義や歴史的変遷、乳児を取り巻く社会状況、保育の方法を理解する。小テスト等を行い学習の定着を図る。ロールプレイを通して能動的に実践することで、保育を構成する力を身につける。学生からの課題に対して、次の授業でフィードバックしている。				
テキスト 『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林				
参考書・参考資料等 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）				
学生に対する評価 ルーブリック評価・授業内提出物・課題レポート・小テスト（70%）、授業における参加意欲・発表（30%）等で判断する。				
履修上の注意 ・保育士になるための大切な授業であり、自ら調べ積極的姿勢で学ぶこと。 ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品を忘れない。 ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態で授業に臨むことを期待する。				
実務経験の有無	有	実務経験	元保育士・元主任保育士	
実務経験を活かした教育内容 保育士の経験を活かし、実際の保育現場の心構えなどを習得できるよう授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 乳児保育Ⅱ ナンバリング：2313		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：単独
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		乳児保育Ⅱ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境について理解できる。 3. 乳児保育における配慮の実践について学び、指導計画の作成について理解できる。				
授業の概要 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方や養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境についての理論と実践をすり合わせて理解し、計画の作成ができるよう考察を深めていく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、乳児保育の基本と保育士等との関係の重要性 第2回：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり 第3回：子どもの主体性の尊重と自己の育ち 第4回：子どもの体験と学びの芽生え 第5回：子どもの1日の生活の流れと保育の環境 第6回：子どもの生活や遊びを支える環境の構成 第7回：子どもの体験と学びの芽生え 第8回：子どもの1日の生活の流れと保育の環境 第9回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践 第10回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 第11回：子ども同士の関わりとその援助の実践 第12回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 第13回：集団での生活における配慮 第14回：環境の変化や移行に対する配慮 第15回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 個別的な指導計画と集団の指導計画 定期試験：レポート・小テスト			授業時間外の学習 課題プリントやロールプレイ、グループワークにおいて主体的に臨む姿勢が大切になるので、事前学習と事後学習に1～2時間程度の時間が必要である。 自らが将来的課題を見つけてそれに向かって学習することが重要である。	
授業の方法 乳児人形を使い実際の技術を学び、保育実践を行う。また、視聴覚教材を通して実際の現場の様子を把握し、子どもの様子や保育の仕事内容を理解する。ロールプレイを通して能動的に実際の保育者役・子ども役を体験することで、保育を構成し、計画、立案する力を身につける。学生からの課題に対して、次の授業でフィードバックしている。				
テキスト 『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林				
参考書・参考資料等 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）				
学生に対する評価 ルーブリック評価・授業内提出物・課題レポート・小テスト（70%）、授業における参加意欲・発表(30%)等で判断する。				
履修上の注意 ・保育士になるための大切な授業であり、「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基礎として、乳児保育の学びを深められるよう積極的姿勢で学ぶこと。 ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品を忘れない。 ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態で授業に臨むことを期待する。				
実務経験の有無	有	実務経験	元保育士、元主任保育士	
実務経験を活かした教育内容 保育士の経験を活かし、実践での子どもとの関わり方や保育士の職務内容を学ぶ等に役立つ授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名：竹内麻貴 担当形態：単独	
子どもの健康と安全							
ナンバリング：2314							
系 列		保育の内容・方法に関する科目					
教科目		子どもの健康と安全					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解できる。							
2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解できる。							
3. 子どもの健康や安全の管理に関わる組織的な取組や保健活動の計画・評価について理解できる。							
授業の概要							
保健的な観点に基づく環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得する科目である。アレルギー対応、感染症対策、事故防止、事故発生時の対応などについて、関連するガイドラインや近年のデータに基づいて具体的に理解していく。子どもの健康や安全の管理に関わる、組織的な取組や保健活動の計画・評価等についても理解する。							
応急処置演習も行い、実践的な技術を獲得する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：保育的視点を踏まえた保育環境及び援助				予習は、あらかじめ教科書			
第2回：子どもに関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理				を読んでおく。また実習や身			
第3回：保育における健康及び安全の管理・衛生管理				近に乳幼児がいる場合は授業			
第4回：事故防止及び安全管理・危機管理・災害対策①				で学んだことを確認・実践し			
第5回：事故防止及び安全管理・危機管理・災害対策②				ておく。			
第6回：子どもの体調不良等に対する適切な対応と応急処置				復習は、ポイントをまとめ、			
第7回：子どもの障害が発生した場合の適切な対応と応急処置				演習でうまく出来なかった内			
第8回：救急処置及び救急蘇生法①				容を人形などで再度行うなど			
第9回：救急処置及び救急蘇生法②				ふり返っておく。			
第10回：救急処置及び救急蘇生法③				乳幼児に関する保健や事故			
第11回：感染症対策 発症時と罹患後の対応 集団発生の予防				に関する報道に意識的に目を			
第12回：健康及び安全管理の実施体制				向け、把握するよう心掛ける。			
第13回：職員間の連携と協働、組織的取組				またそれに対して自分なりに			
第14回：母子保健、地域保健、専門機関、自治体等との連携				考える習慣を身に付ける。			
第15回：まとめ				標準学修時間の目安：演習手			
定期試験：筆記試験				順や講義内容の予習、復習、			
				宿題を含めて120分以上が望			
				ましい。			
授業の方法 講義・実技演習・DVD・グループワークを行う。学生の疑問・質問にはリアクションペーパーも活用し、内容によって個人または全員にフィードバックしてゆく。							
テキスト 新基本保育シリーズ『子どもの健康と安全』 児童育成協会 監修 中央法規							
参考書・参考資料等 『子どもの保健と安全』 高内正子編著 教育情報出版 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』 内閣府・文部科学省 適宜、参考資料を配布、紹介する。							
学生に対する評価							
定期試験（70%） 課題提出（20%） 演習・受講態度（10%）							
履修上の注意 講義・演習ともに積極的、主体的な姿勢で取り組むことが大切。危機管理などは予測・推測が重要になるので多角的に考える姿勢が必要である。							
スマートフォン操作、写真・動画撮影は禁止。							
実務経験の有無		有		実務経験		国立医療センター、小児クリニック看護師業務、母子支援NPO	
実務経験を活かした教育内容 看護師、母子支援の経験を、現場で活かせる知識を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 特別支援保育 ナンバリング：2316		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：伊藤えつ子 担当形態：単独
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		障害児保育		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 障害児保育の理念や歴史的変遷を踏まえ、障害児及びその保育について理解できる。 2. 障害児や特別な配慮を要する子どもの援助方法や支援計画の作成について理解できる。 3. 障害児や特別な配慮を要する子どもの現状と課題を基に、家庭支援や専門機関等との連携について理解できる。				
授業の概要				
障害児や特別な配慮を要する子どもの保育の考え方や特性に応じた支援の在り方について、疑似体験や討議活動等を通し理解を深め、実践力を身につける。個別の支援計画の作成や家庭支援の在り方、専門機関等との連携について、実践的な学びを重視し自ら考え支援できる力を身につける。				
授業計画			授業時間外の学習	
第1回：障害児保育を支える理念と障害児保育の歴史的変遷 第2回：ICFに基づき障害児保育の事例について考える 第3回：乳幼児の障害特性について① 第4回：乳幼児の障害特性について② 第5回：発達障害児の理解と支援①（ASD） 第6回：発達障害児の理解と支援②（ADHD・LD） 第7回：言語障害・情緒障害児の理解と支援 第8回：障害種別に支援計画を考える① 第9回：肢体不自由児・知的障害児の理解と支援 第10回：視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 第11回：重度心身障害児・医療的ケア児等の理解と支援 第12回：障害種別に支援計画を考える② 第13回：地域の専門機関や小学校等との連携の理解 第14回：保護者や家族の理解と支援 第15回：特別支援保育の現状と課題、今後の展望 定期試験：筆記試験			・授業前に教科書を読み、疑問点について調べておく。 (週1時間以上) ・授業後は教科書や配布したプリントをもとに、内容を整理し、まとめておく。 (週1時間以上) ・保育実習や教育実習において日常生活の中で気になった子ども達の様子を記録し、演習等に活かせるようにしておく。 (3時間以上)	
授業の方法 講義、小テスト、グループ学習、討議、プレゼンテーション、ロールプレイ、課題（作文等）等を用いて行う。提出物は返却し、後に解説を行う。				
テキスト プリント配布。スライドや動画視聴による講義ノート作成。				
参考書・参考資料等				
『よくわかる障害児保育』 尾崎康子編 ミネルヴァ書房 『インクルーシブ保育論』伊丹昌一編著 ミネルヴァ書房				
学生に対する評価				
授業への参画（30%）、各授業の課題（30%）、定期試験（40%）をもとに総合的に判断し評価する。				
履修上の注意 受講に当たっては教科書を参考に事前、事後の学習を行い、演習には積極的に取り組むこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	元特別支援学校教員（聴覚特別支援学校では管理職として幼稚部の運営に当たった）	
実務経験を活かした教育内容				
特別支援学校での多くの障害種での指導の経験や、管理職として学校運営に当たった経験を活かし、知識の定着と演習による自ら考え実践する力を身に付ける授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 社会的養護Ⅱ ナンバリング：2317		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努、久米隼 担当形態：クラス分け
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		社会的養護Ⅱ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 1年次に学んだ「社会的養護」の理解を深めることができる。 2. 子どもの権利、家庭や社会のあり方について理解できる。 3. 保育士の専門性について理解できる。				
授業の概要 保育実習Ⅰ（施設）で体験・経験してきた、障害児・者への対応や、児童養護施設、乳児院等児童福祉施設で生活している子どもたちに対する支援の方法など、保育士として必要な「ソーシャルワーク」や保育士の専門性について演習課題を中心に学び、理解を深める。				
授業計画 第1回：社会的養護の理解のために 第2回：アドミッションケア（施設入所・里親委託に伴う支援） 第3回：インケア（日常生活支援・治療的支援） 第4回：リービングケア（自立支援） 第5回：アフターケア 第6回：ソーシャルワーク 第7回：記録と評価 第8回：保育実習Ⅰの振り返り①（グループワーク1：ブレインストーミング） 第9回：保育実習Ⅰの振り返り②（グループワーク3：ポスター作成） 第10回：保育実習Ⅰの振り返り③（ポスター発表） 第11回：グループ発表の準備①(パワーポイントの作成等) 第12回：グループ発表の準備②(パワーポイントの作成等) 第13回：グループ発表の準備③(パワーポイントの完成・提出) 第14回：グループ発表 第15回：グループ発表振り返り 定期試験：グループ発表、レポート			授業時間外の学習 ・授業前の予習をしっかりと行うことと、課題提出の期限を守ること。 （2時間） ・実習を行った「児童福祉施設等」に関する振り返りとそこで身に付けた対応方法などについて、グループワーク等を活用して理解を深める。 （3時間） ・施設実習の実習日誌（課題について）を活用して振り返りを行う。各自で整理しておくこと。 （3時間）	
授業の方法 グループワークを中心とした、演習形式。 前半はテキストを使用、後半は「保育実習Ⅰ（施設）」の振り返り。実習の振り返りを題材に、レポートの作成やパワーポイントの作成、発表技法の習得などを行う。振り返りのレポート作成の過程で適時アドバイスをしてフィードバックする。				
テキスト 図解で学ぶ保育『社会的養護Ⅱ』 杉山宗尚・原田旬哉 編著 萌文書林				
参考書・参考資料等 授業内で適宜プリント等配布する。				
学生に対する評価 （評価については、ルーブリック評価を活用する） レポート作成（A4…2枚、2,000文字以上必須）（50%）、グループ発表等（50%）				
履修上の注意 ・「保育実習Ⅰ（施設）」の振り返りレポートの作成。（実習課題の達成度やレポートのまとめ方） ・グループ発表は、メンバーと協力して、資料作成や発表を行うこと。（1年生への資料として活用することを前提に作成すること。）				
実務経験の有無	有	実務経験	高橋：元施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容 高橋：施設での相談業務の経験を活かし、実際の施設での子どもたちなどの状況などを説明し、社会的養護Ⅰで学んだことをさらに深められるよう事例などを取り入れた授業を行う。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子育て支援 ナンバリング：2318		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努 担当形態：単独
系 列		保育の内容・方法に関する科目		
教科目		子育て支援		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の特性と展開を具体的に理解できる。 2. さまざまな場面、対象に即した支援内容と方法・技術について、実践事例等を通して具体的に理解できる。 3. 保育士の行う保育の専門性を理解し、多角的な視点を持った保育について理解できる。				
授業の概要 保育士の行う保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の特性と展開を具体的に学び、様々な場面に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。				
授業計画 第1回：保育所・幼稚園・こども園における子育て支援とは 第2回：子育て支援の意義 第3回：子育て支援の基本 第4回：子育て支援の技術 第5回：保育士の日常と子育て支援 第6回：園内での職員連携 第7回：子どもの育ちを保護者に伝える方法とその効果 第8回：保護者参加の方法とその効果 第9回：地域の社会資源の活用と連携 第10回：子ども虐待への対応と家庭への支援 第11回：障害のある子どもとその過程への支援 第12回：貧困家庭への支援 第13回：外国につながる子どもをもつ家庭への支援 第14回：地域の子育て家庭に向けた支援 第15回：子育て支援の今後に向けて 定期試験：筆記			授業時間外の学習 授業前にテキストを読み、調べ学習等で事前学習をしっかりと行い、授業に備えること。（2時間） 特に日頃から児童福祉に関するニュースをチェックしておくこと。（1時間）	
授業の方法 講義及び演習（グループワークなど）を取り入れた授業を行う。 各授業の予習を各自がしっかりと行い、事前の調べ学習を徹底すること。 また、レポート作成等アサインメントの提出が重要である。 あわせて、授業ノートをきちんと作成すること。（ノートの提出・確認を実施する。）				
テキスト 『子育て支援』松井剛太編著 教育情報出版				
参考書・参考資料等 『保育者のための子育て支援ガイドブック』中央法規出版、 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』厚生労働省、フレーベル館 など				
学生に対する評価 （課題等の評価にルーブリック評価を活用する） 筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価。				
履修上の注意 ・授業ごとに、小テストを実施。授業の振り返りに役立てること。				
実務経験の有無	有	実務経験	元施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 音楽Ⅲ ナンバリング：2327		教員の免許状／保育士資格 取得のための選択科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：瀬戸奏 浅見彩賀、小川弥輪、田口琴巳、 野本裕美子 担当形態：クラス分け、オムニバス	
科 目／系 列		大学が独自に設定する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目							
授業の到達目標及びテーマ 1. ハ、ト、ヘ、ニ、変ロ長調、各調の3コードを理解できる。 2. 弾き歌い5曲と独奏曲2曲を弾くことができる。 3. 春、夏、生活の歌の模擬授業ができる。							
授業の概要 1. 合同授業「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容をもとに、保育現場でよく使われる曲に伴奏づけができるようになることを目標とする。簡単なコードネームによる伴奏法を身につけ、多様な即興表現を楽しむ。 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。							
授業計画 授業90分のうち、45分を合同授業（担当：瀬戸）、 45分を4クラスに分けて個人レッスン（担当：浅見、小川、田口、野本） 〈合同授業〉 第1回：オリエンテーション 第2回：春の歌 Aグループによる模擬授業 第3回：春の歌 Bグループによる模擬授業 第4回：コードネーム① ハ長調3コードの説明 第5回：コードネーム② 楽曲を用いたハ長調3コードの指導 第6回：コードネーム③ ト長調3コードの説明 第7回：コードネーム④ 楽曲を用いたト長調3コードの指導 第8回：夏の歌 Aグループによる模擬授業 第9回：夏の歌 Bグループによる模擬授業 第10回：コードネーム⑤ ヘ長調3コードの説明 第11回：コードネーム⑥ 楽曲を用いたヘ長調3コードの指導 第12回：コードネーム⑦ ニ長調3コードの説明 第13回：コードネーム⑧ 楽曲を用いたニ長調3コードの指導 第14回：生活の歌 模擬授業 第15回：3コードのまとめ 定期試験：実技(3コードによる伴奏づけ) 〈個人レッスン〉 第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：マンツーマンによるレッスン					授業時間外の学習 〈合同授業〉 模擬授業のための準備・練習（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） ハ長調3コードの練習（1時間） ハ長調3コードの練習（1時間） ト長調3コードの練習（1時間） ト長調3コードの練習（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） ヘ長調3コードの練習（1時間） ヘ長調3コードの練習（1時間） ニ長調3コードの練習（1時間） ニ長調3コードの練習（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） 3コードによる伴奏づけの練習（1時間） 〈個人レッスン〉 毎回のレッスンで課題となった曲の練習（1日15分以上、1週間に合計1時間以上）		
授業の方法 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題を行いフィードバック。個人レッスンでは一人ひとりの進度、練習に合わせてフィードバック。							
テキスト 個人レッスン レベルに合わせて選曲 合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社							
参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。 コードネームに関する資料と課題を配布する。							
学生に対する評価 合同授業内の課題（3コード）試験（30％）、と模擬授業発表（10％） 個人レッスンの受講態度（受講上の注意を守る）（20％）、 個人レッスンの課題の習熟度（個人カルテ配布）と実技試験（40％） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。							
履修上の注意 自己学習の予習、復習が大変重要である。 個々にレベルアップを目指し、実践できる力をつけられるよう練習すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		ピアノ講師	
実務経験を活かした教育内容 ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 音楽Ⅳ ナンバリング：2328		教員の免許状／保育士資格 取得のための選択科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：瀬戸奏 浅見彩賀、小川弥輪、田口琴巳、 野本裕美子 担当形態：クラス分け、オムニバス	
科 目／系 列		大学が独自に設定する科目／保育の内容・方法に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等 ／教科目							
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育・教育現場でよく使われる曲を自由に伴奏できる。 2. 曲にあったコードがつけられ、伴奏形が工夫できる。 3. 弾き歌い5曲と独奏曲2曲をレパートリーとし、その中の1曲以上を演奏発表できる。							
授業の概要 1. 合同授業 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」で学んだ内容をもとに、保育・教育現場でよく使われる曲を自由に伴奏できるようになる。コードネームによる伴奏法を発展させ子どもの表現活動を導く即興演奏ができるようになる。 2. 個人レッスン 幼児教育の為に必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指し、学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。							
授業計画 授業90分のうち、45分を合同授業（担当：瀬戸）、 45分を4クラスに分けて個人レッスン（担当：浅見、小川、田口、野本） ＜合同授業＞ 第1回：オリエンテーション・コードネームの復習 第2回：コードネームによる伴奏法の応用（ハ長調課題） 第3回：コードネームによる伴奏法の応用（ト長調課題） 第4回：秋の歌 模擬授業 第5回：コードネームによる伴奏法の応用（ヘ長調課題） 第6回：コードネームによる伴奏法の応用（ニ長調課題） 第7回：コードネームによる伴奏法の応用（変ニ長調） 第8回：移調の方法 第9回：冬の歌 模擬授業 第10回：模擬クリスマスコンサートの実施 第11回：編曲法について 第12回：編曲した曲の発表 第13回：メッセージソングの練習 第14回：模擬卒園式（メッセージソングの発表） 第15回：まとめ 定期試験：実技（「音楽Ⅳ履修者によるピアノ発表会」） ＜個人レッスン＞ 第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：マンツーマンによるレッスン				授業時間外の学習 ＜合同授業＞ 課題練習（1時間） 〃（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） 課題練習（1時間） 〃（1時間） 〃（1時間） 課題曲を移調する練習（1時間） 模擬授業のための準備・練習（1時間） コンサート演奏曲の練習（1時間） 課題曲を編曲する（1時間） 編曲した曲の練習（1時間） メッセージソングの練習（1時間） 〃（1時間） 発表会の曲の練習（1時間） ＜個人レッスン＞ 毎回のレッスンで課題となった曲の練習（毎日10分程度、1週間に合計1時間以上）			
授業の方法 合同授業と個人レッスン（ピアノ実技指導）。合同授業では課題を行いフィードバック。個人レッスンでは一人ひとりの進度、練習に合わせてフィードバック。							
テキスト 個人レッスン レベルに合わせて選曲 合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社							
参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。 合同レッスンでは課題に関する資料や楽譜を紹介する。							
学生に対する評価 合同授業内の課題（ワークシート）遂行と提出（30%） 模擬授業発表（20%） 個人レッスンの受講態度（受講上の注意を守る）（20%） 個人レッスンの課題の習熟度（個人カルテ配布）（30%） ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。							
履修上の注意 個々にレベルアップを目指し、練習をしてレッスンに臨むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		ピアノ講師	
実務経験を活かした教育内容 ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： カウンセリングⅡ ナンバリング：2330		保育士資格取得のための 選択科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：布施由起 担当形態：単独	
系 列		保育の内容・方法に関する科目					
教科目							
授業の到達目標及びテーマ							
1. カウンセリングの理論を説明できる。 2. ファシリテーターとして、エンカウンターグループを実践できるようになる。 3. ピアヘルピングを実践できる。							
授業の概要							
ピアヘルピングを実践するために必要となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深めロールプレイやグループワーク演習、サポート体験を通して実践力の向上を目指す。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：イントロダクション カウンセリングとは 第2回：カウンセリングの理論と技法① 第3回：カウンセリングの理論と技法② 第4回：ロールプレイ、グループワーク演習① 第5回：ロールプレイ、グループワーク演習② 第6回：小テスト ピアサポートとは 第7回：ピアサポートの導入、計画 第8回：ピアサポートの方法① 第9回：ピアサポートの方法② 第10回：ピアサポートの方法③ 第11回：小テスト ピアサポート体験① 第12回：ピアサポート体験の振り返り 第13回：ピアサポート体験② 第14回：ピアサポート体験の振り返り 第15回：全体のまとめ 定期試験：レポート				授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。 ・教科書や授業内で配布したプリントをもとに、前回の内容を確認し、次回の学習内容についても確認しておくこと。 ・カウンセリングの理論、技法について、教科書や授業内で配布したプリントをもとに理解したことをまとめる。 ・ロールプレイ、グループワーク演習、ピアサポート体験を振り返り、今後の課題、改善点をまとめる。			
授業の方法							
講義、グループ演習、ロールプレイを行う。單元ごとの小レポートにコメントを入れて返却する。							
テキスト 授業中に資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
『ピアヘルパーワークブッケーやって身につくカウンセリング練習帳』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化社							
学生に対する評価							
授業参画(30%)、小レポート(20%)、期末レポート(50%)。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
・受講にあたっては、事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。 ・事前に「カウンセリングⅠ」を受講していることが望ましい。							
実務経験の有無		有		実務経験		精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）	
実務経験を活かした教育内容							
精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的なロールプレイ等を取り入れて演習を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育相談と幼児理解 ナンバリング：2401		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：原口政明 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 幼児理解の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものであり、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。そして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 ＜到達目標＞ 1. 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解できる。 2. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解できる。 3. 学校における教育相談の意義と課題を理解できる。 4. 幼児の不応応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。				
授業の概要 幼稚園等における教育相談についての理論や実践的な体系について学び、子どもの発達や幼児期から思春期までの発達を見通した視点からの教育相談を進められるよう、幼児期の問題や課題などの事例を交えながら学んでいく。				
授業計画 第1回：保育者の行う教育相談の考え方 第2回：学校教育相談実践の歴史の変遷 第3回：相談実践の整理とその意義 第4回：隣接する学問や実践現場から学ぶ 第5回：日本における学校教育相談の実践整理 第6回：教育相談の進め方（1）教育相談実践の捉え方 第7回：教育相談の進め方（2）観察方法 第8回：教育相談の進め方（3）面接への視点 第9回：幼稚園における教育相談の考え方 第10回：幼児理解のために（1）子どもの発達 第11回：幼児理解のために（2）幼児期の問題・課題 第12回：実践例（1）保護者との信頼関係 第13回：実践例（2）保護者の養育力の向上 第14回：実践例（3）幼小連携の観点から考える 第15回：実践例（4）外部専門機関との連携 定期試験：筆記			授業時間外の学習 (予習・復習：1時間程度) ・図書館などを活用して、授業準備や調べ学習を行うこと。 ・教育相談に関する歴史的背景や変遷、カウンセリングに関する書籍等を読んでおく。 ・事前・事後学習で学んだことを必ずまとめておく。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
授業の方法 講義、ディスカッション。授業終了時に行う振り返り用紙にコメントを入れ返却する。 テキスト 『教師のための学校カウンセリング』小林正幸・橋本創一・松尾直博編著 有斐閣アルマ				
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）、『保育所保育指針および同解説』（最新版）				
学生に対する評価 授業参画度（30%）、課題（30%）、定期試験（40%）を考慮し評価を行う。 毎回授業「まとめと振り返り」を活用し、ルーブリック評価を行う。				
履修上の注意 子どもの発達や成長を理解できるよう様々な文献等を活用し、事前・事後学習を行うこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡回相談・教育相談、公認心理師	
実務経験を活かした教育内容 幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を基に授業をする。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 教職実践演習(幼) ナンバリング：2501		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名： 教職担当教員と教科担当 教員がチームで担当 担当形態：オムニバス	
科 目		教育実践に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもに対する使命感・責任感・教育的愛情を持って教育活動にあたる意識や姿勢・態度を身につけることができる。 2. 子どもはもとより、同僚や保護者とも良好な人間関係を構築でき、チームの一員として行動できる社会性とその基本ともいえるコミュニケーション能力を身につけることができる。 3. 保育内容と学級経営に関する知識や技術を具体的事例から追求することにより、地域ニーズも採り入れた保育計画ができ、保育における総合的指導力を身につけることができる。							
授業の概要							
保育者（幼稚園教諭）として本学で学習し身につけた知識や技術を統合して、保育現場で活躍できるよう実践的に学ぶ。現役保育者などからの具体的事例をもとに保育者としての職務の具体的内容や保育者としての職業意識を理解し身につけ、現場密着の実践的授業から信頼される保育者としての知識・技術・考え方・実践力など統合した力を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
目的達成のため授業は学生主体で、次の方法で実施する。 1）授業は学生主体の演習で行う。学生はそれぞれの学問的興味や関心にあわせて、上記目標にあわせた課題を事例研究・フィールド・ワークなどで調査研究をおこなう。 2）それに基づき、グループ討議、ロールプレイやプレゼンテーションを模擬授業の形式で行う。 3）これらを現場の現役教員（保育者や小学校教員など）や保育経験者を招いて、現場の立場から意見やコメントを求める。 4）保育現場に出向き現場での指導力を身につけるように努める。 第1回：授業オリエンテーション（本授業の目的と方法の説明） 第2回：授業に対する抱負や課題を発表（グループごと） 第3回：グループでの研究テーマと計画案を作成（発表） 第4回：文献・現場調査・教材研究などの詳細計画の作成（発表） 第5回：文献・現場調査または教材研究などの活動① 第6回：文献・現場調査または教材研究などの活動② 第7回：文献・現場調査または教材研究などの活動③ 第8回：グループでの研究発表（他グループとの質疑応答）① 第9回：グループでの研究発表（他グループとの質疑応答）② 第10回：研究成果発表の準備（教材と指導案作成）① 第11回：研究成果発表の準備（教材と指導案作成）② 第12回：研究成果の発表と討議① 第13回：研究成果の発表と討議② 第14回：保育現場に必要な知識と技術とは何か 第15回：幼稚園教諭に必要な要件（資質・技術など）とは何か（討議） 定期試験：全体発表（課題や目標達成度の確認と発表）				（毎回 90 分程度） 保育現場で即戦力として子どもの前に立てよう実践的な態度と技術を身につけるため、毎回の授業では、単位制度の意味をよく理解して、事前学習と事後学習を行うこと。 調査研究などは事前の準備と事後の検証が非常に重要である。 研究成果発表などは、準備とフィードバックなしには効果が期待できない。この準備と検証には時間をかけることが重要である。 毎回の授業の振り返りと次回に向けての事前準備は重要である。学生同士の意見交換なくしては、この授業は成立しないので準備は怠りなく。 課題は担当者からも指示するが、自らが課題を見つけて、課題解決に向かって学習することが重要である。			
授業の方法							
グループワークを中心に行う。授業に立体感を持たせるために教室を離れてフィールドでも行うことがある。学生や教師との意見交換を中心に進めるが、保育・教育現場を見学し、調査をするほか、外部の現役保育者を授業に招聘するなど現場に密着した授業を展開する。毎回の授業終了時に学習内容を振り返り適時フィードバックを行う。							
テキスト 授業において指示する。							
参考書・参考資料等 適宜紹介する。							
学生に対する評価							
授業参画度(50%)、マイクロ・ティーチングと準備資料等(30%)、発表(20%)							
履修上の注意							
学生主体の演習で行うので、学生はそれぞれの学問的興味や関心にもとづき、目標設定をし、事例研究・フィールドワークなどの調査・研究を通して、教育現場での指導力を身につけるよう努めること。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：小澤和恵 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 一人ひとりの音楽表現の可能性を広げ、保育者、教育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけることができる。 2. 「音楽」という現象を捉えることから「音楽のもつ力」を考え、「音楽」を体感する楽しみを理解できる。 3. 楽しい音楽会を企画できる発想力を養い、実際に、企画、運営することができる。							
授業の概要							
「音楽」とは何かを学び、「音楽のもつ力」を考え、様々な音楽活動に取り組む。保育者、教育者として必要な感性と表現力を身につけ、子どもにとって楽しい音楽活動を展開できるようにする。							
授業計画					授業時間外の学習		
第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供「音楽の力」 第3回：話題提供「子どもにとって音・音楽とは」 第4回：「子どもと音楽」 活動のための研究① 第5回：「子どもと音楽」 活動のための研究② 第6回：「子どもと音楽」 活動のための研究③ 第7回：「子どもと音楽」 活動研究発表・意見交換① 第8回：「子どもと音楽」 活動研究発表・意見交換② 第9回： アンサンブルを楽しむ① 第10回：アンサンブルを楽しむ② 第11回：季節や行事にあわせたコンサート企画・練習① 第12回：季節や行事にあわせたコンサート企画・練習② 第13回：季節や行事にあわせたコンサート企画・練習③ 第14回：季節や行事にあわせたコンサート 第15回：まとめと今後への課題発見 定期試験：レポート					(各課題に対し1時間程度) 話題に対しての調べ学習 教材研究 アンサンブル練習 企画・練習 コンサートに向けての練習 学びをまとめ、自己課題発見 レポート作成		
授業の方法 教員からの話題提供とディスカッションで授業を進める。 音楽活動については、演習と発表によって、表現力を高めていく。評価表を提出してもらい一人ひとりの取り組み状況と課題に合わせたアドバイスでフィードバックする。							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 授業内で指示する。							
学生に対する評価							
・授業への参画度、調べ学習の成果、音楽活動に対しての練習と発表に取り組む姿勢と企画力・表現力を、達成度が記入できる評価票（ルーブリック評価）を基準に評価する。(60%) ・レポート(40%)							
履修上の注意							
音楽表現に対する興味・関心をもち、積極的な取り組みを期待する。							
実務経験の有無		有		実務経験		元中学校音楽科教諭	
実務経験を活かした教育内容							
音楽授業実践の経験を活かし、音楽活動の楽しさを伝えられるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：小澤俊太郎 担当形態：クラス分け
系 列		総合演習		
教科目		保育実践演習		
授業の到達目標 1. サウンドスケープの定義について理解し、保育における音環境に意識を向けることができる。 2. こどもの音環境について、自分の考えや意見を発表することができる。 3. ICTを活用した独自のサウンド・エデュケーションの課題を考え、実践することができる。				
授業の概要 1. 領域「表現」で保育者に求められるこどもを取り巻く「音」に関する内容を、カナダの作曲家であるマリー・シェーファーが提唱した「サウンドスケープ」の考えを手掛かりに研究を行う。 2. これからの新しい保育を考える上で欠かせない「情報通信技術（ICT）」についての理解を深め、「サウンド・エデュケーション」における活用について研究する。				
授業計画 第1回：サウンドスケープを体験する（フィールドワーク） 第2回：サウンドスケープについて 第3回：サウンド・エデュケーションとリトル・サウンド・エデュケーション 第4回：保育所保育指針とサウンドスケープの関わり 第5回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践① 「音さがしの本」より 課題1～13 第6回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践② 「音さがしの本」より 課題14～25 第7回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践③ 「音さがしの本」より 課題26～39 第8回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践④ 「音さがしの本」より 課題40～53 第9回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践⑤ 「音さがしの本」より 課題54～66 第10回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践⑥ 「音さがしの本」より 課題67～77 第11回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践⑦ 「音さがしの本」より 課題78～89 第12回：リトル・サウンド・エデュケーションの実践⑧ 「音さがしの本」より 課題90～100 第13回：サウンドマップの作成 第14回：ICTを活用した独自のサウンド・エデュケーションの課題を作る 第15回：オリジナルの課題を発表 (定期試験：研究発表)			授業時間外の学習 シラバスを事前に確認する (30分) テキスト①のi～xを読んでおく (1時間) 事前に講義資料を理解する (1時間) 保育所保育指針を読み、「音」に関する記述箇所を整理する (2時間) テキスト①P3～23までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P24～37までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P38～55までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P56～73までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P74～91までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P92～105までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P106～119までを事前に読んで理解する(1時間) テキスト①P120～133までを事前に読んで理解する(1時間) 事後学習として、自宅周辺のサウンドマップを作成する(2時間) 事前に課題について考える（1時間） 発表準備（1時間）	
授業の方法 毎回の授業開始時に、テキスト「音さがしの本」で紹介されているエクササイズを行う。 教員から具体例などの提供を行い、授業を展開していく。また、「サウンドスケープ」に関する文献や論文に関する内容を基に、学生同士でディスカッションすることで、学びを深めていく。 iPad等のICT教材を用いて授業を行い、授業の振り返りや記録、それらに対するフィードバックは全てオンライン上で行う。				
テキスト ①『音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション』マリー・シェーファー・今田匡彦著（春秋社）、②『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』石井玲子編著（保育出版社）				
参考書・参考資料等 『サウンド・エデュケーション』マリー・シェーファー著（春秋社） 『新装版 世界の調律 サウンドスケープとはなにか』マリー・シェーファー著（平凡社） 『保育所保育指針』平成29年告示 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成29年告示 『幼稚園教育要領解説』平成29年告示				
学生に対する評価 授業の取り組みと振り返り（50％）、授業内での発言（30％）、課題の発表（20％）。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。				
履修上の注意 「得意・不得意」は問わないが、ICT教材を使うことに「興味・関心」を持ち、自発的な活動ができる学生の履修を期待する。				
実務経験の有無		無	実務経験	
実務経験を活かした教育内容				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：加藤房江	
						担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育士として必要な専門的知識及び技術、深い教養、総合的な判断力、倫理観等を修得することができる。							
2. 保育に関する現代の課題・現場を分析し、それらの対応として、保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察することができる。							
3. 自己の課題を明確にし、保育実践に際して必要な基礎的な資質・能力を定着させることができる。							
授業の概要							
本授業では、子どもの活動や発達を予測し、保育に必要な専門的知識及び技術、教養、総合的な判断力、倫理観等を修得する。保育士に求められることは何か、考察し、保育実践に必要な基礎的な資質・能力を定着していく。また、教材や遊びなどの児童文化財を考えて制作し、演じ方などを研究していく中で、保育現場で活用出来る教材の制作や保育技術を考察する。そして、保育現場で実際に活かせる制作物や技術を習得し、子どもへの援助をするには、どのような方法があるかを学んでいく。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理観について 第3回：社会性、対人関係能力について 第4回：子どもやその家族の理解、職員間の連携、関係機関との連携について 第5回：保育や子育て家庭に対する支援の展開について 第6回：各自テーマをもとに課題解決向け内容や方法 第7回：研究活動・制作① 第8回：ゼミ内発表会・他のゼミとの交流 第9回：自己の課題の明確化と研究活動 第10回：研究活動・制作② 第11回：研究活動・制作③ 第12回：研究活動・発表準備① 第13回：研究活動・発表準備② 第14回：授業内発表会 第15回：まとめと今後の課題発見 定期試験：研究発表				授業時間外の学習			
				・保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理観について今まで学んだことを復習しておく（1～2時間程度）。			
				・研究活動の多くは、授業時間外の学習や活動である。そのため日頃から研究し、計画的に取り組むこと（予習、復習に1～2時間程度の時間）。			
				・実習や保育者になった時のことを意識しながら、教材研究を行い、アイデアを集めておく。			
				・幼稚園・保育所実習に向けて準備や制作などを進める。			
				・授業内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においては身近な人などに模擬演習をしておく（1～2時間程度）。			

授業の方法			
保育士として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、グループ討論やロールプレイング等を交え研究活動を進める。教員からの話題提供や自己課題を把握する中で、各自調べ学習を行い、研究したものを発表することにより、実践力を高める。制作過程において改善点を伝え成果発表後に実践力向上に繋がるフィードバックを行う。			
テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 各自必要な本について案内する。			
学生に対する評価			
ルーブリック評価・研究に取り組む意欲・態度（40%）、制作物（30%）、成果発表（30%）を総合的に評価する。			
履修上の注意			
研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。			
保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。			
実務経験の有無		有	実務経験
			元保育士、元主任保育士
実務経験を活かした教育内容			
保育士の経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容を行うことで、保育者として必要となる力を身に付けられること見据えた授業を行う。			

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位		担当教員名：金美珍	
保育実践演習				(半期) 演習		担当形態：クラス分け	
ナンバリング：2601							
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもの遊びや運動の重要性を理解できる。							
2. 子どもたちが心と身体をイキイキさせながら遊びや運動を行うために保育者はどのように支援すべきかを考えることができる。							
3. 運動遊びのプログラムを作成し、模擬保育と振り返りを通して、子どもたちへの運動遊びの支援方法を身につけることができる。							
授業の概要							
現代の子どもは身体を使った遊びや運動をする機会が減っている。その結果、子どもの心と身体に様々な影響を与えている。そこで本授業では、子どもの運動や遊びに焦点を当て、社会的背景を視野に入れた遊びの変遷や、その影響について考察するとともに、子どもたちの遊びへの支援方法を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション				・話題についての自主学習（1時間）			
第2回：現代社会における子どもの身体と遊び①				・指導案作成の資料収集（1時間）			
第3回：現代社会における子どもの身体と遊び②				・発表準備（1時間）			
第4回：現代社会における子どもの身体と遊び③				・成果発表の振り返り（1時間）			
第5回：身体を使った遊びの指導案作成①				・話題についての自主学習（1時間）			
第6回：身体を使った遊びの指導案作成②							
第7回：身体を使った遊びの指導案作成③							
第8回：発表準備							
第9回：成果発表①							
第10回：成果発表②							
第11回：成果発表の振り返り							
第12回：子どものスポーツ①							
第13回：子どものスポーツ②							
第14回：子どものスポーツ③							
第15回：領域「健康」をめぐる課題と保育実践まとめ							
定期試験：筆記							
授業の方法 演習、ディスカッション、グループワーク作業・発表。発表に対しフィードバックのコメントをする。							
テキスト 特に指定しない。							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。							
学生に対する評価							
指導案発表（40％）、授業への取り組み・討論への貢献度（30％）、発表（30％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
・子どもの身体や遊び、そして現代社会における諸問題について関心を持ち、自主的に授業に臨むこと。							
・必ず大学指定のジャージと運動シューズで出席すること。							
・積極的な態度で演習に取り組むこと。							
実務経験の有無		無		実務経験			
実務経験を活かした教育内容							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：久米隼 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育者として必要な専門知識及び技能を身につけることができる。 2. 子育てをめぐる地域社会の現状や課題等を把握・分析することを通して、地域の特性をいかした保育実践を追求することができる。 3. 一連の学びをとおして「見る・聴く・体験する・議論する・調べる・まとめる・伝える・発信する」ことなどを経験し、その力を具体的に身に付けることができる。							
授業の概要							
保育者として子どもの生活環境を考える際に、家庭、幼稚園・保育所等のみならず、幅広く「地域」の視点もあわせもつことで、保護者や子ども、地域の住民等から「信頼される保育者」近づくことができる。本演習では、地域の子育てについて調べ、訪問し、時にはボランティアの活動をとおして調査研究し、レポートの提出および研究発表を行う。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション（保育士に必要な地域理解力） 第2回：調査・研究活動①（地域の概念整理） 第3回：調査・研究活動②（地域社会の状況把握） 第4回：調査・研究活動③（調査研究） 第5回：調査・研究活動④（自治体の子育て支援） 第6回：調査・研究活動⑤（NPO等の子育て支援） 第7回：調査・研究活動⑥（その他の子育て支援） 第8回：調査・研究活動⑦（親と子を取り巻くネットワーク） 第9回：研究中間発表 第10回：発表資料作成① 第11回：発表資料作成② 第12回：レポート作成① 第13回：レポート作成② 第14回：発表準備 第15回：研究発表・振り返り 定期試験：レポート ※履修学生の研究テーマや希望に応じて、調査・研究活動の一環で学外演習（フィールドワーク）による調査・研究活動を行う（詳細は授業内で説明をする）。				授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 具体的には ・地域における子育てを取り巻く現状と課題の把握。 ・各自設定するテーマにあわせた調査研究活動。 ・最終的にレポートにまとめるため、自らの考えや体験を言語化できるように日々意識した記録をとる。 ※その他、図書館等での文献調査、現場の見学やボランティア参加などを伴う場合がある。			
授業の方法 「地域」「子育て」などをキーワードに、各自でテーマを設定し、調査・研究を進め、ディスカッション等を経て、最終的にレポートにまとめ、発表する。履修学生の希望や設定したテーマにあわせて学外演習（フィールドワーク）等も適宜実施する。課題等にはコメントを記入して返却する。 ※演習内容によっては交通費や入場料、材料代など個々に実費負担が生じる可能性がある。							
テキスト 授業内で必要な書籍や資料を紹介する。							
参考書・参考資料等 『保育者のための子育て支援ガイドブック』中央法規 授業内で適宜プリント等を配布する。							
学生に対する評価 授業参画度（50％）、レポートおよび研究発表（50％）を総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。							
履修上の注意 履修する学生各自が本演習の重要な一員であることを忘れずに参加すること。							
実務経験の有無		有	実務経験	子育て支援に取り組むNPO組織の運営・実践 等			
実務経験を活かした教育内容							
非営利組織（NPO）等の運営や活動に携わった実践経験をいかし、具体的事例をもとに授業をする。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択					
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：瀬戸奏						
					担当形態：クラス分け						
系 列		総合演習									
教科目		保育実践演習									
授業の到達目標及びテーマ											
1. 音楽が子どもに与える影響・効果を理解し、保育者として場面に合った活用方法を考えることができる。											
2. 音楽を楽しんで表現するための歌唱法を身につけることができる。											
3. コンサート企画を通し、発想力とコミュニケーション能力を養うことができる。											
授業の概要											
音楽分野の中でも「歌唱」に焦点をあて、音楽が心身に与える効果を体感しながら様々な活動を行う。子どもが豊かな音楽に触れることができるよう、まずは自身が知識・技術を身につけて楽しむことができる力を養う。											
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供「音楽と記憶の結びつき」 第3回：話題提供「音楽と身体の結びつき」 第4回：「音楽が子どもたちへ与える影響」研究 第5回：「音楽が子どもたちへ与える影響」研究発表・意見交換会 第6回：正しい呼吸法・発声法 第7回：日本語の発音法 第8回：言葉の取り扱い・詞から情景を思い浮かべる 第9回：ハーモニーを楽しむ① 第10回：ハーモニーを楽しむ② 第11回：学内コンサート企画・制作 第12回：学内コンサート練習① 第13回：学内コンサート練習② 第14回：学内コンサート発表 第15回：まとめと今後への課題発見 定期試験：課題発表				授業時間外の学習 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する)							
				・テーマに沿った楽曲探し、調査、研究を進める							
				・講義内容の復習、楽曲を用いた実践							
				・アンサンブル練習							
				・コンサートに向けての企画							
				・コンサートに向けての練習							
				・コンサート発表の振り返り							
				授業の方法 教員から話題提供を行い展開していく。そして、学生が中心のディスカッションを通してテーマを設定、研究発表・学内コンサートを行う。発表後に自己評価表を提出、教員からのコメントによりフィードバックする。							
				テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。											
学生に対する評価											
授業への参画度・歌唱に対しての練習と発表に取り組む姿勢 (50%)、学内コンサート (50%)											
履修上の注意											
歌唱に対し興味・関心をもち、各自目標を設定し授業に取り組む。											
実務経験の有無		無		実務経験							
実務経験を生かした教育内容											

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：高橋努 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 児童虐待の現状や対応策等について理解し、実践できる。 2. 「オレンジリボン運動」の啓発等に関する研究や活動を行うことで、将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。							
授業の概要							
保育実習等を通じた自らの体験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：学習の進め方について、研究テーマ・研究計画書の作成 第2回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（1） 第3回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（2） 第4回：調査・研究活動（他大学の活動について） 第5回：調査・研究活動（過去のオレンジリボン運動について） 第6回：調査・研究活動（論文等の検索） 第7回：中間報告 第8回：レポート作成の流れについて 第9回：レポート作成（1） 第10回：レポート作成（2） 第11回：発表準備（調査・研究活動の成果発表）（1） 第12回：発表準備（調査・研究活動の成果発表）（2） 第13回：発表会（ポスター発表） 第14回：まとめ（レポート発表 前半） 第15回：まとめ（レポート発表 後半） 定期試験：レポート				1. 児童虐待防止に関する情報を集める（2時間） 2. 児童虐待やオレンジリボン運動の情報を集め、その対応方法等について理解を深める（2時間） 3. 文献資料等を参考に、児童虐待防止の歴史的背景やオレンジリボン運動・子ども食堂等についても学習をする（2時間） すべてにおいて調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。			
授業の方法 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。調査・研究を進める中でそれぞれの課題に対しコメントする。							
テキスト 授業内で必要な書籍を紹介していく。							
参考書・参考資料等							
授業内で適宜プリント等配布する（過去のオレンジリボン活動等の報告書等）。							
学生に対する評価							
授業中間で行う報告会（50%）、レポート課題（50%）＊評価には、ルーブリック評価を活用する							
履修上の注意							
・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるようになることを目標とする。 ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。 それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容							
施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：塚越亜希子	
保育実践演習		必修科目		(半期) 演習		担当形態：クラス分け	
ナンバリング：2601							
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育士として必要な専門知識及び技能についての力を総合的に身につけることができる。							
2. 実習を通じた体験をもとに、保育における現代的な課題について理解し、地域や社会に求められている保育について広い視野から理解することができる。							
3. 実習や実践を通して、それらを振り返り、自己の課題を明確にできる。さらにそれらを次の実践力につなげるための課題と具体的な方法を考えることができる。							
授業の概要							
保育士として必要な保育に関する専門的知識および技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等を習得、形成するために、討議、ロールプレイ、実践を用いて考察を深める。また保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。これらの学びを踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着して、自らの学びを振り返り、さらなる実践につなげる力を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：保育者として必要な専門知識を考える。(1)				(毎回事後にまとめる 30分程度)			
第2回：保育者として必要な専門知識を討議する。(2) クラス運営				1. 保育所保育指針の熟読(60分)			
第3回：保育者として必要な技術を具体的に挙げて考える。				2. 実習でのクラス運営調べ(60分)			
第4回：保育者が必要な技術について意見交換と学び合いをする。				3. 保育技術を考える(40分)			
第5回：保育者に必要な技術について制作実践し、学び合う。(1)				4. 保育技術の実践準備(90分)			
第6回：保育者に必要な技術について制作実践し、学び合う。(2)				5. 保育技術発表の準備(90分)			
第7回：地域社会から求められるものについての意見交換をする。				6. 保育技術の発表準備(90分)			
第8回：実習の学びを踏まえ、自己の課題を明確にする。				7. 保育者に求められるものについての考察(40分)			
第9回：自己課題について発表する。意見交換をする。				8. 実習を踏まえた自らの課題の追求と発表準備(90分)			
第10回：現代の保育に求められる人間関係についてのロールプレイ				9. 実習を踏まえた自己課題とその解決について発表準備(60分)			
第11回：自らの得意な保育分野の研究発表の準備をする。				10. 求められる保育考察(40分)			
第12回：得意分野の研究発表をする。(1)				11. 得意分野の研究発表計画(90分)			
第13回：得意分野の研究発表をする。(2)				12. 得意分野の研究発表準備(90分)			
第14回：実践に対する、評価、反省、について学ぶ。				13. 得意分野の研究発表準備と振り返り(90分)			
第15回：発表後、保育者としての知識、実践力について話し合う。				14. 保育計画実践の評価反省(60分)			
定期試験：研究発表				15. 保育者としての知識と実践力についてまとめる(90分)			
				まとめ提出			
授業の方法 演習、制作、実践、発表の中でそれぞれの課題に対しコメントする。							
テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。							
学生に対する評価 受講態度等(40%)、制作物(40%)、実践発表(20%)。							
履修上の注意							
予習・復習を必ず行い、内容を理解した上で授業に臨むこと。積極的に授業に参加して活発な発言や演習を行うこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容							
私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得等について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身に付けられるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名：		保育士資格取得のための		単位数：2単位		担当教員名：花島慶子	
保育実践演習		必修科目		(半期) 演習		担当形態：クラス分け	
ナンバリング：2601							
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもの最善の利益を考慮し、倫理観、人間性及び保育士の職務及び責任が理解できる。							
2. 乳幼児期の発達の特性を理解し、実情に応じた柔軟で応答的な環境の必要性が理解できる。							
3. 体験的学習を通し、自己に向き合い、自ら必要な課題を明確に捉えることができる。							
授業の概要							
乳幼児教育・保育現場において現在求められている保育に焦点を充て、学生の主体的意識を高め、授業を展開していく。子どもの活動において注目されている「主体的」「探求心」「五感を生かし感性を育む」などを授業に取り入れ学生自身がその必要性を体験する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション				・授業課題に対し、コミュニケーション能力を培うことを目的にディスカッションを行う。また、日頃から探求的活動を意識して、乳幼児が興味を持つ保育を考案し、内容をまとめる。（授業準備に1～2時間程度）			
第2回：乳幼児期において現在求められる保育について							
第3回：五感を生かして感性を育む①							
第4回：五感を生かして感性を育む②							
第5回：遊びを通した総合的な指導について①							
第6回：遊びを通した総合的な指導について②							
第7回：遊びを通した総合的な指導について③							
第8回：環境を通した保育の探求①				・研究活動においては、ICTを活用し、ラーニングストーリーを作成していくため、テーマにあわせた情報を自主的に収集する。（予習・復習1～2時間程度）			
第9回：環境を通した保育の探求②							
第10回：環境を通した保育の探求③							
第11回：研究活動①							
第12回：研究活動②							
第13回：研究活動③							
第14回：ゼミ発表会				・PDCAサイクルを意識した継続的な授業になることから自己課題を明確にする（1～2時間）			
第15回：まとめと今後の課題							
定期試験：研究発表							
授業の方法							
グループワークや体験的学習により現場で即戦力となるべく力を育む。授業後に行う振り返りや教員からのフィードバックにてPDCAサイクルを意識し保育への研究を深めていく。ICTを利用した研究。							
テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。							
学生に対する評価 授業参画度・ルーブリック評価（40%）、研究課題作成（30%）、発表（30%）							
履修上の注意							
専門分野で活躍することを意識し、主体的に活動し、感性を培うこと。							
常に探求心をもち、周囲とコミュニケーション取り、楽しく活動すること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元保育園園長、元幼稚園教諭、元学童指導員	
実務経験を活かした教育内容							
幼稚園教諭、公立保育所保育士、学童クラブ指導員、認可保育園園長としての経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：原口政明 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ 1. 幼児期の問題や課題などの事例を理解し、テーマを設定することができる。 2. テーマに沿って、アクティブ・ラーニングにより課題を追求していくことができる。 3. 困っている幼児・保護者へのかかわり方・相談支援について理解できる。							
授業の概要 困っている幼児・保護者の実態とかかわり方・相談支援の方法等について理解し、設定したテーマに沿った調査研究をし、研究発表を行う。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供① 幼児期の問題や課題の現状 第3回：話題提供② 幼児・保護者への教育相談の実際 第4回：各自のテーマ・研究デザインの設定・資料収集① 第5回：各自のテーマ・研究デザインの設定・資料収集② 第6回：研究デザイン発表 第7回：調査研究① 第8回：調査研究② 第9回：調査研究③ 第10回：研究中間発表 第11回：調査研究④ 第12回：調査研究⑤ 第13回：発表準備① 第14回：発表準備② 第15回：全体のまとめ 定期試験：研究発表				授業時間外の学習 研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切にする。 (授業毎に2時間程度) 授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。 教育相談の現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実態についての理解を深めておくことが望ましい。 (日数は適宜)			
授業の方法 演習、発表、文献研究、アクティブ・ラーニング (プレゼンテーション・ディスカッション)							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 授業において適宜プリント資料を配布する。							
学生に対する評価 授業参画度 (20%)、レポート (10%)、研究デザイン発表 (10%)、中間発表 (20%)、研究発表 (40%)、「まとめと振り返り」用紙からルーブリック評価を実施							
履修上の注意 ・課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行う。							
実務経験の有無		有		実務経験		元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡回相談・教育相談	
実務経験を活かした教育内容 幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を元に授業をする。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 （半期）演習		担当教員名：布施由起 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ 1. 特別な配慮を要する子どもの心情が理解できる。 2. 保育場面で特別な配慮を要する子どもの対応を、遊びや環境調整を通して実践できる。 3. 特別な配慮を要する子どもの保護者に支援方法を説明できる。							
授業の概要 特別な配慮を要する子ども（被虐待児、場面緘黙、発達障がい児、他）に対する心理的支援について学ぶ。保育の集団場面でどのように関わっていくべきか、どのような遊びを通して心の成長を育むかについて探求し、実際に支援に使えるアイテムの作成なども行う。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：教員による話題提供・各自テーマの選定 第3回：具体的な支援方法についての学び 第4回：遊びを通じた支援方法についての学び 第5回：調査・研究活動① 第6回：調査・研究活動② 第7回：調査・研究活動③ 第8回：中間報告・ディスカッション 第9回：調査・研究活動④ 第10回：調査・研究活動⑤ 第11回：調査・研究活動⑥ 第12回：発表準備① 第13回：発表準備② 第14回：発表準備③・ディスカッション 第15回：全体のまとめ 定期試験：研究発表				授業時間外の学習 ・各自気になる子どものテーマに関する文献を読み学習を進め、計画的に研究活動を行うこと。 ・保育実習などで様々な子どもの観察を行い、定型発達の子どもの理解も深めておく。 ・施設見学やボランティア活動を積極的に行い、特別な配慮を要する子どもの理解を深められるよう自主的に学ぶ。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。			
授業の方法 各自テーマを設定し、調査・研究を進め、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。他者のプレゼンテーションや教員のコメント等から自らの調査・研究を深めていく。							
テキスト 必要に応じて授業内でプリントを配布する。							
参考書・参考資料等 参考図書は授業内で指示する。							
学生に対する評価 授業参画度（40％）、レポート・製作（30％）、研究発表（30％）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意 事前の準備、事後のまとめをしっかりと行い、積極的に調査・研究活動に取り組むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）	
実務経験を活かした教育内容 特別な配慮を要する子どもの支援の方法について、実践的な授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実践演習 ナンバリング：2601		保育士資格取得のための 必修科目		単位数：2単位 (半期) 演習		担当教員名：三友玲子 担当形態：クラス分け	
系 列		総合演習					
教科目		保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養、総合的な判断力、倫理観等を習得することができる。 2. 自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、その課題への対応として求められるものは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させることができる。							
授業の概要							
実習等の経験をもとに、保育者として勤務する前に身につけておきたいことをテーマとし、調査・研究、演習等を行い、保育の実践に必要な知識・技術を習得する。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション				・各自保育に関する課題を見つけ、研究テーマを決定する。			
第2回：これまでの学びを振り返り、今後の課題・研究テーマの決定				・研究活動は、授業外での調査研究が必要であるため、参考となる資料や文献を読み、計画的に調査・研究を進めること。			
第3回：調査・研究				・模擬発表を行うなど、発表に向けて準備を進める。			
第4回：調査・研究				・授業の事前学習・事後学習に1～2時間程度を要する。			
第5回：調査・研究							
第6回：調査・研究							
第7回：中間報告							
第8回：ゼミ間交流							
第9回：制作・実践演習							
第10回：制作・実践演習							
第11回：調査・研究							
第12回：発表準備							
第13回：発表準備							
第14回：ゼミ内発表会							
第15回：全体のまとめ							
定期試験：研究発表							
授業の方法 実習などの経験やこれまでの学習の振り返りから各自テーマを設定し、調査・研究を進める。ディスカッション、演習、グループワーク等を行う中で学びを深める。授業のまとめ・振り返りプリントにコメントする。							
テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。							
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。							
学生に対する評価 授業参画度(30%)、レポート(20%)、中間発表(20%)、研究発表(30%)。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。							
履修上の注意							
事前準備をしっかりと行い、積極的に調査・研究を進めること。							
実務経験の有無		有		実務経験		元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容							
保育者の経験を活かし、実践的な授業を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育実習Ⅰ（保育所） ナンバリング：2801		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 （10日間）実習	担当教員名： 加藤房江、三友玲子 担当形態：複数
系 列		保育実習		
教科目		保育実習Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育所等の役割や機能を具体的に理解し、子どもの観察や関わりを通して、子どもへの理解を深めることができる。 2. 既習の学習内容を踏まえ子どもの保育・保護者の支援について総合的に理解できる。 3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学び、保育士の業務内容や職業倫理について理解できる。				
授業の概要 本授業は、実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に保育所実習に臨むための授業である。授業で学んだことを基礎として具体的に保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、保育実践を行うことが重要である。子どもの保育や保護者の支援、保育の計画・観察・記録等を実践的に理解を深める。				
授業計画 保育所実習（前半） 実習は2年次の7月に協力保育所にて10日間行う。 前半実習においては、観察型実習及び参加型実習を中心に行う。 観察型実習 保育実践の現場や保育の様子を観察することにより、保育所の保育方針や一日の流れなどを知る。また、保育者と子どもとの関わりを通して保育者の社会的役割や子どもとの接し方を学ぶ。 参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開を理解する。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを学ぶ。 全体的な計画に基づく指導計画の理解、記録の省察・自己評価を行い、保育方針や保育計画に基づく日々の保育活動との関連を理解する。 専門職としての保育士の業務内容、職員間の役割や連携、保育士の役割と職業倫理を理解する。			授業時間外の学習 （各1～2時間程度） ・事前に実習先の保育所に 関する情報を集める。 ・実習先の保育所についての 情報を集め、保育方針等の 理解を深める。 ・発達に合わせた保育技術を 高めて、実践できるように 十分準備をしておく。 ・実習を行なったクラスの 子どもの発達の様子や健康 管理、安全対策、食育の取 り組み等、指針や教科書を みて理解を深めておく。	
授業の方法 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。				
テキスト 『実習の手引き』埼玉純真短期大学				
参考書・参考資料等 ・実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。 ・『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林				
学生に対する評価 実習園からの評価(50%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(50%)から総合的に評価。				
履修上の注意 ・「保育実習指導Ⅰ」を必ず履修すること。 ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。 ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	加藤：元保育士、元主任保育士 三友：元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容 保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応する。				

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育実習指導Ⅰ (保育所) ナンバリング：2802		保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名： 加藤房江、三友玲子 担当形態：クラス分け
系 列		保育実習		
教科目		保育実習指導Ⅰ		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育実習の意義・目的を理解し、実習内容と実習の課題を明確にできる。 2. 子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務等を理解できる。 3. 実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について理解し、実習の総括や自己評価を通し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にできる。				
授業の概要 具体的な保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、実践的な力を身につける。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を理解し実習の総括や自己評価を通し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 保育実習の意義・目的とは 第2回：保育士の使命と役割 実習生調書作成1 第3回：0・1歳児の保育 実習生調書作成2 第4回：2歳児の保育 オリエンテーションについて 第5回：3歳児の保育 実習日誌の書き方1 第6回：4歳児の保育 指導計画の立て方1 第7回：5歳児の保育 指導計画の立て方2 第8回：実習に際しての留意事項 第9回：実習日誌の書き方2 第10回：乳幼児の発達と遊び 第11回：実習における計画と実践1 第12回：実習における計画と実践2 第13回：実習における観察、記録及び評価1 第14回：実習における観察、記録及び評価2 第15回：事後指導における実習の総括と課題の明確化 定期試験：レポート・指導案等			授業時間外の学習 ・実習関係の書類を揃え、実習先に関する情報を収集し整理する（1～2時間程度） ・保育所保育指針を熟読し、ねらいの意味を理解する。 ・保育技術の向上と教材研究と考察 ・指導案を作成する ・日誌の記述方法を学ぶ。 ・季節の歌や場面に応じた曲のピアノレッスンを常に行う。 ・メディア等における保育関連記事に興味を持って、読み込む。	
授業の方法 テキストや参考資料を活用し、講義形式で行う。必要に応じて課題作成を行う。調書や指導計画等の提出物にチェックをし、返却してフィードバックする。				
テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学				
参考書・参考資料等 実習日誌、適宜プリントを配布 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）				
学生に対する評価 ルーブリック評価・授業意欲・態度(50%)、制作物・レポートや課題の内容（50%）				
履修上の注意 保育実習Ⅰ（保育所）を必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。 本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。実習を通して何を学ぶのかを常に念頭におき積極的態度で学習に臨むこと。				
実務経験の有無	有	実務経験	加藤：元保育士、元主任保育士 三友：元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容 保育者としての経験を活かし、実習に必要な準備や実習生としての学ぶ態度、保育の実際について実践的に学べる授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実習Ⅱ（保育所） ナンバリング：2805		保育士資格取得のための 選択必修科目		単位数：2単位 （10日間）実習		担当教員名： 加藤房江、三友玲子 担当形態：複数	
系 列		保育実習					
教科目		保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育所の役割や機能、保育の理解や認識、具体的な実践を通して学び、子どもの観察や関わりの視点を明確にして、理解を深めることができる。							
2. 授業や実習を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができる。							
3. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めるとともに、実習における自己の課題を明確化できる。							
授業の概要							
「保育実習Ⅰ（保育所）」で学んだ知識や技術を更に深め、保育実践力を身につける。							
授業計画				授業時間外の学習			
保育所実習（後半） 実習は2年次の9月に協力保育所にて10日間行う。 後半実習においては、参加型実習及び指導型実習を中心に行う。				発達に合わせた保育技術を高めて、実践できるように十分準備をしておく（実習までの期間毎日 2～3 時間程度の時間が必要）			
参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開の理解を深める。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを理解する。保育方針や全体的な計画に基づく指導計画と日々の保育活動との関連を理解する。環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。登園・降園時における保護者との関わりを経験し、子育て支援について学ぶ。				・ 目的意識・実習の課題を踏まえ、実習日誌の記入を丁寧に行い、翌日提出し指導を受ける。			
指導型実習 配属されたクラスの全体的な計画に基づく指導計画を立案し、指導者として保育を担当する。準備・実践・省察・評価の全過程を経験し、指導者としての職務を体感・理解する。保護者に対する子育て支援や地域社会等の連携を理解し、自己の課題を明確化する。				・ 実習担当の先生の指導を仰ぎながら、実習準備を行う。			
				・ 年齢に合わせた、指導案の作成を行う。			
授業の方法 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。							
テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学							
参考書・参考資料等							
・ 実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。							
・ 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版）『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版）『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林							
学生に対する評価							
実習園からの評価(50%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(50%)から総合的に評価							
履修上の注意							
・ 「保育実習指導Ⅱ」を必ず履修すること。							
・ 実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。							
・ 保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		加藤：元保育士、元主任保育士 三友：元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容							
保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実習指導Ⅱ ナンバリング：2806		保育士資格取得のための 選択必修科目		単位数：1単位 (半期) 演習		担当教員名： 加藤房江、三友玲子 担当形態：クラス分け	
系 列		保育実習					
教科目		保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲ					
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育について総合的に学び、講義で学んだ内容や「保育実習Ⅰ（保育所）」の経験や既習の教科を踏まえ、保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について理解できる。 2. 保育の観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。 3. 事後指導や自己評価・伝え合いを通して、保育に対する課題を明確にすることができる。							
授業の概要 本授業は保育について理解を深め、保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について遵守すべき内容について自覚し、子どもへの深い愛情と使命感を持って、将来の保育者としての活動に役立つよう確かな知識・技能・保育技術の修得を深める。実習後は、自己の課題を明確化し、得られた知識や技術をまとめて発表することで、保育の現場で必要な力を身につける。							
授業計画 第1回：オリエンテーション、実習の自己評価 第2回：子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回：子どもの保育と保護者支援 第4回：子どもの状態に応じた適切な関わり 第5回：保育の知識・技術を活かした保育実践 第6回：保育所実習に関するレポート作成 第7回：制作に関する指導計画作成① 第8回：制作に関する指導計画作成② 第9回：保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第10回：保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第11回：保育実践力の育成（指導要録等の記載方法について） 第12回：実習の総括と課題の明確化 第13回：実習伝え合いのため資料作成 第14回：実習伝え合い 第15回：保育士の専門性と職業倫理 定期試験：レポート・制作物、課題等				授業時間外の学習 (各1～2時間程度) ・お礼状の作成を行う。 ・自己評価や課題の明確化を認識し、発表準備を行う。 ・子どもの前で演じるものの制作を通して、教材研究を行う。 ・就職先を意識した「月のおたより」の作成を行う。 ・就職先を意識した月案作成を行う。 ・保育者としての実践力を高めるための知識や技術を深める。 ・自己評価や課題をまとめ成果と技術の獲得を発表する。			
授業の方法 演習。各自の主体的な授業参加が求められる。ディスカッション等を取り入れ、学びを深化させる。 提出物にチェックをし、返却してフィードバックする。							
テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学							
参考書・参考資料等 ・実習日誌、適宜プリントを配布 ・『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林							
学生に対する評価 ルーブリック評価・授業意欲・態度(50%)、制作物・レポートや課題の内容（50%）							
履修上の注意 <u>保育実習Ⅱ（保育所）も必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。</u> 本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。保育所実習を通して学んだのかを常に念頭におき積極的な態度で学習に臨むこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		加藤：元保育士、元主任保育士 三友：元幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容 保育者としての経験を活かし、実習に学んだことを基に保育者として必要な学びができるような授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実習Ⅲ（施設） ナンバリング：2807		保育士資格取得のための 選択必修科目		単位数：2単位 （10日間）実習		担当教員名：高橋努	
						担当形態：単独	
系 列		保育実習					
教科目		保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 「保育実習Ⅰ（施設）」で学んだことを実践できる。 2. 児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設における社会的養育の実情を理解できる。 3. 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。							
授業の概要							
既に学んだ教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能、業務内容、職業倫理について理解する。地域と家庭との連携、保護者や家庭支援のための知識、技術、判断力を習得し、実習における自己の課題を理解し今後につなげていく。							
授業計画				授業時間外の学習			
2年次の9月以降、施設との調整のうえ10日間（休日を含む）の実習を行う。 【実習課題（実習テーマ）】 「保育実習Ⅰ」において、理解できた点、残された課題等を整理して、自らのテーマを選定し、日々の記録をおこない、課題達成に向けて努力すること そのために、課題は明確であり、かつ、簡潔であることが望ましい。 【参加型実習】 本実習は、「保育実習Ⅰ」において学んだことをもとに、担当者の補助的役割を果たしながら、施設養護や支援の方法について実践的な理解を深める。 定期試験：レポート				・専門分野的な実習になる。 「保育実習指導Ⅲ」で基礎的な知識をしっかりと学習したうえで、実習に臨むこと。 （2時間） ・事前学習は、「利用者理解」と「家族支援」など多岐にわたる。文献検索など事前学習をしっかりと進めること。 （4時間）			
授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設（保育所を除く）及び障害者施設等での実習。フィードバックについては、施設からの評価をもとに、個別面談を実施。							
テキスト 『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社							
参考書・参考資料等							
・実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。							
学生に対する評価 （課題の評価については、ルーブリック評価を活用する） 施設実習の評価（50%）、課題（50%）							
履修上の注意							
・年度初めに「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」との希望調査を実施する。その際、「保育実習Ⅲ」を選択した学生が履修することになる。 ・「 <u>保育実習指導Ⅲ</u> 」を必ず履修すること。 ・将来、施設保育士等を目指す学生が履修することが望ましい。 ・児童虐待や発達障害に関する相談支援等について理解を深めたいと思う学生が履修することが望ましい。 ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。							
実務経験の有無		有		実務経験		元施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容							
施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明する。実習先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。							

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 保育実習指導Ⅲ ナンバリング：2808		保育士資格取得のための 選択必修科目		単位数：1単位 （半期）演習		担当教員名：高橋努 担当形態：単独	
系 列		保育実習					
教科目		保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲ					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 実習にむけて、あいさつや服装など生活全般のマナーなどを身につけ、実践できる。 2. 将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。							
授業の概要							
児童福祉施設等における実習の意義と目的について理解を深め、施設保育・社会的養育について総合的に理解する。既習の実習や教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得し、観察、記録および自己評価等から施設保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。事後指導では、総括と自己評価を行い、今後の課題を明確にする。							
授業計画				授業時間外の学習			
第1回：オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等) 第2回：児童福祉施設について（振返り）（1） 第3回：児童福祉施設について（振返り）（2） 第4回：実習目標の考え方と実習生調書の書き方（1） 第5回：実習目標の考え方と実習生調書の書き方（2） 第6回：児童発達支援センター等体験学習（1） 第7回：児童発達支援センター等体験学習（2） 第8回：児童発達支援センター等体験学習（3） 第9回：外部講師（施設職員）による講演（児童館館長） 第10回：模擬授業（グループワーク実践①チーム） 第11回：模擬授業（グループワーク実践②チーム） 第12回：模擬授業（グループワーク実践③チーム） 第13回：実習の振返り（グループワーク） 第14回：実習の振返り（プレゼンテーション資料の作成） 第15回：実習の振返り（プレゼンテーション） 定期試験：レポート				「保育実習Ⅲ（施設）」がスムーズに実施できるよう、以下の学習が必要となる。 1. 配属先の施設に関する情報を集める（1時間） 2. 配属先の利用者や児童についての情報を集め、理解を深める（2時間） 3. 文献資料等を参考に、児童福祉施設の歴史的背景等についても学習をする。（2時間） これら調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。			
授業の方法 講義形式で行う。また、児童発達支援センター等児童福祉施設での体験学習を行う。提出課題に対しコメントをして返却する。							
テキスト 『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社							
参考書・参考資料等 授業内で適宜プリント等配布する（施設パンフレット等）。							
学生に対する評価 （課題評価については、ルーブリック評価を活用する） 授業の中間で行う筆記テスト（50%）、提出課題（50%）							
履修上の注意							
・ 保育実習Ⅲの履修を必ず 忘れないこと。 ・施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。 ・履修登録時、記載漏れが多いので、 チェックを忘れずに行うこと。							
実務経験の有無		有		実務経験		元施設勤務（社会福祉士）	
実務経験を活かした教育内容							
施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設と連携した実践に近い授業を行う。							

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育実習（幼稚園）Ⅰ ナンバリング：2809		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位 （通年）演習	担当教員名： 花島慶子、塚越亜希子 担当形態：クラス分け
科 目		教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育実習		
授業の到達目標及びテーマ 1. 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。 2. 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のものとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。 3. 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。				
授業の概要 本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解し、さらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。				
授業計画（事前授業） 第1回：幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解 第2回：園の経営方針及び特色ある教育活動 第3回：実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について 第4回：幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方 第5回：学級担任の補助的役割について 第6回：視聴覚教材などを用いた保育とその方法 第7回：幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分及び責任実習指導案の立案 第8回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成などを実地に即して身に付ける） (事後授業) 第9回：教育実習で得られた成果と課題の話し合い 第10回：日誌を見てエピソード記録などを出し合い 第11回：園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。 第12回：園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。 第13回：実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。 第14回：実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。 第15回：実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。 定期試験：パワーポイントを作成し、実習の成果と課題を発表する。			授業時間外の学習 ・実習校の園環境や方針（調書作成）・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認(オリエンテーション依頼)・保育の観察方法と日誌の記録の取り方・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案(巡視用地図作成)・幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表(1時間) ・日誌や指導案を用いて自らの実践を振り返る。(1時間) ・園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。(お礼の手紙)(1時間) ・実習を振り返り、成果と自己課題をまとめる。(1時間) 実習の成果と課題を発表する。(1時間)	
授業の方法 講義。演習。提出された指導案についてフィードバックを行う。実習園からの評価をもとに個人面談。				
テキスト 『平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社、『実習の手引き』埼玉純真短期大学				
参考書・参考資料等 適宜配布				
学生に対する評価 授業参画、(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物及びルーブリック評価(40%)				
履修上の注意 本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。幼稚園実習（前期・1週間）（後期・3週間）とも事前、事後指導を必ず受けること。				
実務経験の有無	有	実務経験	花島：元幼稚園勤務、元保育園園長 塚越：元幼稚園勤務	
実務経験を活かした教育内容 花島・塚越：幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。				

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名： 教育実習（幼稚園）Ⅱ ナンバリング：2810		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数：4単位 (4週間) 実習		担当教員名： 花島慶子、塚越亜希子 担当形態：複数	
科 目		教育実践に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育実習					
授業の到達目標及びテーマ （１）前期幼稚園教育実習（観察実習） ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実に即して記録できる。 ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。 ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。 （２）後期幼稚園教育実習（参加実習） ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。 ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。 ③学級担任の役割と職務内容を実施に即して理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。							
授業の概要 幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。							
授業計画「前半／基本実習」（1週間 ・ 1年次） 第1回：園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第2回：幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。 第3回：事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園記録の取り方を習得する。 第4回：園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。 第5回：幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第6回：幼児とのかかわりを通して。自らの課題を把握する。 第7回：部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半／責任実習」（3週間 ・ 2年次） 第8回：園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動のねらいとその指導の意図に気付き記録する。 第9回：教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。 第10回：幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。 第11回：クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案（細案）を作成し提出する。 第12回：指導教員のもとでねらいを持った「部分実習」を行う。 第13回：「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。 第14回：「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。 第15回：指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し、改善する。				授業時間外の学習 （１）幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。(1時間) （２）実習先の幼稚園に関する情報を集め。日誌に書き入れる。(1時間) （３）日誌の書き方を基に一日の出来事を指導教員に学びつつ丁寧に書く。(1時間) （４）幼児の発達年齢を理解し、それぞれの特徴を踏まえて実習に臨む。(1時間) （５）年齢ごとの指導案作成。(1時間) （６）パネルシアター、ペープサート、絵本読み、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。(1時間) （７）季節の歌や生活の歌など歌の伴奏や歌を場面や必要に応じて指導できるようにする。(1時間)			
授業の方法 実習。実習日誌と実習園からの評価をもとに個人面談をしてフィードバックを行う。							
テキスト 『よく分かる幼稚園実習』百瀬ゆかり 創成社、『実習の手引き』 埼玉純真短期大学							
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館							
学生に対する評価 実習園の評価（50％）、実習日誌・事前事後の取り組み（50％）から総合的に評価。							
履修上の注意 ○「教育実習（幼稚園）Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。 ○実習資格は、幼稚園教育実習に直接かわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること。							
実務経験の有無		有		実務経験		花島：元幼稚園勤務、元保育園園長 塚越：元幼稚園勤務	
実務経験を活かした教育内容 花島・塚越：幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。							

2023 年度 シラバス

2023 年 4 月 1 日発行

編集・発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

電話 048-562-0711 (代)



埼玉純真短期大学 初代学長 福田敏南先生



埼玉純真短期大学